

EPISODE GUIDE



The New Century

UG 123 150

CG 2345

GUNDAM

CONTENTS

巻頭言 → Preface → 2

ニュータイプなき後の希望劇出装画 → Hope Building Measures post NewType → 4

お姫さまとお姫さまと、普通の男の子 → Princess, young lady and common boy → 10

軍事テクノロジーのエクソシスム → Exorcism of military technology → 16

世界観/キャラクター&メカニックガイド/エピソードチェック → Worldview/Characters&mechanism/Highlight of GUNDAM

機動戦士ガンダムF91 → 14

機動戦士Vガンダム → 36

∀ガンダム → 64

ガンダム設定資料集 → The Design Works of GUNDAM → 81

モビルスーツ・スペックリスト → MOBILE SUIT Spec List → 140

3作品をつなぐ線 → Line connecting 3 works → 142

戦場に響く魂の叫び → Cry of soul,echoing in the battle field → 144

ビデオ、LD、DVD、CD、小説ガイド → Visual&Sound Guide → 148

ガンダムシリーズ・スタッフ&キャスト → Filmography → 152

索引 → Index → 157

ニュータイプなき後の 希望創出装置

Hope Building Measures post Newtype

文=福井晴敏 写真=亀井一郎



「しかし、クロスボーン・バンガードの基本理念にも、コスモ・バビロニア建国について数億年の経る理念にも、その基本の論議になんの便りもないのである。

誤りは、実行したという点のみである」

映画「機動戦士ガンダムF91」の小説版、「機動戦士ガンダムF91 クロスボーン・バンガード」で、富野由悠季は創作上の敵役であるクロスボーン・バンガードの行動をそう叙述する。

言っていることに間違いはなくても、それを現実の行動に移してしまった瞬間から必然的に間違いが生まれる。このめくらましのような論理は、映画「機動戦士ガンダム 逆襲のシャア」でのアムロ・レイのセリフ、「インテリは夢みたいな目標を掲げて革命を起こしておきながら、それが官僚や大家に呑み込まれて現実化してゆけばバカを前にすると、運命する」と、相似影をなすようでいて、実はまったく異なる立脚点から見せられている。

「逆襲のシャア」までの第一期シリーズと、「F91」から「機動戦士Vガンダム」に至る第二期シリーズとの間には、現実社会 的に日本社会の変遷と呼応する時代感覚の溝が横たわり存在している。極論すれば保守勢力と革新勢力の対立、旧弊に汚れた権威への挑戦を遂げて訪れてきた第一期シリーズに対して、第二期シリーズは、既成の価値観が崩壊した時点からのスタートを余儀なくされているのだ。

そこでは、ニュータイプという言葉すらもはや軌いにはなり得ない。保守があつてこそその革新なのだから、保守が見えない時代では革新も生まれようがない。挑戦する価値観がなくなった世界においては、価値観の再創出こそが至上命題となる。それは若き革命家の仕事ではなく、人生の辛酸をなめ尽くした老人の仕事だ。

ゆえに、クロスボーン・バンガードのミッツアー・ロナも、木星帝国のクラックス・ドゥガチも、ザンスカール帝国のフォンセ・カガチも老人でなければならなかった。真空地帯となった地球圏に新たな秩序の建設を目論む彼らは、夢のような目標を現実化させるために、一見前時代的とも思える強圧的な施策を人類に強要しようとする。それを残忍だ、非人道的だと非難する者に対しては、このまま放つての限りを尽くしていれば人類は減少、と数億年を喰ひつづける。人類全

体がじわじわ死滅するよりはよからう、今は我々の時代なのだと思ふ老人たちに、確固とした価値観を持ってない大人社会は反論する言葉が失う。それは革命家というより、価値観なき時代に登場した新たな保守勢力の姿だ。

ニュータイプの世界に希望を置く若き革命家、シャア・アズナブルに対しては絶望になり得たアムロのセリフも、彼ら老人たちには通用しない。老人たちはそんなことは承知の上で事を起こしている。彼ら第二期シリーズの敵役たちを結集するには、やはり原作者富野の言葉がもっとも相応しい。

その理念は正しい。ただ実行に移してしまったことが恨みののだと。

「逆襲のシャア」までの第一期シリーズの根柢をなすものは、「いら立ち」だった。

一年戦争がもたらした災厄からならんも学ばうとせず、地球からすべてのスペースコロニーを管理運営できると夢想した連邦政府。地球に住まい続けることをステータスと信じ、地球環境を汚染し続ける一部特殊農業者。彼らの意気正を正当化するために横暴する、旧弊に汚れた連邦法。これらに代表される人間の愚昧、意憤に対する「いら立ち」が、シャアやハマーン・カーン、マフティーことハサウェイ・ノアを行動に駆り立て、ギレン・ザビやバブタマス・シロッコのような独裁志向者を暴走させてきた。

「宇宙」という新しい環境を得て、人類が新たな進化の戸口に立とうとしている時に、なぜスペースノイドがアースノイドの一元化下に潰れなければならないのか」と叫び、独立戦争＝一年戦争を仕掛けたジオン公国によって、スペースノイドの「いら立ち」は初めて明文化される。それは従くクリプス戦役、ハマーンのクレイジーウーを経て、「逆襲のシャア」で描かれたネオ・ジオンの地球凍結計画に受け継がれていくのだが、ここで重要なのは保守の権化たる地球連邦政府の横柄なのだ。第一期シリーズにおける地球連邦は、人口の半分を先に至らした一年戦争の疲弊を袖所に眺めながらも、ある種の絶対者＝大衆が屈服し得る個體組織の象徴として描かれている。

では、それに対峙する者たちはどう描かれていたか。ジョン・ダイクンが語ったニュータイプ希望論を軸に曲げ、求心力として利用するという「政略」を实践し、超人類化時代の花形兵器たるモビルスーツを積極的に開発して戦艦に投入、コロニー落としやガス攻撃などの大規模戦争を仕掛けて連邦人民の意気をくじくという「戦略」を実行に移したジオン公国は、対等の力を持つ一方の絶対者となった。戦争勝利に不可欠な「政略」と「戦略」をもって連邦に迫ったジオン公国には、スペースノイドの自治権獲得という目的（根柢にギレンの従性思想が潜んでいたわけだが）を、一時的にせよ実現するのではないかと思わせるだけの力があつた。しかし一年戦争終結以降、ジオン公国に匹敵する「政略」と「戦略」をもって連邦に敵しようとする者は、第一期シリーズには現れていない。

ジオンの後継であるテラース・フーフトにしろアクシズにしろ、大規模兵器を用いた「戦略」を展開はするのだが、いせせんは局地戦という印象が拭えず、連邦の戦術を振るがごとく終結する。同じ連邦軍から派生したエウゴとティターンズの振

争も「戦略」のやりとりでしかなく、連邦人民を味方に取り込む「戦略」の部分に欠けていたために、軍組織の内紛という以上の意味は示せなかった[エウゴが実行したカールの謀略はジョックは一見「戦略」だが、ティタノスの発表に主眼が置かれていた上、肝心の演説内容が観念的でありすぎたために、人心を掌握するには至らなかった] 彼我兵力差が圧倒的である以上、「戦略」のみで連邦政府に対抗するのはとて不可能な話だ。現政権を凌駕する具体的な政治目的を有権者に提示し、内部から政権を収奪する「戦略」に力を入れるのが道理だが、中央議会の選挙票をアースノイドが握っている連邦政府を相手に、スペースノイドの自治権を要求する組織が展開できる「戦略」には限りがあった。彼らが唱える「地球温存説」「人々の新説」は、文明批判や哲学的命題にはなっても、政治目的に転換し得る確信のものではない。連邦政府が野郎の態度を取ったのは当然の帰結だった。

かくして連邦という絶対者に対する「いら立ち」は、「戦略」を欠いたまま、「戦略」一点張りという無手段な方法論を取って爆発する。一年戦争以降の対地球連邦戦争が、国家間の対立戦争には昇華せず、大規模な過激派テロといった印象に終始しているのはそのためだ。自明の理としてどこかで敗北を承知していても、行動を起こすには「いら立ち」が、彼らに耐えぬ戦いを決意させた。それは意図が一つ、慢性的保守に対する若き革新たちの怒りであり、無類に儲けに飽きた既成の権威者への挑戦でもあった。

逆襲のシャア、のシャア・アスナル率いるネオ・ジオンの行動はその典型と言える。数世代かけて戦争費民収容コロニー・スウィートウォーターを拠点化。資源小惑星を地球に落下させるという低コスト戦術で連邦を悩まし、連邦高官を買収して割譲させたアクシスを武装兵器に用いるという、「戦略」的には見事な展開をみせるが、ジオン公国の「戦略」の犠牲者という経歴のためか、政治に対して本能的な嫌悪感を持つシャア自身の性格が露呈して、「戦略」に関しては意図的と思えるほどの無関心を示す。

アクシスを地球に落下させて根を絶ち、地球に残り続ける者をすべて粛正して、アースノイドとスペースノイドの戦争の歴史に終止符を打つ。そこまではよいが、以後、何百とあるスペースコロニーを束ねる政治理念については、「父・ジオン・ダイクンの遺志を継ぎ ニュータイプの発生を促す土壌育成に努める」としたのみで、非常に曖昧だ。これはシャアが事後的に政治運営に興味を持てなかったためで、彼はたまたまニュータイプの発生を阻害する連邦の政策。宇宙時代の現実を見ようとなしアースノイドに対する因襲な「いら立ち」に駆られ、絶対者たる連邦政府とその継承である地球を破壊しようとする。その確信のない一途さは、年齢とともに若さと純粋さを失いつつある己への異りでもあったのだろう。

大人になることを拒絶している男。シャア。彼の挑戦に対して、連邦政府は信じられないほどの財力・武力を振り撒く。それは絶対的なシステムを構築しているようでありながら、次世代の若者になんの正義も掲げず、想定外のトラブルを前にすると簡単に付和雷同する日本社会の写し鏡だ。そして一地方都市以下の勢力しか持たない軍団に、容易に国家との対決が可能なたけの力を付与し、局地的なゲリラ戦を全面戦争に変えてしまう兵器の存在。すなわち技術の進歩という言葉

が持つ闇、怪しさ。—— 機動戦士ガンダム から

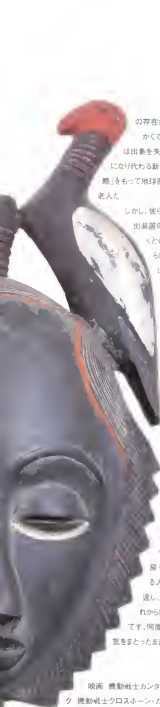
逆襲のシャア に連なる第一期シリーズを貫く、それがひとつのテーゼであった。

総じて 逆襲のシャア までの時代は、無定見な大人に物申すという若い世代の「意気」が、敵役の核を形成していたのたと言える。それがドラマの中においてはひとつの勢力を生み出すほどの求心力を発揮し、幅広い観客・視聴者の共感を呼んだのは「ニュータイプ」という言葉が絶対的な「希望」となって、闘争の歴史の背後に控えていたからに他ならない。

今はたまたま、ニュータイプの時代が来ればすべて解決される。その時はすぐ近くまで来ている。そう信じられたからこそ、絶対者たる連邦政府への挑戦は一面の正義たり得た。「戦略」が見出せないうらや、何度でも臨みにしられようか、くり返される戦いには意味があった。ニュータイプが「希望創出装置」となって機能することで、すべての悲劇は覆われていたのだ。

たか F91 以降、ニュータイプという言葉は意図的に物語世界から隠蔽される。一部のキャラクターにその能力が見え隠れするものの、ドラマ全体を救う希望にはなり得ず、かつて流行した悲劇のひとことと片付けられて、それ以上の運搬は見えない。

そこに、第一期シリーズと第二期シリーズを隔てる時代感覚の溝を見出すことができる。民主議会政治に対する絶望——既成の価値観の崩壊、地球連邦政府の腐敗——絶対者の不在。第二期シリーズを覆う地球圏の状況は、それぞれパワフル崩壊による経済神話の喪失、五五年体制の終焉という形で日本社会にも当てはまる。そのような時代を生きる視聴者・読者に、既成の価値観を疑えと言っても響きはしない。絶対者なき時代には、改革者の存在意義もまたあり得ない。必要なのは、新たな価値観を創出し、自らが絶対者になろうとする「新・保守」



の存在だ

かくてニュータイプ待望論は色褪せ、若き改革者は出巻を失う。第二期シリーズの敵役たちは民主政治になり代わる新しい主義を唱えて事を起こし、「政略」と「戦略」をもって地球圏の覇権に乗り出す。その中心人物は全員、老人だ。

しかし、彼らの語る政治理念が、劇中において希望創出装置の役割を果たすことはない。その理念は正しくとも、実行に移してしまっただけで済んである彼らは、ひとりの人間が監督できるほど人や世界はちっぽけなものではない、という教訓ひとつを残して凋落の道をたどる。彼らの決断は旧世紀から宇宙世紀に連なる戦争の歴史に組み込まれ、人が発生した時から絶えず繰り返してきた繰り返しのひとつと蓋をされて、地球圏は再び真空地帯に取り覆される。

他語のラスト、理念に汚れた両腕を露呈する老人たちを、若き主人公たちが打ち破る姿に与りあえる希望を見出せるものの、ニュータイプなき後の世界を生きる若者たちは、自らのうちに生まれた能力を人類全体の希望と捉えることはできない。ファースト・ガンダム のラストでアムロが得た安寧は得られないのだ。

ニューフロンティアは再び戦乱の荒野に足を踏み出し、ヒト・アノナスは「人かニュータイプにならずとも宇宙とつきあっていける方法」を模索するために独立フロンティア・エンビは失われた子供時代を取り戻そうとするかのように故郷に帰るが、多すぎる人の死を目撃してきたその目は老成の域に達し、すでに少年の輝きを失ってしまっている。これから確かしい未来が開けるという予感はずいぶん持てず、何處でも同じ過ちがくり返されるだろう不穏な空気をまとったまま、トラムは一応の終局を見る。

映画 機動戦士ガンダムF91、その直接の続編に相当するコミック 機動戦士クロスホーン・ガンダム、そしてTVシリーズ 機動戦士V

ガンダム 第二期シリーズの標的にされるのは、もはや「いら立ち」を感じるのさえ懐疑な「希望」だ。

だがそれは、決して厭世感に囚われただけの物語ではない。「ニュータイプなき後の希望創出装置」は、最終と第二期シリーズの中に存在する。第三期シリーズ（と言っているのかどうか）「マガンダム」で明確に示されるそれは、ニュータイプ待望論より現実的で深く、ある意味で地に足のついたものだ。

ニュータイプなき後の希望創出装置、それは「希望」の連続の中にこそある。

F91 の敵役、クロスホーン・ハンガートの決起は、創立者マイツァー・ローナの「希望」から始まっている。

商品回収業を中心とする企業グループ「フノホ・コンサルティング」の二代目当主であるマイツァーは、一代で企業財閥を築いた父の閉鎖かつ潔癖な生き方を敬愛し、自らもストイックな人間であろうとする。企業家として政府高官やコロニー公社の重役たちと接し、社会や政治の裏側を知り抜いている彼の目には、今の人類は「節度を失ったエゴの肉塊」としか見えない。現行の連邦政府が存続する限り、人類が遠くから自らの生活圏を食い潰してしまおうとすることを予見したマイツァーは、フノホ・コンサルティング傘下に「貴族主義」を標榜する政治結社「クロスホーン・ハンガート」を結成。地球圏に新たな秩序をもたらさんとする大望を密かに抱いていた。

貴族主義とは、「人類は、統治者たる資質を持つ貴族者にその配給を委ねるべきである」とするもので、市民の代表が議会を運営する現行民主主義政治を真っ向から否定する考え方。市民革命以後の人類の競争の歴史、エゴの加速は、すべて統治者たる資質のない者に国家運営が任されてきたことに起因している。地域の利権代表者でしかない議員に、国家百年の大計が立てられようか。国の運営は、存亡の危機にあっては民の先頭になって戦い、その存亡をもって生きる規範を示せる貴人にこそ委ねるべきである。その主張には、制度疲労の極みに達した地球連邦政府を脅かし、現行政府への不満を募らせる人民を振り向かせるだけの力があった。

しかしマイツァーは当初、軍事行動を起こそうとはしない。武力で解決できることなどなにもないとして了解していたからだ。彼の重鎮を純粋に受けた長男、ハウゼリー・ローナが連邦議会に出し、政府の内部改革に努めていたからでもある。彼が決起を成遂するのは、ハウゼリーが反対降参の手にかかって暗殺され、緩やかな内部改革などあり得ないという「希望」を突きつけられた時だ。

コロニー公社に叛旗を送り込み、軍産複合体を介して私設軍艦の存在を黙認させるなど、すでに十全の「政略」を展開していたマイツァーは、最初の制圧目標をフロンティア・サイドに定める。地球と月の中間に位置するフロンティア・サイドは、双方から攻撃される危険性がある場所である反面、地球と月、コロニー群との交易を遮断できる地政学上の要衝だ。彼らは「戦略」に関しても抜け目なく事を運ぶの忘れなかった。

フロンティア・サイドの制圧完了後、マイツァーは「コスモ・パリオニア」の建国を宣言。貴族主義による地球圏統治という自身の大望を開陳するとともに、貴族主

星を襲って軍を出航していた長女ナディアの星、ベラ・ローナを女王として招納し、民衆を擁護するアイドルに使うという「政略」を推し進める。「我々は自らを統治者になり代わろうとするものではない。統治者たる貴族を持つ貴人の登場を持ち、星の人口増殖を画策するための前衛である」。その間、一方、ハウゼリーの忘れ形見であるシェリン・ローナに「コスモ・ウルス」なる宗教団体を任せて、民衆の反叛を宗教で受け止める「政略」まで展開するマイツァー。これに対して、連邦政府は統一した見解も対抗策も打ち出せず。連邦軍は独自の判断で断発的な攻撃を仕掛けるばかりで、クロスボーン・ハンガードにはまったく歯が立たない。決戦は成功したように見えたが、マイツァーには人知れぬ裏面があった。

それは、ベラ・ローナとの会話の中で開らずも明らかになる。統治者たる貴族を持つ貴族者が本当に存在し得るのか。いたとしても、何がどのような方法を用いてその貴族を判断するのかが。女王として招納される前にはごく普通の家庭で育ち、市井の人の生活のありようを洞悉しているべうには、どれだけの言葉を尽くされても納得がゆかず、祖父であるマイツァーに「でも、それは理想です」と言ってしまう。マイツァーは反論せずに「……ああ」とだけ答える。

ここに至って、貴族はマイツァーにもなんの自信も根拠もなかったことが明らかになる。理想は正しい、しかし実現はできない。実現を強要すれば、そこに必ず間違いが生まれる。第二シリーズを貫くテーマ——正しいことを正しく享受できない人間という星への「絶望」、それでも行動を起こさずにいられなかった老人の無力と信念が、ここから立ち上がってくる。ベラはクロスボーン・ハンガードを率いる有実実行者たらんとする画策家理念に順応できているマイツァーは、無情の力口ッ・ローナ——今は敵面と名を冠している男に、ラフレシア計画の真意を語る。対人戦兵器「バグ」による無作為殺害によって人間の九割を排除し、人口を統治しやすい数にまで引き下げようというのだ。「このまま無闇に人が増え続けて減滅するよりはいい。人間は豊饒の時代を迎えたのだ」と同じ、大量殺戮を敢行したマイツァーは、しかし一歩の画策で生残者を保護する者に対しては、厭厭する間に絶対的な正義が生まれるという真理を軽視しすぎている。

討ち死に覚悟で叫び立てきた有志連邦軍、フロンティア・サイドの市民抵抗軍の協反軍に、ラフレシア計画は失敗に終わる。クロスボーン・ハンガード内部でも反叛の声が上がリ、以後、コスモ・ノビロニアは崩壊の道をとり始める。

同星の大量殺戮計画は「クロスボーン・ガンダム」の敵艦、木星帝国総統のクラックス・ドゥガチも実行する。木星星の開発に初期の頃から携わり、水も空気もゼロから作り出さなければならない。人が住むには育ちうる環境で順調に生育に耐えてきたドゥガチにとって、アースノイドとスペースノイドという区分けは意味を持たない。地球星に存在する者は、地球在住者はもちろん、スペースコロニーや月に住む者も含めてすべて同穴の蟲。地球に特別な感情を抱くことさえなく、月や資源小惑星と同等の資源採取基地に過ぎないという見解。密かに木星帝国を脱走し、開拓使節を率って地球星に軍を進めたのは、地球にありあまる資源を消費したためだ。

だがそれは開拓を促すための欺瞞で、ドゥガチの真の目的は地球の破壊にあった。水も空気も食料もコロニーで作り出せる今、人間が地球に頼る必要はない。

地球は異様な鉱物資源基地に姿を、すべての人間はスペースコロニーの人工環境下で暮らす。生産も人口も消費も統治者が一元管理し、安定した管理体制のもとで発展を目指す——。最終目標にニュータイプ望望があるかないかの違いだけで基本的にシヤアが企及した地球滅亡と同じだが、「地球滅亡」という発想がないドゥガチは、大量の核・化学兵器をもって地球を死の國に変えようとする。そこには、七十余年の木星星開発を通して、「人間は地球から離れては暮らせない」と脅身に染みて悟ってしまった男の、血を吐くような「絶望」が潜んでいる。

木星星がひとつの國家として機能するようになった時、地球連邦政府はドゥガチを取り込もうと政治結婚を仕組んだ。それだけでも屈辱的な事案だったが、ドゥガチを真買打ちのめしたのは、妻になるべく送られてきた女の、地球で育たなければ得られない「やさしさ」と「豊かさ」だった。人が人らしく生きることができるのは結局、地球だけ——木星星開発に携けた自分の生涯、そのすべてが否定されたドゥガチは、地球という人間の無所を踏破することで自己肯定を試みようとしたのだ。畢竟、それは個人の私利私欲でなく、ドゥガチの死をもって木星帝國の決起は決意する。

連邦の崩壊体は「バグ」で、いよいよ極まり、地球星では各スペースコロニーの独立運動が相次ぎ、宇宙戦艦時代としても呼ぶべき権威を失っている。そんな中、「マリア主統」を謳ってザンスカール帝國を打ち立てたフォン・セカチも、「絶望」からのスタートを期した男だ。

人生の大半を地球—木星星間を往復する輸送船団の中で過ごし、ドゥガチ側面、人類にとって地球がいかに必要不可欠な存在であるかを思い加ったカチ。地球星に戻ってきた彼は、人類が地球という環境のもとに育ち育ち不慮に死に、再開発にも情を振りつけた汚染や、あくなき闘争の歴史を顧視しているまを目的の地たりにして「絶望」する。地球—母なるものという闘式から、「母なる存在のもとで、すべての人間が安らぎの中に生きる社会」——すなわち太古の母系社会の再創造を目指したカチは、母系社会への探求を断るマリア主統を断絶する政治武装集団「ガチ党」を結成。サイド2の政権を握るや、ヒーリング能力を持つ女性、マリア・ビッター・モニアを女王に頂くザンスカール帝國をサイド2に確立し、地球星の統一に乗り出した。

カチの「政略」は単純かつ結果的だ。中世の基利武器・ギロチンを使





福井噴霧

1968年東京都葛飾区生まれ。私立千代田学院大学中退。90年「Twins Y.O.」で第44回江戸川乱歩賞を受賞し作家デビュー。翌91年に発行した受賞第1作「亡国のイージス」は賞2賞大塚和彦賞、第16回日本本格派小説賞会大賞、第45回日本推理作家協会賞長篇賞をトリプル受賞した。他に漫画「ターンエーガンダム」(上・下)がある。

させ、帝国に送らうとは又々これに返り込み、戦争においてさえも成を見る機会
の少なくなった宇宙時代の人々を心面直上とせしめ、同時に、女王
マリアのヒーリング能力を一般国民に体験させる「マリアの祭典」を
定期的に催し、各系社会の「愛と平和」をアピールする。い
わゆる神と成る巧みに使い分けて、人心を掌握していった
のだ。「戦略」は巨大富貴郷・カリスグリーで進捗の観点

一攻撃を仕掛ける「地球クリーン作戦」と、いづれも情場を目的とする大がかりなものが多かったが、これらは後の「エンジェル・ハイロウ」を用いた作戦のための前哨戦でしかなかった。

居住ノキリキリと中絶シ、エンジェル・ハイロイは、女王マリアを中絶し、精神研宄能力を持つ二万人からのマリア信者の基本を破壊・放射することによって、一服のマインド・コントロールを行うシステムだ。エンジェル・ハイロイを使って地球上のすべての人間の意識を遠達させ、死に至る寒い眠りに陥らせる。血を流さない大量殺戮をもって地球に安寧をもたせよう、それがカガチの最終目的だった。しかし、ゴロウチンに代表される恐怖政治を帝国軍内部にも持ち込み、狂信失教に崩壊をみえ通したことが、ヴァンセル・帝国を内部から破壊してゆく。マリアを救ったこと、抵抗運動組織リガ・メリディアに全気覚悟の臨陣特攻を仕掛けれられ、カガチの野望は本城で覆れられた。

理念はそれぞれ異なっている。「増えすぎた人口を減らす」という一点で共通している老人たちの行動。その結果は、延々と続く戦争の死を助けた反戦において希望されてゆく。兵士と敵とをくぐりぬける。『絶望』の道標……。

が、ここでも悲惨な戦争の歴史を積み重ねながら、まだ人間は生存し続けている。何処かにつけはされても、そのたびに絶望の環境が烈々と悪化していても、人は依然、それまで地球の面々で今日を生き、明日を約束し続ける。そうしてまたいつか同じ過ちを再演する。これは「絶望」だろうか？ 歴史の教訓からなにも学ぼうとしない——いや、それどころか自分たちの都合のいいように改竄し、忘れることさえできるつづ。老人たちはそれらの人々と呼んだが、彼らもまた、そうした条件が続いてきた歴史の道標の中に入っているのだ。

心臓が断絶と収縮し、死して命のリズムを絶つように、果てては滅んで神の寵愛との縁断、なにもとまなかったのかとくどくど何處でも立ちまわらぬ人。それは生と死の狭間、¹「絶望」といふ名の仮面をかきつゝ人々を導く者として「希望」を人々に与ふる。人類全体が熱狂する壮大な義演だ。その聲やかき、たまはしに寄せる信賴感や行動が立ち昇るとき、「ニュートンな世の希望即ち救済」は達成を果す。

そこまでもって包摂して、人間の欲みが絶ちてはもういづこかそれ自身が「希望」なのだと、ニュートンが愛望しよといふのやうにかかちまわって出てくる。

これに続く『マガンダム』において、より明確に面される。相次ぐ戦争の果てに宇宙世紀は終焉を迎え、それからさらに数千年が経つ間、地球に生き残った人々は過去の惨劇を歴史を対峙し、二十世紀初頭といったレベルの文明を築き立てる。一方、月に落ち延びたスペースノイドの東郷はムーニッシュと名乗り、宇宙世紀当時の文明は維持しているものの、やはり過去の戦乱の悲愴は重要な教訓として押し残されている。ムーニッシュが地球への再帰道を企図したときから拾うべき戦争、互いにそのやり方を変えてしまっている戦争には、当然「正義」と「悪徳」もない。

それでも、宇宙観戦やモデルスーツが売ってれば、彼らはその形に引きずられるようにして日常の戦争を再開し、肥満ともな封印してきた論争本能を活性化させ、「敗戦」の恥痛を再び目覚めさせたアグリパ・メネーナー、「破滅」の血をたぎらせる興奮に唆されたギム・キンギウムがその典型だ。ムーン・レズを脱べるディアナ体制への恨みを口にして、最終的には施設に回る彼らだが、それは従来のシリーズで描かれてきたものを吐くほどの「絶望」ではない。彼らの「絶望」は好き勝手に暴れるための口実、主として反面的なものでしかなく、その「絶望」のさまたけとをわれわれも抱いたように、また。

彼らを邂逅したことで物語は結末を見るが、再び開かれてしまった物語文明の草。見聞した闘争本根が、残された人種その方向に導いてゆくかについては語られていない。語る必要もない、というのが『ガンダム』だった。善も悪もすべて包含して、人種の営みが置いているということが「希望」。そのように置りゆくものが人の生なら、それでいい。いま生きている、それだけでニュータイプにも匹敵する「奇蹟」なのだから、よ。よ。

あるいはそれは、変わりようのない人への「絶望」の果てに結実した「執念」なのかもしれない。だが「V」のラスト、宮野は主人公ロラン・セアックにこんなセリフを言わせている。

「ディアナ様、また明日」

たび要なる冷凍睡眠で両体の世界に達しているディアナ・ソレルに、明日は来ないかもしれない。ベッドに横たわる彼女はしんと黙らず、すでに息を引き取っているのではないかとさえ思わせる。自然が訪く生死の道標に身を委ねたがっていた彼女の表情は、どこまでも静かだ。

ロランもそれに気づいている。しかし神ならぬ人に明日のことなどわかりようもないから、彼は「また明日」と未来に希望を託さねけるのだ。その姿は哀しいものでも、卑小なものでもない。二十世紀最後の「ガンダム」は涙を禁んだ。

お姫さまとお嬢さまと、 普通の男の子——

F91 V V における女性像を読み解く

Princess, young lady and common boy

文=村瀬ひろみ 写真=亀井一郎

村瀬ひろみ

1966年福岡県生まれ、1993年5月山口大学文学部卒業（国文学専攻）

1996年京都大学大学院人間・環境学研究科修士課程修了（アフリカ地域研究専攻）

現在 山口大学大学院文学研究科博士課程に在学中 古本屋役員、ライター

編集者、翻訳家、そして一歩の傍でもある。著書：『フェミニズム、サファカルティ』 著書

『青春、迷くの時を待て、それなら、さよう。』 等がある。女性像に関する論文

アニメ・マンガの評論なども数多く



女の子ならば、たれでも一度は「お姫さま」に憧れたことがあると思う 私とて例外ではなかった たた私は、お姫さまに憧れただけでなく 魔法使いにも宇宙飛行士にも憧れた 魔法使いには残念ながらもなかったし、宇宙飛行士は、強度の近視のために小学生で諦めた 一方、お姫さまには憧れたが、お姫さまになろうという気持ちはさらさら持たなかった もしかしして、自分は座の下で拾われた高貴な血筋の間かもしれないという良くある夢をまじへてはあっても、民主主義の日本にはお姫さまなんて身分がそうさらにあるわけはないことはわかっていて、生まれながらにまざるもの、それが「お姫さま」というもの

機動戦士ガンダムF91 機動戦士Vガンダム Vガンダム の、三作品に共通のヒロイン像はまさにお姫さまである センリー、シャクティ、ティアナとキエルはそれぞれ高貴の身分、母前上は民主主義の世の中に暮らす私には、リアリティが薄い そもそもどうしてお姫さまだったのだろうか 未来において、我々は民主主義を手放し 貴族主義や 帝國主義のような道義思想に基づいた共同体を今一度作り上げるのだろうか それとも、それは、作り手である富野由季監督一流の実話なのだろうか

I.「お姫さま」という問題

「陸経闘争」vs.「性差別」

フェミニズム的なものを語るのには、それは男性なんですよ 男性志向のロンフを女性か語っているだけで、それは男は黙らないし、同性からもそういう女は嫌われるんじゃないかなと思います

女性と男性は根本的に異なっているという思想が、富野由季監督にはあるようだ 彼が フェミニズムを語るのには、男性である と断言するとき、腹の中にあるのはあるべき「男性」であるべき 女性」た そこには、男女を区分けする「区別」はあるものの、「差別」はない その理由は V における マリア主義、V における「ティアナ信仰」に照らして マリアやティアナは、女性たからということで、男性から差別される存在ではないむしろ彼女たちこそが、男性の上に君臨する権威となっているのである「もちろん、女王マリアは、男性の裸り人形でもある悲しい存在ではあるか

その権威の理由はマリアに依りては、ある種の超能力として説明されるか、ティナの権威の理由は謎のまである 人々はティナをあがめ奉り、ティナに心酔するが、かくたる理由はない あえてその理由を探れば、まさにティナかティアナであるというものでしかない 月の女王の一族かのように月を治めるにいたったか、定かてはないが、彼女が男性ではなく女性であるということは重要な要素であると思える

より権力を持った女性 女王さま お姫さま」を擁することは、どんな意味があったの

だろうか お姫さまは、当然のことながら性によって差別されないし、V には差別され抑圧された女性というのはいないように見える V の舞台である世界は、産業革命直後の技術レベルの世界がモデルだが、現実社会においては、産業革命前後の近代から「表に出ていき賃金に換算される労働を担う人間＝男」と「裏で労働を支え、人間の再生産に従事する人間＝女」といった性別役割分業が完成するのである 公的＝男、私的＝女という区分が、公的な場での男性の価値を多いに高めたことは、想像にたえない

しかし V の世界では、主人公のロンフは使用人(運転手)であり、キエルとソシエという二人の女の子は彼の「ご主人さま」である ここでは、雇用関係に裏打ちされた一種の身分別階級が、彼らを支配している キエルやソシエの身分は、ロンフより上であり、彼女たちか「女であるから」という理由でロンフから差別されたりすることはない

V の世界の描写で「普通の女の子」はあまり出てこない 出てくるとすれば、類々としたパイロットのメシエークンくらい パン屋のベルレーヌもキエルの雇用の娘である そして、メシエークンを除く、女の子たちの服装には「あつ」と断言される まさに「世界名作劇場」ばりのふくらんだ袖に、軽重ものレース、長いスカートと先の細いフーズ キエルの髪のお手入れは、たいへんろうと余計な心配までしてしまふ これらの服装は、かなり不自由な格好だ 男の子より、「より活動的でない」「より従順性の高い」「身体を締めつける」格好 その格好に身を包んだ女の子が、男の子と対等たというのには、やはり困難なものだ

しかし、V の世界では、性別差別は表面化しない なぜなら、身分制度がまたあるから 身分の低い男(ロンフ)と、身分の高い女(ティアナやキエル)では、性別差別は出てこないのである

人は皆平等なのたという近代に作られた公衆(フィクション)があつて、「人」に女が含まれなかった現実を踏まえてはじめて女性差別は表面化するのであるから

世界をつくりなおす

富野監督が描く「ガンダム」世界は、ファーストガンダムのリアリティからとんと離れて、民主主義的なものを確立していく そのカリカルチャ F91 での貴族主義であり、V でのマリア主義、V でのティアナ信仰であろう 近代の行き詰まりを打破するために、近代を変えてきた原理原則の一つである民主主義を批判することは、確かに一つの方策ではある

つまり、富野監督の意図は民主主義自体の批判ではないと思う 彼の目的は、美意識を失い病的なまでに個々人の内面へと向かう人々の意識のペクルを、身分別を通して変えることではないだろうか 一度世界を全部壊して、もう一度つくりなおしたい そのような監督の欲望が透けて見える 社会が気に入らないならば、その原

理原則としての民主主義的なものも一度捨てよう、それが富野監督の狙いだったのかもしれない。これらは、単なる標榜に過ぎないのだが

近代社会においては、民主主義という建前を共有してしまえば、私とあなたは別々の独立した（対等な）個人なのたという喜ばしい現実しかそこには存在しない。それとは逆に「身分制」というフィクションを共有する私たち」という意識を描くことか、個々へ人々分断されたオタク世代の私たちにメッセージになり得ると富野監督は意図していたのではないかと私は最新作「V」を、そういう風に受け取った。ある意味腐りきった、個人へとタコ化している民主主義的世界よりも、人々に上下関係があり階層化されている階級のある世界のほうがナンセンスかもしれないと、そこで、人々は自分の階級や身分に見あった誇りと美意識を持ち、行動様式を持つ。そして、それは男女に関しても同じことが言えるのではないかと。

「女は女らしく」の内実

性別役割の規範が、こんなにも崩れてきた現代において、富野監督の「男は男らしく」「女は女らしく」という理念は、つまりはこういうことだ。男も女も、自分の性に見合った誇りと美意識を持ち、行動様式を持ち、行動せよ。

V には、性に基づいた印象的なエピソードがある

「産む性」という一掃りからはみ出つつある自分の性を持て余して、「生殖年齢」を過ごす女性には少なくないのではないだろうか。産まなかった、産めなかった彼女たちの思いの丈を知らずに、女性を「産む性」として単純に括っていく表現は、一歩間違えれば保守反動の旗印を免れることはできない

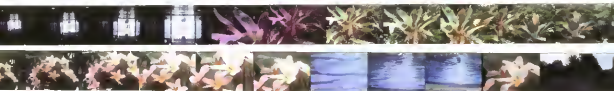
もちろん、物語の骨格となる「産む女」「その女を守る男」というステレオタイプは、普通は一つの憧れでもあったのだから、それこそが、現実の私たちが縛る鎖でもあったのだ。

「産まない」ディアナ

しかし、ディアナはきっとたれも「産まない」だろう。

V の最終回で、ホッパと墜ちるディアナは、身体こそ19歳ではあるが、冷凍睡眠を繰り返した約100歳を越える人間である。箱コンテナには、「暗い中のディアナは若々しいままに見える。ディアナは幸せである」とある。「若々しいままに見える」ディアナだが、彼女の姿はやるべきことを成し遂げた老人のように、私には見えるのである。だからディアナは「産まない」のだと思う。

「産まない」ディアナは、しかし、V の作品中たれよりも幸せになった一人だろう。「産まなくても」幸せ、相思相愛の恋愛や子ども子育てには縁がなかったけれども、



V において、戦艦員でもあるマーベットの結婚式をあげて子どもを孕む。そのお腹の中の生まれていない子どもの存在は、敵であるカプティナを怯ませるのである。宇宙空間で降り広げられる戦いのさなかに、気づかれる胎児の存在、それがいかに大きく重要な存在であることがまた、「V」では新聞記者をめざすフランドールは妊娠している、最後のエピソードにはキースとヘルレースの赤ん坊が出てくる。つまり、富野由悠季の「女は女らしく」の内実は、「女は産む性である」ということなのだ。

従来のアニメでも、男女の性愛はキスや抱擁としてもちろん、もっと過激で直接的な方法でも描かれてきた。か、一方で、生殖については置き去りにされてきた感が強い。富野監督は、「性愛で男女は対等かもしれないが、生殖においては、女性と男性は対等ではない」ということを改めて示した。性愛だけに飽き込ませていく「性」の質しさからの逃避とも読める。

生殖における男女の差異を強調することは、一方でかなり危険なことでもある。生殖に存在を矮小化されていくことへのいらたちは、いわゆる「生殖年齢」を迎えた大人の女性ならば一度ならずとも経験するのではないだろうか。産むが産まないか。たとえ産まなくても、私は女であるはずなのに。

地球の自然を体全体で感じて、自然に包まれて晩年を生きるディアナはとても幸せ。お嬢さまの中のお嬢さま、ディアナ・ソレルは、「女らしい」女なのだが、結局悲しみとも手に入れない人生である。（最後には唯一持っていた女王としての権力すら、キエルとして生きることを選択して手放してしまう）。それでも、ディアナの描かれ方が魅力的で美しいことには驚嘆すらおぼえる。「産む性」を強調し、「産む性」としての女性を描くことしてきた富野監督の、これは意外なキャラクターであった。

身分制のようなものを物語に導入した富野監督の功罪を、もう一度くたぐと述べるのはよそう。お嬢さまという特殊階級ではあるが、「女であること」というステレオタイプから逃れたい老人としてのディアナ・ソレルは美しく魅力的だろうか。

ロマンスの復讐

「F91」「V」と、続くこれらの富野ガンダムの系譜には、ファーストガンダムから続々と続く男と女のリアリティが流れている。それが、前述した「妊娠」という事柄であったり、「アカンボ」の存在だったり、「結婚」ということだったりするのだが、富野ガンダムではまっとうな恋愛描写は意外と数少ない。

なんとなくくつつく、なんとなくくく、いつのまにかカップルという二人は多いのだ

けど、その過程や心の動きを丁寧に描いているかという点、いささか心もとない。その多くは当事者の恋愛というより、傍観者としての恋愛だ。主人公が年端のいかない

ところが、Ⅴでのキエルのロマンスは少し違う

お嬢さまのキエルはティアナとして過ごすうちに、観面師のハリー大尉に恋してしまふ。彼女と視線がハリーを流う。これからハリー大尉に利用されて、ティアナとして死んでしまうかもしれないときになって彼女は、やっとの思いで告白をするのため、ハリーは自分のすべてを女王のものと言ってキエルを拒否してしまふのである。

想いを込めたキスと共に キエルは、そのたった一度のキスだけで命をかける決意をする このキスがあったから、私は死んでも悔いはない 結婚にも、ましてやセックスにも至らない恋 その一瞬だけで、完成する恋愛 結婚やセックスに囚われないキエルの恋は、はかなくも華しい

しかし、キエルはまた若い

ディアナとして生きることを選択した最終国のキエルの意の行かぬが気になることろである。政治家(＝女王)として生きることを選択したキエルは、富野作品の他の女性たちのように、「産む性」であることを確認することになるのか、それとも、女王は子どもを産まないのだろうか。あの熱狂的な支持を集める彼女のカリスマ性の出



所は、子どもを産むことで悩まわれたりはしないのだろうか。そのことについての言及は、V. にはない。キエルとして生きる年老いたティアナの行く末と相まって、キエルのこれからの人生について想像はつきない。

醜い母親

キエルの行く末が気になるもう一つの理由は、彼女の母親、ハイム夫人の描かれ方である。ヒンニティの有力者ティラン・ハイムの妻。彼女は理知的でもなければ、美しくない。小さな陰、脛骨が高く因角い顔立ち。顔たちの細い唇に対抗するかのようにつしりとした唇。

その家は、中年女性のリアルではあろうが、決して好ましいものではない。また、その精神も勉勵ある人物像とはかけ離れている。ディナ・カウントンの空間によって表に現れ、精神を喚んでしまえば直視することができない、ひょんな存在。空疎な印象の面立として、何一つ自分でできず、自分で決められない。情けない存在である。中年女性のリアリティを追求したのだとしても、その家はあまりに醜い。見方が美しくなくとも、その人の行動や発言と一致した描き方でいれても勉勵的な人物像は描けるはずだ(ブルートとコックと女と古典的だろう)。作中のこの母親に象徴される

ら抱いているのではないかと動ぐってしまうくらいだ。

もう一人、 Ψ には、母親が出てくる。

第20話「アニスバー」の一人アスお婆さん。キースの恋人となるペレリスの祖母として設定。この女性は一人で小麦畑を守り、素直な人間で、戦火にも屈しない強い性格である。顔面、女性らしく強ひこのお婆さんは、知恵者でもある。葦草の名前や技能をよき知り、フルーノとヤコブにたてのおかしなラランやディアナにも農作業を手伝わせる。しかし、魅力的なシリリオと役回りには裏に、このアニスお婆さんも魅力的だとは言い難い。その印象は、土地を焼き捨てる人々に對して愛が母国にも、さらに燃え盛ることに。

「土を清平奴は大馬鹿もんだ おまんまをだれからいたたいっていると思ってんだ
この十ッコロか作ってくれたんだぞ」

この作品のテーマの核心ともいえる重要なこのセリフを吐くときのアニスは決して
丁寧に描かれてはいない。作画の限界もあるのだろうか、ロパウのみをあはれ止め
絵という手抜きされた。声優の必死の演技をあきまうかのような、静止した止まった
絵。最もアニスおさんをか「コッ」と思えないだろうし、無用で強調された顔や、
ワシオ、小島い目のせいで、彼女が頑強な頼り老人にしか見えない（作画の限界と
いって、宮野監督によると、☆の夜毎娘は、飛行機の好きな女に描かされたとい
う）。

好きな人に描かせるというシステムなら、どうしてもクラシック飛行機だけが特別扱いなのだろうか。物語の鍵となるお婆さんや中年女性、家畜がどうして上手く描けていないかという理由は、この辺にあるのかもしれない。」

Ⅴ のワッソの母親は、まだマシのように見える 見かけだけは。
しかし、ワッソをあのように育てた母親ということで、やはり私は彼女を許すことはできないのである。ひたすら教育、ワッソの能力を高めるだけの母親 どこかになにかを売ってきただけの人間としての基本を失ったような、そんな母親はやはり罪深い。

II. 普通の男の子

女性的なロラン

ウツンは大人から見れば格段に「よい子」である。しかし、そのウツンをして富野監督は「不幸」という。「……僕としては、『今の時代の子供たちが置かれている位置』というのは、あまりよいものではないんじゃないか」ということを語りたいために、彼をそのようなキャラクターにしました」¹⁾。ウツンの両親が後に施した教育、あれなんか



子供から見れば、たまったもんじゃないんだよ、とね」とも富野は言う。目的のために
誰々と訓練を繰り返すような人生、未来の活躍に備えて、今を切り売りする毎日。それ
はウソの母親だけの責任ではなくて、父親の責任でもある。しかし、ウソは不在の両親
に代わって仮想的な父を手に入れることができる。Vの物語全体の構造のなかで、
男の老人たちはウソの仮想的な頼れる父親としての地位を獲得していくのである。
その一方で、ウソの母親は死んでしまい、その後のウソは母親的なものからは遠き
かってしまう。ウソは母親的なものに包まれることはない。ウソの周りの女たちは、成
熟の色気を振りまきながら戦って死ぬ。

また、F91のシーブノクはまさに、「見本」というネーミングのままたか、もともと豪華
を意図した作品であったため、映画単独ではあまり個性のないお利口な男の子という
感じだ。そして、そのよい子の部分を良い具合に膨らましたのが、ロランたとも思える。

ロランは、「目の前にあるものを全肯定していく子」である。悪意がなくまっすぐに
相手に向かっていく。自立して自分を持っているけど、相手のことをきちんと考え
られて、まず他人のために行動を起こせるような男の子。今までのヒーローものの主人
公みたいに「俺は男だ!」と片断地強くないし偉そうじゃないし、ファーストカンタムのア
ムロみたいにうしろし自閉してしまうようなことはない。

べたべたした白っぽい長い髪の毛と、狭い小豆色の肌。そして、異様に似合うカ
チューシャ。くりくりとした青い目は、賢さに彩られている。

その唯一のロランの欠点(?)は、「女の子みたい」といったもので、それは他面ヒー
ローものに慣らされてしまった人間のある意味勝手な言い分だ。

最終話で「ディアナさま……また、あした」と静かに部屋を出ていくロランには
男性の香りはしない。イイ女がいたら、いつでもどこでも性的な関係を目論むような悪
しき男性性の影も形もない。良い意味で、ロランは女性的である。

でも、ロランは男の子。男の象徴であるおヒゲのついたガンダムに乗るとき、ロラン
の男の子としての面目は保たれる。大きく、強く、カッコいい。それは賛物の対象ですら
ある「Vカンタム」(=ホワイートル)は、ロランの取り外し可能な男用「ファルス」
なのかもしれない。そして、ロランが乗り込むホワイートルのコックピット部分は、とう
ていどこから見ても、男性の闊達野望のアレなのであった。あまりに贅沓で、気持ち
ていとうも気になって仕方ないのである。

ロランとカンダム

しかし、ホワイートルに乗り込むことで、男性性を獲得するロランは月との和平が実現
した後は、ホワイートルに乗り戦艦をすることもないだろう。もし、彼がそれを使うと
すれば、第21話「ディアナ軍戦」で見せたような使い方をうか「ディアナ軍戦」では、
キエルに扮したディアナをロランは助け、山のような洗濯物をホワイートルで一気に
洗ってしまうのだ。

このシーンには、笑ってしまった女性も多いのではないかと。現実の社会では自動車
の普及と同時期に洗濯機はかなり使われていたことを考えると、V世界の技術水準
はやはり女性に優しいとは言えない。ガンダムで洗濯しなくても、簡単な技術と機械さ
えあれば、それで済むというのに。なんというオーバースペックだろうか。[川での洗濯
というもの、かなりアナクロな感じがしたが、ホワイートルでの洗濯は川に直接洗剤を投

入したりするので、環境汚染なんか心配してしまうのである)

結局、ホワイトドールが必要なのはたぶん有事のときだけあって、家事労働をするために必要なのではない。ロランはきっと、この後産産にホワイトドールを使うような真実はなかっただろう。最終話で、ロランがティアナの身の回りのお世話をしていることが暗示されていたが、後は普通に手で洗濯をするのだと思う。これはロランが巨大な男根(=ホワイトドール)をもはや必要としないことを意味する。

等身大のロランは、今までの「男の子像」とは違うまったく新しい普通の男の子の主人公だ。ロランには「流血」も「野心」もそして「根性」すらも、似合わない。その象徴としての男根(=ホワイトドール)すら、最終回で手放していく。

消えた普通の女の子

後期宮野作品では、「よい子」の普通の男の子が主人公になることが多い。ノーフラクもヴァンもロランも。その「普通の男の子」か、モビルスーツという名の巨大ロボットによって男性性を獲得していく物語。か、後期宮野カンダムたともいえるくらいだ。

では、普通の女の子はどこにいるのか

前述のように、物語を牽引していく主だったキャラクターには普通の女の子はいない。

普通の女の子が不在というのはどういうことだろうか。普通の女の子は、高貴でもない自分のことは自分でする。使用人のジェシカやサムたち、こ飯を作ってくれて、掃除、洗濯をしてくれるような優雅な生活ではないのである。

ロランが普通の男の子ならば、普通の女の子はハイム家の使用人という身分からいかに適当だろう。しかし、ハイム家の使用人は、丸々と肥えた醜女のジェシカと、無口なサムだけであり女の子の使用人はいない。ジェシカは女性ではあるけれど、彼女とはハイム家の人になくすのみで、彼女自身が何をしたいのか彼女の家族はどうなっているのか、子ともがいるのか、いないのかという個人的な欲求を拒絶するようなキャラクターである。

一方、サムもハイム家の人になくすだけのキャラクターではないかと言う人もいるだろう。か、サムとジェシカは決定的に異なる。サムは、あの名作「赤毛のアン」のマッシュを思わせる老賢者の風情がとことんたまたまようが、ジェシカはとしようもない。産はかな自前のことしか考えない女に見える。鈍重で困われない彼女は、しかし正直で、底意地の悪いところはない。

普通の女の子は、どこにもいないのか

女の子としてのロラン(ローラ)

かつて(昔)普通の女の子だったものとして、宮野由悠季作品に書きつけられてきた一人として、Vの普通の女の子の不在にはしめ衝撃を受けた。お姫さまとお姫さまの「私たちとは関係のない世界」

しかし、普通の男の子ロランは、女の子のローラでもある。ホワイトドールのパイロットとして紹介される女装のロランは、エキセントリックな美人で、悪徳の光を身に宿した若い女性だ。「貴族女修行」(第7話)というサブタイトルからもわかるように、ローラ

となつたロランはもはや普通の女の子ではない。たか、ホワイトドールのパイロットとして、能力と技術、パワーを持ったローラにとっては自分なんてどうでも良いことだろう。

ロランが女装することは、女の子に、自分とは関係ない「ローラとしての生き方」をも示したという点で、私はとても好きだ。普通の男の子は、女の子にもなれる。男と女なんて、交換可能な存在だ。唯一交換できないのは、肉体だけであって、そのことは、第二話の金魚に隠されたロランの胸元の描き方でよくわかる。身体は、男と女で違うのは自明のことだし、たぶんどの文化でも男と女の二分法は存在する。しかし、精神は自由だ。ローラとしてのロランは、そんな思想を体現する。

一瞬の悪に身を焦がし、為政者として生きていくキエルにも、子産み子育てと縁のないまま歳をとるティアナにも、パイロットとして志願するローラにも生まれついでに自分とは関係ない。一人の女の子としての、一生懸命な生き方と満足する人生がそこには示される「産む女」という「女の身分」にこたわってきた宮野由悠季監督の作品で活躍するのは、国々もこのような女の子たちである。そんな時代なのだろうか。

身分別という枠から描き出されたVの物語は、終つてみれば、普通の女の子「産むティアナ」、思えるキエル、紅うローラ)と普通の男の子の物語としても読める、そんな物語だったかもしれない。

F91、V、Vと描かれてきたお姫さまは、キエル、ティアナ、ローラの三人がいるお庭で、無事に生身の普通の女の子に軟着陸をさせた、そんな気がするのである。

※1 宮野由悠季全仕事 P.288/1999年・キネマ旬報社

※2 ヴァンガード フィルムブック5 P.76/2000年・角川書店

※3 第38話「破神神キカンカ」

※4 家畜の描写は、作画力だけの問題ではないかもしれない。たとえば、乳を出す牝牛がいるということは、子牛どこかにいるということだし、乳を出している牝牛が数日もしくは、それ以上搾乳されず放っておかれて、何事もないわけがない。第一、牝牛だけ連れて帰って母次のシーズンはどうするのだ……と獣医師として、心配になるのである。

※5 NEWTYPE 100% COLLECTION 機動戦士Vガンダム VOL.2 P.43/1994年・角川書店

※6 NEWTYPE 100% COLLECTION 機動戦士Vガンダム VOL.2 P.45/1994年・角川書店

※7 宮野由悠季の発言 アニメージュ 2000年5月号/P.69・徳間書店

※8 ファルスの女は、直立した男性性器の象徴 精神分析学の用語

※9 普通の女の子として、Vのフランドール・メッシューンを上げる人も多いと思う。しかし、直接主人公と関わり、物語の成り行きと絡む人物としては、キエル、ティアナが双璧。一歩下ってソシエというところだろうか。

THE OPEDIA

軍事テクノロジーの エクソシスム

Exorcism of military technology

文＝阿部いさく

かつて戦争があった

ソーク・レイに襲かれるソロモン。圧倒的な連邦軍の兵力の前に、防衛の兵力は少なく、増強はババアで置かれた最大・最強の新鋭モビルアーマー、ビッグ・ザムただ1機。しかもソロモンを抜かれれば、連邦はジョン本國に迫る。時間を稼ぎ、連邦に出血を強いるために残された手段は、ただビッグ・ザムの単独突入のみ……という物語りを突はどこかで聞いた覚えはないだろうか。

単眼を僅か換えてみよう。艦載射撃に叩かれる沖崎。圧倒的なアメリカ艦隊の兵力の前に、防衛の兵力は少なく、増強となりうるのは兵基地に潜伏された最大・最強の戦艦「大和」ただ1隻。しかも沖崎を襲われれば、アメリカ軍は日本本土に迫る。残された手段はただ「大和」の突入のみ。これは1950～60年代初期の子供、とくに男の子が少年雑誌の口絵や特集記事で読んだり、あるいは戦争体験のある大人「父兄だったり親戚だったりする」から聞かされた物語りだ。ドズル・ザビ星間の戦いからは、かつて子供たちに「語られた」太平洋戦争／第2次大戦が聞こえてくる。

ドズル中得だけではない。コア・ブースターでビッグ・ザムに突っ込んでいくスレガー一中尉は、開戦直では聞かれないアメリカ軍のB-29超戦機を、体当たりで撃墜しようとする日本戦艦戦艦の話を物語る。リュウ・ホセイだって、ホワイトベースを守るために特攻してしまう。マチダ少尉の爆撃機のウディ太尉も、かなわなれどは知りながらファンファンで、こともあるようにズゴックに突っ込む。「完結ではない」だ。

1年戦争で物語られる太平洋戦争は、沖崎戦や特攻だけではない。日本本土空襲で命を奪われる民間人の話は、「ガンダム大地上に立つ」でザクと連邦軍の戦闘に巻き込まれるコロニー市民の姿、プラウ・ボウの両艦の姿を重々ってくる。古参兵が新兵を動物から違い出して我が身を守ろうとする、戦艦の艦首はア・バオ・ア・クー

の戦闘の中にちりちりと出てくる。そもそも連邦とジョンの艦隊が死闘をくりひろげる舞台となった「ソロモン」の名を聞けば、連合艦隊の武勇伝を聞いた子供だった覚えがあれば、日本の海軍が幾度となく戦った南太平洋のソロモン群島を思い浮かべられるはずだ。

1年戦争のキャラクターやメカニズムも第2次大戦の物語りに重なることかである。ジョン軍の防衛艦の軍艦とヘルメットの色やデザインはナチス・ドイツ軍のそれに似て見えるし、否応なしに戦争に捲り出される少年兵はアムロたちの姿だ。勇名聞かエース・パイロットは「赤い戦艦」だの「黒い三連星」だの、「青い巨星」だのとなって現れる。「白狼」や「真紅の極悪」もいつか。

それから重訂すれば戦争中期までの主力モビルスーツMS-06ザクは、ドイツ陸軍の「馬車馬」ともいへば、号戦車、優れた性能ながら末期に登場して十分な活躍の場を得なかったMS-14ゲルグは、号パンzer戦車に見立てられるのだろう。それでいうならば、大量生産で戦局を換えたRGM-79ジムはさしづめアメリカのM-4シャーマン戦車か、いや、むしろ画期的な高性能で戦争の爆発まで変えてしまったRX-78ガンダムが、ドイツのゼット戦艦戦艦Me262や日本の虹の戦闘機「震電」にたとえられるのかもしれない。

しかし時代が下ると、子供たちは太平洋戦争を「銀の時代の戦争」として聞かされることはなくなる。世代が重なり、それこそ「戦争を知らない子どもたち」が親になったからだ。子供の雑誌も、戦争賛美につながるような理由で戦記ものの記事や口絵を減せなくてはならない。1978年に「機動戦士ガンダム」を見た子供たちの圧倒的多数数に当たっては、太平洋戦争や第2次大戦は遠い歴史上の出来事、社会の教科書の後ろの方に載って3学期までの授業じゃ終わらせられないような話だったのだ。

ION TOCLE

『機動戦士ガンダム』は、そんな太平洋戦争の物語りを聞かされなかった世代の子供たちに向けて、語り直された戦争の伝説、あるいは神話と読み取れることもできる。いや、別に第2次大戦をそっくり襲うことが『ガンダム』のテーマだと決めつけたいわけではなく、モチーフとしての1年戦争は、第2次大戦の物語りの語り直しでもある、ということを描出したに過ぎない。あるいは、ガンダムの作り手たちが、戦争を描こうとしたときに最も直截で効果的なモチーフとして選んだのが、第2次大戦の物語りの語り直しだったということなのかもしれない。

1年戦争本編では、ジオン軍・ドイッス軍・日本軍、連邦軍・連合軍という図式は必ずしも定型化しておらず、場面やエピソードによっては(例えば先述のスレガー中尉のビッグ・ザムへの体当たりのように)、連邦軍側が日本軍のイメージを背負うこともある。しかしそれが1年戦争神話の外典、『0080ポケットの中の戦争』や『0083スターダスト・メモリー』になると、第2次大戦のモチーフはさらに意識的に用いられ、ジオン軍・ドイッス軍の図式が明確になってくる。サイクロプス隊のシュタイナー隊長は、その名前からしてサム・ペキンパー監督の第2次大戦軍部隊映画『戦争のぼろぼろ』の主人公、ドイッス軍の歴戦の下士官シュタイナーと共通だし、その経歴もますますドイッス軍に似てくる。ジオン軍の近洋艦の艦名ジークフリートも、ナチスゲルマン神話のイメージをまとうとしたことを思い出させる。

『0083』のノイエン・ビッター将軍率いるキンバライト残留ジオン軍は、ドイッス・アフリカ軍団のコスチューム・プレイとも呼べるべきだし、名前を書いただけの『ZZ』のロンメルよりもさらに第2次大戦の亡霊に似ている。逆に連邦のアルビオンMS部隊の面々からは、黒いジャンパーや肩の部隊バッジなどのあんばいが連合軍、とくにアメリカ海軍の航空部隊の雰囲気が出ている。『0083小隊』に至っては、すでにモデルスプーの第2次大戦戦争映画であることを露そとすらしていない。

アステロイド・ベルトから見た戦後史

それだけ強く第2次大戦のモチーフを節みしめていた1年戦争が終わると、宇宙世紀の歴史は20世紀後半の歴史とは違う方向に流れ始める。第2次大戦はナチス・ドイツと大日本帝国が無条件降伏して終わり、両国は完全に崩壊、解体されてしまうのだが、ジオン公国は連邦と停戦、和平を結んで、ザビ家の独裁体制から共和国へと政体を変える。旧ジオン勢力はアクシズとして存在を続け、一方、連邦ではジオン軍国主義に対抗するものとして、ティターンズ軍事独裁体制が誕生する。それとともに、連邦の戦後処理に異議を唱える組織、カラバやエウゴが成立する。

それらの勢力がまた新たな戦線へと突入し、さらに内部での分裂や抗争を生んでいくのが『Z』から『ZZ』へとつながる物語りだ。この西暦では、第2次大戦のモチーフもはやほとんど見られなくなる。それどころか、第2次大戦後の現実世界の歴史やモチーフと異なる部分もほとんど発見できない。

ここでガンダム・サガが意識的に第2次大戦の語り直しから離れたようにしたのは、定かではないが、決定的な転機を見なかった1年戦争から流れ始める宇宙世紀の歴史は、最も現実世界で第2次大戦が明確な決着をつぎに終わっていたらという、ありえたかもしれない歴史を示唆しているようにも思える。もちろん、ナチス・ドイツが全権降伏に至らざるに、たとえば国防軍の反ヒトラー派が夢想したように、西側連合軍と諍和してソ連と戦うようなことになったら、第2次大戦後の世界がエウゴ対ティターンズ対アクシズの戦線と同じ道を歩んだかもしれない、というわけではない。しかし2000年の世界のありようが、1945年の戦争の終わり方次第では全く異なるものになっていた、という可能性を、ジャミトフ・ハイマンやブレックス・フォーラの行動から、あるいはダカールの演説から想像していくことはできるだろう。その意味では、『Z』と『ZZ』は一道の架空戦史、いや『架空戦後史』であったと見ることもできよう。

もし宇宙世紀の半表の中で両端の中間に位置する「GUNDAM SENTINEL」では、登場する連邦軍宇宙船の艦首に第2次大戦の実在の軍艦の表紋をいくつも見られる。とがである。フライング・エイノー提督率いる反乱部隊の旗艦「フルーツ」は、太平洋戦争のアメリカ空母機動部隊司令官、ウィリアム・ハルセー提督の孫が建造したとされ、フルースラン(犀牛の突進)を思い出させるものである。

テクノロジー対テクノロジー

その後の劇場用映画「逆襲のシャア」(ストーリー)では、1年戦争からの直接的な歴史的影響を描いている。このシャア・アズナブル率いる新機軸・ジオン兵は、もはや第2次大戦のドイツ軍の影をまといてはいないが、彼らが無知を脅かす手段は、ハルセル・フィリスとアク・ズを落下させて地球の大気圏を燃やした「太陽光を遮って低層化させる“核の冬”であった。しかもアク・ズには連邦軍が保管していた旧式移民船が大量に収納されている。その脅威に立ち向かうのは最新のサイコフレームと「ゲル・ド」を採用したモビルスーツ「ガンダム」しかもこのテクノロジーは敵のサザビとも共通のものである。

もう一つの劇場用映画「ガンダムF91」では、脅威は人間だけを識別して攻撃する兵器“バウ”となつて現れる。人間に敵対する新し「テクノロジー」の威力は圧倒的なもので、て種かれ、しかもそれともたらず死は、ヒルキ・バウ・セリウの眼前に見るように、極めて悲惨である。戦艦のための超絶的なテクノロジーを開発し、あえて文明を投入するカオ・シロウは数店面をつけ、人間の表情を見せない。緑のモビルスーツ「フレイム」はデ・タウ・バウ・ロトなどの強力な新テクノロジーで作られ、その形





も人間型ではない。クロスホーン・シカートの脅威の本体は、非人間的な形態と表情や感情の欠如という姿を取っているのである

それに対抗するのが、またもや新型のカンダム、ウェスパーという必殺兵器を装備し、多数の熟練兵を持つ、サナリアのモビルスーツ技術を開発したF91である。大量殺戮のための最新テクノロジーに対峙する最新モビルスーツ。という図式は「逆襲のシャア」にも共通するものである

人間の存在を脅かす最新テクノロジーと、それに対抗するテクノロジー。このテクノロジー同士の対決という図式は、実は第2次大戦後の冷戦時代の軍事テクノロジーの進化に重なるものではないだろうか。原子爆弾に水素爆弾、核撃機に大陸間弾道ミサイル、原子力潜水艦と水中発射弾道ミサイル、巡航ミサイル。・朝鮮戦争からソ連崩壊に至るまでの冷戦の40年間、アメリカとソ連の両大国は、互いに相手の大量破壊のテクノロジーに対抗するために、自国の軍事テクノロジーを進化させていった。冷戦も戦争と呼ぶならば、それは兵士たちの戦争ではなく、テクノロジーの戦争であったのだろう

同じテクノロジー同士の戦いというモチーフは、TV版の「Vガンダム」でも繰り返される。サンスカール帝国の強力な「ハイヴ戦艦」は地ならしという凄絶無比な方法で、地球クリゾン作戦を実行しようとする。地球から人間を一掃しようというのが、そのためには核兵器すら使用する。もともと冷戦時代の核兵器は、相手の勝利を確にするためには世界の破壊も辞さないというネガティブな意味での人類一掃であったのだが、サンスカール帝国の場合は、むしろ自分たちの生活圏を地球に築くための、あるいは「地球をハイヴ象の集団にする」ための、ポジティブな人類一掃だ。という違いはあるが、軍事テクノロジーが地球から人間を抹消するものとなるとい

AUTOFT

関係いさく

1994年生まれだから、もういい年。
最早雑誌「エアワード」編集員。
雑誌雑誌「シーパワー」編集員を
経てフリーとなり、軍事評論家として
アシタレビでの軍事・防衛関連の
解説や各雑誌などに執筆。アニメ
「機動戦艦ナビル」が主戦台だが、
OVA「真の6号」にも協力。戦作鑑
品として「世界の戦い作戦」2巻を著
す。雑誌として「MSD読者版」(「バ
トル・オブ・ザ・バルジ」)、「ドイツ空軍の
歴史」など、各ジャンル・シリーズにハ
マリ関係。他にさまざまな雑誌がある。

う位置付けに変わりはない。

さらにザンスカル帝国の人類殲殺のためのテクノロジーは、物理的手段であ
る地ならしや核爆弾にとどまらない。エンジェル・ハイロウという、人間の精神を殲殺
する兵器という形すらとるのである。そしてそれに対抗するのが、モノフスキー・クワ
ドを進化させたモビルスーツ、Vガンダム・シリーズという、また新たなテクノロジーだ。
第2次大戦を語り直した後、ガンダム神話体系は冷戦時代の脅威のイメージの上に
物語りを求めようとしたのである。

その後の宇宙世紀とは離れた位置にある作品、「Wガンダム」では、平和の持つ
矛盾と不可能性が物語の重要な要素の一つとなる。例えば、冷戦時代には平和は
抽象的な概念にとどまり、平和への具体的な道筋が説得力のある物語へと発展す
ることはなかったのである。全面戦争後の荒廃した地球を舞台とする「ガンダムX」
では、兵器としてのニュータイプやビット兵器という軍事テクノロジーの復活と阻止
が描かれている。「ガンダムW」でもゼロ・システムやモビルドールなど、人間を変え
る軍事テクノロジーや人間から希圖しようとする軍事テクノロジーが現れて、登場人
物たちはそれを相手に戦うことになる。軍事テクノロジーは人間の手を離れて人間を
殺そうとし、テクノロジーをまとった人間がそれをくいどめようと戦う。今振り返れば、
それが冷戦時代のテクノロジー神話の正体だったのかもしれない。

洗濯する兵器

ところが「Wガンダム」では、モビルスーツは兵器以外の役割を演じ始める。ある
ときは人間を地球に運ぶ乗り物であり、貨物を運搬したり、肉親を懐いたり、さらには洗
濯までするようになる。むしろ兵器として登場するのは、20世紀末～21世紀初頭の
人間である我々の目から見ても「昨日のテクノロジー」にあたる、ミリシャの攻撃機

HEFFOMT

や襲甲車、蒸気船だ。それらの牧歌的な兵器はもうムーンレイスのナノテクノロジーの前に抗すべくもなく、ノックスの町はウォドムの攻撃で猛火に包まれてしまうのだが、その戦いは国家同士が戦う戦争というよりは、むしろ武装勢力同士の衝突、あくまでも戦艦に終結する。そこでのミリシャの無力と敗北は、むしろ20世紀の軍事テクノロジーの本質の暗示なのだろうか。

主人公メカたるマガンダムは、「黒歴史」という戦争の重を背負って地下に埋められ、偶然爆り起こされたことで戦争の重を復活させてしまう。そのマガンダムが、戦と なった洗滌したり、カボチャ祭りの山車となるのは、兵器としての己の重を否定しようとするかのように見える。ただしその都度、再び戦う機械としての己の本性に立ち 返らされてしまうのだが。

そのマガンダムは核兵器を手子にすることになるのだが、それは核兵器を戦闘に用 いるためではなく、逆に核兵器を消滅させるためである。「マガンダム」の物語りの中 では、核兵器の発掘から採掘、地球上での待望までが長く描られ、核爆発によってギ ャパン・グーニーが死ぬ。核兵器の威力は20世紀の軍事テクノロジーの重の深さとし て描かれる。それはまた、はるか未来の軍事テクノロジーの産物であるマガンダム の重なるでもある。

マガンダムは地球上で必死に兵器である己の否定と戦争の拒否のために戦う。 その戦いには、ザクそっくりのボルジャーノンやカプールのままのカプルも現れ、モ ビルスーツという兵器の位置づけの見直しが行われる。その戦いの末、ムーンレイス の牧歌である月では、ギム・ギンガナムが戦う人間としての己を見いだそうとし、戦争 を求めてターンXと出会う。ターンXは、マガンダムと同様、ほとんど説明不可能なほ どの威力を持つ武器「月光艦」システムを備える最終兵器で、軍事テクノロジーの ファンタジーの究極であるとともに、シャイニング・フィンガーやサイコミュなど、これま

でのガンダムの中に現れた武器体系の集大成でもある。これに乗って有頂天になる ギム・ギンガナムの姿は、あるいはひょっとしてモビルスーツを兵器として愛で、戦争 ドラマとしてガンダム・シリーズに傾しんできたファンのカリカチュアなのだろうか。

マガンダムはターンXと戦う、というよりもこの戦いは己の兄弟であり親像でもある モビルスーツを崩壊するためのものなのだが、兵器としてのモビルスーツを、洗滌す るモビルスーツをもって打ち消すという行為でもある。その結果、ナノマシンの光る 瞳という形で、マガンダムはモビルスーツにとりついた軍事テクノロジーという重を 払う。

果たしてそれは成功したのだろうか。地球では戦艦は終わり、アメリカの人々はム ーンレイスとの共存の道を歩み始め、ロランとディアナは道かいスーツと静穏な生活 を手に入れる。しかし失業者のグエン・ラインフォードとメリーベル・ギジトは他の大陸 へ去っただけで、彼らが再び兵力を以てアメリカに突っこないという保証はない。 発展したモビルスーツがどうなったかは語られずじまいのまま、[マガンダム]の 後の世界でも、平和はあやふやな希望でしかないのかもしれない。

「機動戦士ガンダム」で始まったガンダム・シリーズは、第2次大戦や冷戦のモチ ーフを用いた戦争の物語りであった。近代のガンダムは最強の兵器であり、それぞ れの時代の軍事テクノロジーの到達点であった。それが「マガンダム」に至っては、 ついに兵器としての存在を拒み、戦争を物語ることを止めようとしてみせる。これま で常に軍事テクノロジーの重を背負ってきたガンダムは、「マガンダム」に来て、戦争 とテクノロジーの神話としての重を払おうとする。「マガンダム」はガンダム・シリーズ 全体の重なり合いであったととらえることができるのではないだろうか。

CHRONOLOGICAL TABLES

U.C.	
0068	10代にジャンク屋で名をおげ、ブッホ・コンツェルンを設立したシャルンホルスト・ブッホ。ヨーロッパの名門ロナ家の家名を襲う
0102	サナリィ(海軍戦略研究所)、連邦政府にMSの小型化を提案
0105	アナハイムエレクトロニクスが連邦軍の依頼を受けて小体MSの開発に着手
0106	ここから新機種のコロニー設計計画がスタート。ブッホ・コンツェルン内の農業訓練校及び製造企業の若手メンバーによる組織が編成される。こうした組織が、コスモ貴族主義の信奉者を育てる校日を行い、最終的にクロスボーン・バンガード設立。
0110	シャルンホルストの義勇であるエンゲイスト・ロナ、コロニー公社副総長に就任。
0113	マイツナーの長男で政府に属したハウゼー・ロナが策定した地球保全法案、資源開発禁止法案が法案となる。前者は地球の保護のためエリートも含めた地球居住を厳しく禁止する法案で、後者は資源の無節制採掘を禁止し、つまり増殖すると資源者に課税を求めるものであった。
0116	ラフレシア・プロジェクト構想開始。「地球保全法案」再提出。
0117	シャルンホルストが戦車に半生用に入手したブッホコロニーが一般人にも開放。これはコロニー建設時代に利用された地形の小体コロニーである。
0118	ハウゼー・ロナ参謀
0119	ラフレシア・プロジェクト開始
0123	クロスボーン・バンガード、フロンティアサイドを襲撃。コスモバビロニアの国境を襲撃。鉄仮面がバグとラフレシアの国境を行うが、F91により撃破される。ドレル大尉、ザビーネ降参などは、その戦線を目撃した後、帰参する。

～この後、主女ペー・ロナが、貴族の精神を継ぐが、大乗道人兵衛バグを使用するコスモ貴族主義の手段を暗黒、コスモ・バビロニアの中で貴族派と抵抗派による衝突が発生し、コスモ・バビロニアは崩壊に至る～

KEYWORD

ロナ家

●旧ヨーロッパの貴族の姓。シャルンホルスト・ブッホはこの名を買い、姓をロナ家に改めた。ジャンク屋から身を起し、ブッホ・コンツェルンを作り上げたシャルンホルストが、経済的成功の次にも貴族を求めた大金持ちにも見えるが、それは違う。これには、凡庸である一般大衆に対し、自らが貴族として節を示そうという狙いがあり、そのために旧ヨーロッパの名前の権威を利用したものだ。これがコスモ貴族主義の原点となる。

コスモ貴族主義

高貴なるものが手本となり、大衆を導くというロナ家の思想。連邦に横暴する豪族政治へのアンチテーゼであり、その根底には、高貴なものほど大衆に対して背負うべき義務があるという「高貴なる義務(ノブレス・オブリー

GUNDAM F91'S WORLDVIEW

宇宙世紀0123、シアアの叛乱が30年後、太陽系内には地球連邦に対抗するだけの組織は存在せず、平和という名の停滞が地球を覆っていた。そこに突如登場したのが、鉄仮面がロジック・ロナを指揮官とするクロスボーン・バンガードだ。彼らは、ブッホ・コンツェルンの総帥マイツナー、ロナの唱えるコスモ貴族主義を信奉し、その理念による国家、コスモバビロニアの建国のための実兵である。

クロスボーン・バンガードは、地球と月の間のラグランジュポイントにあるフロンティアサイドを襲撃。同サイドに駐留中の連邦軍はこれに組織だった抵抗をすることもなく、フロンティアDを明け渡し、一部の難民はフロンティアIなどに脱出した。連邦本体はこのクロスボーン・バンガードの軍事行動を「新興コロニー同士による、争ったりのケンカのようなもの」と見なし、積極的な介入を行わなかった。だが鉄仮面にとって、この戦いは、月と地球にいる全人類人口押付作戦の序章に過ぎなかった。

TECHNOLOGY

この時代の最も重要な技術革新は、MSの小型化だ。旧来のMSが全高16mから20m強のサイズであったのに対し、小型化されたMSは15m程度。クロスボーン・バンガードがまず先行し、連邦軍がやや遅れる恰好で小型MSの開発は進められた。開発の動機は、ともに対費用効果アップへの期待である。費用面は新興勢力のクロスボーン・バンガードにとって特に重要な要素であった。

経済性に端を発する小型化を技術面から支えたのが、ジェネレーターの大増大性能アップだ。これにより、小型化にも関わらずMS性能はむしろ向上し、小型MSは旧世代のMSに対して圧倒的な優位に立った。小型MSの一部は、ジェネレーターへの余剰出力を利用した新技術ビームシールドを標準装備。これはビームサーベルの技術を応用したもので、ワールドの対ビーム能力は従来の防御システムよりも上だった。また、活動時にデッドウェイトにならないというメリットもあった。

ゲーション」がある。

コスモ・バビロニア

ロナ家の理想を追求するための国家。クロスボーン・バンガードはフロンティアサイドを占拠し、そこをコスモ・バビロニアとして建国した。このためU.C.0123の戦線はコスモ・バビロニア建国戦争と呼ばれる。

クロスボーン・バンガード

ロナ家が自らの理想を実践するため組織した軍隊。ブッホ・コンツェルンが運営する職業訓練校などを母胎にして誕生した。

バグ

鉄仮面が開発をすすめた対人型汎用戦車。大型の機体バグと1mサイズの子バグがある。ひとたび起動すると、自動的に人間を感知し、チェン

ガンダムF91 相関図

コスモ・バビロニア

マイツアー・ロナ

バク
スボ
ン・
バン
ガード

鉄仮面 (カロツ・ロナ)

ドレル・ロナ

ザビーネ・シャル

娘/家出

夫婦

ナティア・ロナ

夫婦

シオ・フェア
チャイルド

親子

ベラ・ロナ

(セシリー・フェアチャイルド)

戦争

ア
ス
ベ
ー
ク

シーブック・アノー

避難民と連邦軍、抵抗派

同級生

フロンティアサイド

一攻撃や体当たり、自爆などで確実抹殺する。すべてが自動的に行われるため、誰の良心も痛めずに大量虐殺することが可能だ。

ラフレシア

鉄仮面が主めたラフレシア計画の中核をなす巨大MA。鉄仮面のマスクと直結され、脳波コントロールで操縦される。

フィン・ノズル

クロスボーンバンガードのMS。ベルグ・ダラエ、ベルグ・ギロスの背中にある特殊なバーニア。6〜8本のノズルがそれぞれ自由に動くことで、高い機動性を得られる。ビギナ・ギナに設置されたシェルフ・ノズルはこの発展型にあたる。

サナリィ (海軍戦略研究所)

STRATEGIC NAVAL RESEARCH INSTITUTE。連邦軍がコロニー間船に密着していた民間企業を買収、再編成した組織。MS供給をアザムエレクトロニクスだけに依存している状況から脱却するため、F(フォーミュラ)シリーズの開発を行った。

分身

高出力状態になったF91の装甲は、熱により重金属分子の剥離現象を起こす。これがレーダーなどに反応し、まるで質量を持った残像(分身)のように見えて、敵を幻滅する。

MOBILE SUIT GUNDAM F91

BONDS

◎機動戦士ガンダムF91／絆

シーブック・アノー

■Notes：スペースコロニー、フロンティアWに住む高校生。クロスボーン・バンガードによるフロンティアWへの侵襲により、コロニーからの脱出を余儀なくされ、その脱出の最中に周辺宙域にたまたま降合させた連邦軍の練習艦スペース・アークに収容される。その素質が認められ、当時フロンティアアサイドにある戦術海軍学術研究所で密かに開発が進められていた新型試作MSガンダムF91の臨時パイロットとして選任される。以後、クロスボーン・バンガードとのコスモバビロニア戦役で連邦のエースパイロットとして活躍、数々の武勲を打ち立てるが、停戦条約締結まわに行為不軌となり、以後の消息は不明である。

First Appearance：機動戦士ガンダムF91

リィズ・アノー

■Notes：コスモバビロニア戦役時に活躍した連邦軍のMSパイロット、シーブック・アノーの妹。クロスボーン・バンガードによるフロンティアWへの侵襲により、兄とともにフロンティアWを脱出、スペース・アークに収容される。以後、戦場の急激な推移によりそのままスペースアークに同乗、母から受け継いだとおぼしき技術的な才覚によって兄を助けた。

First Appearance：機動戦士ガンダムF91

ガンダムF91

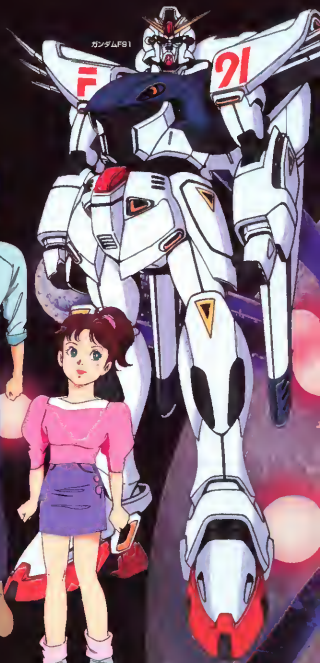
■Height：15.2m／Weight：7.8t

■Notes：クロスボーン・バンガードにより突如投入されたMSの小型化の流れを受けて、連邦が研究を続けていた小型汎用高性能機の一機。アナハイム・エレクトロニクスと海軍戦術学術研究所（サナリィ）の開発競争のような状況を背景に開発された機体で、サナリィが開発したこのMSではそのため「現時点のMS技術の限界」がテーマになっている。この時代としては最高出力を誇るジェネレーターを積み、ビーム・シールド、ヴェスパーといった強力なビーム兵器を標準武装として搭載、手持ち武器もビーム・ライフル、ビーム・ランチャーなど、多数の装備が用意されている。初級生産の機体は奥地船場の留庫を抱えていたため、限界機動を行なう際はリミッター解除の必要があった。

First Appearance：機動戦士ガンダムF91

シーブック・アノー

リィズ・アノー



モニカ・アノー

ビギナ・ギナ

シオ・フェアチャイルド

セシリー・フェアチャイルド

ビギナ・ギナ

■Height: 15.8m/Weight: 8.9t

■Notes: クロスボーン・バンガードの高級士官用の新鋭指揮官機。背部バックパックにフィン型の可動ノズルを配し、高い機動性を実現。強化されたエネレーター出力により、手持ち武器としてビーム・ライフル、ビーム・ランチャーなどの強力なビーム兵器の使用が可能になっている。ペラ・ロナに乗機として与えられるが、彼女の亡命により、彼女の機体は連邦によって回収。のちに連邦の戦力として使用される。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

レズリー・アノー

■Notes: シーブック、リズの父。もともとは連邦軍傘下の研究施設で金属工学研究に従事していたが、クロスボーン・バンガードによるフロンティアサイド侵襲時には、軍の体質を嫌い、逃遁労働者として一家の面影を見ている。その反面、妻のモニカの技術者としての情熱も理解し、彼女にはサナリィでの研究職復帰をすすめている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

モニカ・アノー

■Notes: シーブック、リズ兄妹の母。サナリィ所属のコンピュータ技術者。情報関係のプロフェッショナルとしてF91の制御システム開発を主導、画期的な新技術バイオコンピュータシステムの開発に成功する。反面、軍制的には家族を捨て、サナリィでの研究生活を優先させた形になったため、子供たちとのあいだに溝をつくった。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

シオ・フェアチャイルド

■Notes: セシリー・フェアチャイルドこと、ペラ・ロナの義父。ペラの母、ナディアと出奔。フロンティア、のバン屋の義父として暮らしていた。クロスボーン・バンガード侵襲に際しては、ロナ家と密謀、ペラを連れ帰ることを条件にクロスボーン・バンガードへと降参。その後、面殺されたと言われる。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

セシリー・フェアチャイルド

■Notes: カロッソ・ロナの妹。ペラ・ロナがフロンティアで暮らしていた際に与えられていた偽名。義父シオのもとで普通の高校生として育てられるが、フロンティアサイドへのクロスボーン侵襲により、自分がその中継であるロナ家の直系であることを知る。その後、祖父マイツァー・ロナの要請を受けられ、ロナ家の一員として戦場に立つが、シーブックに記憶され、連邦へと亡命した。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

PEOPLE

〇機動戦士ガンダムF91/人々

ガンタンクR 44

■Height 10.3m/Weight 6.4t (推定値)

■Notes フロントニアIVの戦争博物館に展示されていたMSの1体 ガンタンクR-44というのは正式な機体名ではなく館長のロイ・ユングが名付けた名称、おそらく小型MS開発計画上で試作された機体のひとつだと思われる。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

サム・エルグ

■Notes シーブックの友人。クロスボーン爆攻に際してフロントニアIVから脱出した少年たちのひとり スペースアークで実戦兵員に志願している。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ジョージ・アズマ

■Notes フロントニアIVから脱出した少年グループのひとり 落ち着いた性格でスペースアークでは艦内作業に従事

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ベルトー・ロドリゲス

■Notes リズの友人 フロントニアIVから脱出した少年グループのひとり 調病な性格で、リズにかばわれている

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ヘビーガン

■Height 15.8m/Weight 9.5t

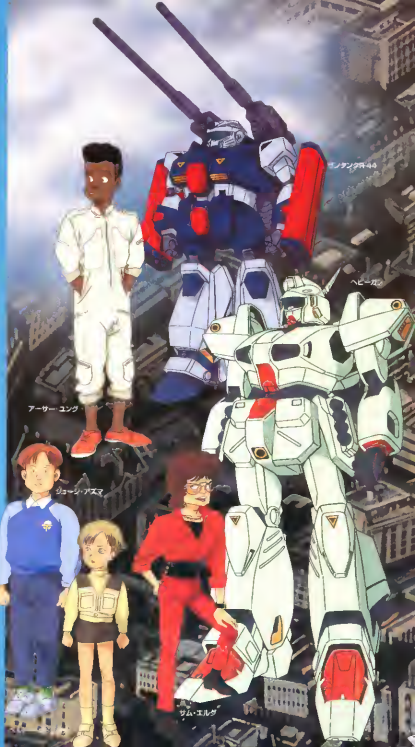
■Notes 連邦軍の戦術型MS 小型化の流れに対応しアナハイムがサナリィとの協力のもとで作上げた機体 ジェネレーター出力の限界によりビーム・シールドは搭載されていない。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

アーサー・ユング

■Notes シーブックの友人 フロントニアサイド爆攻に対し、かねてから懸念の総長とともに戦争博物館に展示されていたMSでクロスボーン・バンガードに対抗しようとするが、攻撃を受け戦死した。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91





ジェガン

■Height 19.0m Weight 8.1t

■Notes: シャアの叛乱で活躍した連邦の量産MS。小型化の道に押され、旧式化は避けられないものの、クロスボーン・バンガードによるフロンティアサイド修理事件までは数機からいってもまだ連邦の主力MSだった。多彩なヴァリエーションを持ち、安定感のある性能がパイロットに要求された機体である。

First Appearance: 機動戦士ガンダム逆襲のシャア

ドロシー・ムーア

■Notes: フロンティアWから脱出した少年グループのひとり。父親が事情報部に所属しており、内部事情に詳しい。スヘース・アーク収容後は妹い子供たちの面倒をよくみている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ドワイト・カムリ

■Notes: フロンティアWから脱出した少年グループのひとり。軍医館の子息で高校では生徒会長ともめていたため、誰かにリーダーシップをとろうとするが、危機管理能力にかけ、ひたすらオロオロする。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

Gキャンノン

■Height 14.3m Weight 8.7t

■Notes: 支援用に開発された連邦の新型MS。支援用と取り切って、余分な機能を省き減量として開発がなされているため、一部パイロットにはヘビーガンよりむしろこの機体のほうが受けがよかった。肩に取り付けられたマシンキャンノンは別な武装への交換や取り外すことが可能な設計である。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

レアリー・エドベリ

■Notes: 連邦軍士官候補生、のちに連邦艦隊スヘース・アーク艦長代理、クロスボーン襲撃により正統軍人が絶滅的な打撃を受けたため、たまたま奇運でだったスヘース・アークの指揮をとることになり、フロンティアサイドの難民を収容、丹方面への脱出を画ろうとした。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

スペース・アーク

■Notes: 旧式なクラブ級遠征洋艦を宇宙軍の練習艦として改修したもの。士官候補生の演習を名目にフロンティアサイドに奇襲していたが、実際には新型MS、F91のテストがその目的だった。クロスボーン・バンガードの襲撃によりほとんどの正統乗組員を失い多数の難民を収容することになる。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

MOBILE SUIT GUNDAM F91

PRIDE

◎機動戦士ガンダムF91 誇り

ザムス・ナータ

■Notes: クロスボーン・バンガードの小型
駆逐艦。サイズの関係で射出力タバ
ルトは持たないが、艦内に4機の
MSを搭載。おもに哨戒や駆逐の任
務にあたる。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ザビーネ・シャル

■Notes: クロスボーン・バンガードMS特殊部
隊、ブラック・バンガード隊長。家柄ではなく、
能力を認められて立身した有能な軍人であり、
ロナ家の側近も厚くフロンティアサイド侵
攻にともなひロナ家にもとつたペラ・ロナの機
動をまがされている。クロスボーン・バンガ
ードのエースとしてコスモバビロニア戦役で活躍
したが、コスモ貴族主義の信奉者ではあるもの
の、ロナ家とはまた別な思惑を持っている。
、戦後は行方不明になっている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

デナン・ゲー

■Height: 13.9m/Weight: 7.1t

■Notes: クロスボーンの銀鋼型MSで機動性を
重視し、一撃離脱を旨とした機体。そのため武
装はビーム・ライフルやミサイルなどの遠距離
兵器主体である。高機動で重武装というこの機
体のコンセプトは通常のMS開発にもショック
を与えた。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

デナン・ゾン

■Height: 14.0m/Weight: 7.9t

■Notes: クロスボーンMS初の実用機であり、
すべてのMSの基礎となった機体である。小型、
高機動で標準装備のショットランチャーを使った
ドッグファイトを得意としている。特徴的なカ
メラアイの形状など、クロスボーンの特徴が既
に出揃っていることがわかる。ビーム・シールド
をはじめで搭載した機体としても知られる。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91



ダギ・イルス

アンナマリー・ブルーシュ

ザムス・ギリ

ヘルガ・ギロス

- Height 15.7m/Weight 9.1t
■Notes クロスボーン・バンガードの指揮官用MS。指揮官機にあふわしく機動性、センサー類、通信装置が大幅に強化されており、基本性能がきわめて高い。背部に特徴的な形状の「シェルフノズル」と呼ばれる可動式のノズルを搭載しており、目的に応じた姿勢調整をおこなう。主武器はクロスボーンMS独自の兵器ショットランサー。
First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ジレ・クリューガー

- Notes クロスボーン・バンガードの大佐で鉄血軍の近臣。鉄血軍の私兵約な人物で、彼の意を受けて独断にラフレシア・プロジェクトを推進していた。ラフレシアの戦線投入時に戦死している。
First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ダギ・イルス

- Height 15.0m/Weight 9.7t
■Notes クロスボーン・バンガードの偵察用高機動MS。高性能センサーの塊のような機体で、おもに偵察や情報収集任務にあたる。隠匿性を高めるため、ビーム・シールドなどは搭載されておらず合金性のシールドを持つ。偵察部隊の指揮官のための機体であり、通常は同様の目的でつくられたエビル・Sと連携を組んで作戦行動に従事する。腰部に拡張ビーム砲を持ち、オプションでビーム・ライフルも装備可能。
First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

アンナマリー・ブルーシュ

- Notes ザビーネ・シャル配下の士官。偵察部隊の指揮官として彼を補佐するが、ザビーネのペラ・ロナに対する態度に不審感を抱き、作戦行動中に逃げるも死亡。以後、連判刑の戦力として実戦参加するが、無の部隊との戦闘で戦死した。
First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ザムス・ギリ

- Notes クロスボーン・バンガード宇宙軍の主力戦艦。強力な火力とMS射出カパ/リットを1基持つ。MSの運用能力はあまり高くないが、艦隊戦での主役である。
First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ラフレシア

■Notes クロスボーン・バンガードの軍医指揮官カロッジ・ロナ（鉄仮面）が秘蔵に蓄めていた人の意識を強化、拡大する研究「ラフレシアプロジェクト」。これが副産物的に生み出した異産別大量殺戮兵器の開発で、敵となる大型M.A.、人間の生態反応に無作為に反応し対象を破壊する自動兵器バグ。これをコロニー内に解き放つことで大量殺戮をおこなうカロッジが開発した兵器で、おそらくはこのコントロール用に開発されたのがこのラフレシアだと思われる。本体は精神コントロールと生態反応に対する自動攻撃を組み合わせた多数の触手を持ち、これにより敵機を捕獲もしくは破壊する。巨大な花弁のような独特の形状を持ち、他に武装として多数のビーム・キャノンを持っている。鉄仮面白らがこれに乗ってフロンティアサイドに攻撃したが、F91との戦闘により破壊されている。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

鉄仮面

■Notes 本名、カロッジ・ロナ。常に奇妙な鉄製の仮面を被っているためこう呼ばれる。コスモ貴族主義の提唱者マイツァー・ロナの孫。ナディア・ロナの養子であり、クロスボーン・バンガード軍組織の軍医指揮官。もともとは科学者であり、人間の意識の拡大について研究をしていた。それが戦の凶害にもなっており、過激なまでのコスモ貴族主義の信奉者となり、自らも強化人間へと生体改造し、鉄の仮面を被って強制的にコスモ・バビニア建設に邁進する。最終的には自らの研究をバグやラフレシアといった異産別大量殺戮兵器の開発へと応用し、フロンティアサイドでのその実戦運用の際、ラフレシアとともに戦死したとされる。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ベルガ・ダラス

■Height 15.0m, Weight 9.3t

■Notes クロスボーン・バンガードの指揮官用高機動MS。ベルガ・ダラスの開発ベースとなった機体であり、シェルフ・ノズルなど基本的な技術はこの機体の時点で既に完成の域にある。主武器はショットランサー。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

鉄仮面

ベルガ・ダラス

MOBILE SUIT GUNDAM F91

LINEAGE

◎機動戦士ガンダムF91 血脈

エビル・S

マイツァー・ロナ

ドレル・ロナ

ザムス・ジェス

ザムス・ガル

ドレル・ロナ

■Notes ベラ・ロナの異母兄で、カロッツ・ロナの連れ子。祖父マイツァーの命により、ベラ・ロナの巨収作戦の指揮をとった。ロナ軍の道義ではいたる白練得られた部分もあったが、実力で現在の地位を築いたという自負を持ち、ザビーネ・シャルをライバル視している。
First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

エビル・S

■Height 13.2m Weight 6.8t

■Notes クロスボーン・パンガートの標準用MS。この時代の軍用MSとしてはもっとも小型化された機体で、隠匿性に優れ、偵察機などでの運用でも十分に貢献。情報収集をおこなう。基本型には短距離のダキ・イルスと数機のエビル・Sでの編隊運用がなされる

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

マイツァー・ロナ

■Notes コスモ貴族主義の精神的支柱であり、巨大企業体ブッホ・コンツェルンの総帥。官僚主義の蔓延と暴動抗争を繰り返す市民の生活を顧みない連邦政府とコロニー公社の在り方を嫌悪し、実力主義による新たな身分制度「コスモ貴族主義」にもつづいた理想国家コスモ・パビリニアの建設をとなえ、クロスボーン・パンガードを創設した。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ザムス・ジェス

■Notes クロスボーン・パンガードの主力部隊。前後2基のMS射出カタパルトを持ち、そのスピードと相まってクロスボーン艦隊のMS運用の要となる艦艇。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

ザムス・ガル

■Notes クロスボーン・パンガード艦隊旗艦。艦隊を四つに分離可能なと、指揮用の艦艇として生存率の高さを極限まで考えてあり、分離したカタパルト部で独自に回収がおこなえるなどMSの運用にも優れている。ラフレシアやバグといったカロッツ卿家の特殊兵隊の駆動メカニズムも搭載。

First Appearance: 機動戦士ガンダムF91

EPISODE CHECK

F91 1で最もスリリングな瞬間

「F91」で最もスリリングなシーンを挙げるなら、冒頭の8分間につける。

まず、オレンジの光。金属を焼き切る音。光が、フレームの中に四角く映り、そのフレームをまたいだ瞬間、爆発音とともに人型のロボットが、暗い宇宙の中に身を躍らせる。そして、その姿がストップモーションとなって、開巻を告げる。なかなか音楽とともにサントラが示される。

続いてカメラは光の軌跡を狭しだし、素早い移動を重ねながら、ガラスの向こうにある雲をこえ、さらにはそこにある大地——そこは住宅密集地だ——と、再び、その中でも学園街でミズホが通った中らしい学校の敷地へと舞い落ちていく。

この描写した部分で約1分だがその間にかなりアクションをつまみあかるとも、観客はかなりの心拍を駆け取り続ける。舞台となる世界で、人知れず人工的に作られた居住環境に自覚を以てしている。また、人型ロボットが主眼に、作題タイトルのつかえたところからすると、人型のロボットが重要な役割を果たす物語でもあるようだ。

もちろん、このようにする観客は、この特撮がガンダム・シリーズの中の一歩だと「作ごとを知っている」人ほとんどのはず。彼らは、人型のロボットがモビルスーツと総称されること、人工的に作られたスペースコロニーと呼ばれることを、常識として知っている。だから、ロボットの「作られた」背景を必要とせずに、その「常識」にこだわらず、初めてガンダムの世界に触れた観客に宇宙世紀という世界を実感してもらうために、ささいな描写を積み重ねる。冒頭の8分間は、そのために最も重要なパートであり、そのわずかな間に世界観がある程度伝わらなければ、それ以降の論理的な説明が重層的に伝わらなくなってしまう。F91の冒頭の5分がスリリングなのは、物語を支えている世界観、その論理の部分を論理ではなく、映画的なテクニックを使って、感性や感情のレベルで伝えようとする演出者の技が明確に示されるからだ。

例えば、モビルスーツの大きさ。ガンダム・シリーズに登場するモビルスーツは全高が16mから18m、冒頭の1ショットでこそ、その大きさははっきりと示されないが、2分を過ぎた時点で、宇宙空間を移動するモビルスーツが人間のすぐ上を通過するシーンが登場する。接触するかもしれないが距離を稼がずに飛行していくモビルスーツは、見た目だけでなく、その静かさと巨大さを一層強調する。そのモビルスーツは小型の宇宙空間移動用マシンをその機体にひっ付け、搭乗者はいとも簡単に前方に投げ出される。もちろん、巨大なモビルスーツに投げ出されたら危ないことは言うことはない。ただモビルスーツはカメラのすぐそばを通過し、何事があったのかとゴーグル状のカメラに露骨に反応するだけである。

小人の国に巨人が紛れ込んだような、この瞬間、モビルスーツにとってはなんでもないが、人間にとってはとても大きな影響が大きい。8分から8分30秒にかけてカメラは、この瞬間を捉えている。もちろん、巨大なモビルスーツに投げ出された搭乗者の反応を映し出すことはしない。ただモビルスーツはカメラのすぐそばを通過し、何事があったのかとゴーグル状のカメラに露骨に反応するだけである。

「F91」の冒頭8分間は、観客の心拍を駆け取り続ける。



ミズホ、カンドー、サイドを走っている学園街にジェガンが登場。それに合わせてシーブリンク。



左からアーサー、ユング、セシリー、リア・マリバー、ドロシー・ムーア。



ブーイングの同僚、ドワイト・カムとサム・エルグ。彼らはコロニーから救出する。



高次元の力に目撃されて、元と再会をするセシリー。



ロケットで救出をするセシリー。「もう自分はいない」と思っても、そこにいるのかと女医に。



自らを犠牲者をつけた産山をセシリーに感謝するカレン・ロー。



母父マイクファーと再会、アイトルになることを決めるセシリー。

のアクションとリアクションの関係を丁寧に積み重ねて、モビルスーツのある世界を質感をもって描いていく。

先に登場した学園祭開催中の学校の校舎に墜落する高機動のモビルスーツ、ジェガン。ジェガンはその状態で、



モビルスーツ「ジャック」はF91をばいにして、5分、思わぬ戦況をあげる

さらに戦線を進行しようとする。その合図には、ジェガンによって壊れた教室の下敷きになる人々のショットが挿入される。また、もう墜落してきたもう一機のジェガンは先ほど出て風景の一部に過ぎなかった樹木をなぎ倒して着地する。とロイン、セシリーとはいえば、ベビーガンのバーニアにあおられよけたために、結果として命の危険にさらされる。いずれもモビルスーツのアクション・人間のリアクションといわねば、その大きさを描写する。この間、カメラは一度も、モビルスーツの側にはまわらずとはなく、あくまでも2m以下の人間から見たモビルスーツの巨大感にこだわっている。ここまで徹底して描けば、モビルスーツのスペックを知らなくとも、その大きさを実感として感じ、そこが引き込まれる恐怖もわき上がるだろう。その恐怖心をおおる演出は、そのまます「脱出」という主人公シブブックたちの動機の説明ともなり、作品世界の説明と物語を有機的に結びつける。

さらにいうと、冒頭の5分間に盛り込まれた要素は、モビルスーツの巨大感だけではなく、シブブックとセシリーの性格を印象づけるやりとりがある。そこにカットバックしながら、シブブックの父親を狂気溢した戦艦をめぐる大状況断片的に説明し、さらにセシリーの父がなにやらたくらんでいることまで示す。実はこの二人の父親が並置されている時点で、既に本作のテーマに触れているのだが、演出はそこに留まらずそしめ顔をしてお客を欺く。ここに盛り込まれた膨大な情報量がそのまま即時に理解できる、とはいわない。だが、先にも書いたように、冒頭の5分はこうした情報を論理ではなく、感覚に訴えかけることで「なんだかわからないけどとてもないことが起きようとしていることわかる」という形で伝えようとしているのだ。

感覚に訴えるために、ここでは音響も重要な役割を果たした。実は先に、文庫で再読した冒頭の5分間で、BGMが鳴るのはただ一回だけ。タイトルが出る瞬間だけある。あとはわずかにミス・コンを巡り上げる会場内の音楽が流れる程度。耳に届く音のほとんどは、独特の高い音で表現されるクロスボーンズの飛行音や爆音、バニクに降った人々の叫び声などで占められている。音楽による感情の誘導ではなく、あくまでも情景に生々しい「現実」を体感せよとされているのだ。そうしてこの冒頭で示された論理より感情に訴えるという方法路線を駆使しつつ、前半の25分の「戦争に巻き込まれた少女少女」という物語は進められていく。

テレビシリーズを映画にまとめたからこそそのテクニック

「F91」はもともとテレビシリーズ用に企画が進んでいたものを、かなり強引に圧縮して映画の体裁に改めた。そのため、基本的に物語内容が詰め込みすぎて、劇場用新作にも関わらずまるで再編集映画のように感じられる場所も多い。例えば、F91に



あやとりを挟んで、母艦も一か所思い出さざるリリス。彼女がシブブックの母だ



ロナ軍の機師リナ・ロナ。彼女ではなく、実力でエースパイロットの地位を勝ち取った



セシリーの母アニア・ロナと義父のシロ・フェアチャイルト。シロは文字通り真逆のハンター



カリンに詰め寄るアニア、リナはカリンを連れてシロと駆け落ちをした



彼の髪を染めるジーネ・シロ。百合の花を手にするセシリー



ザビーズに野望を持つアンタマリ・ブルーシュ。機体機体用MSダーク・イルスを操る



シブブックの父は息子を守るためにケガを負い、戦死する

EPISODE CHECK



「だからこそ本家の『9』が示された、論理ではなく感性・感情に訴へる演出は、もった。エンターテインメントしなければ他社の部分は、演出が半分出さずとてカバーし、観客を納得せしめるのが『9』の映画として察とめる戦術だったにちがいない。だから、見える言葉の5分は、それと知らない内に観客にこの映画の基本的な方向性を感じていただけたらいい。」

開始20分を過ぎ、トクされる。ドレ・ロナがモビルスーツ、ペルガ・ダラスでセリリーを迎えに現れるシーン。ドレ・ロナは言葉巧みにセリリーに、ロナ家の全権を譲める。だが、そこでトクされたのはやはり味ではない。ペルガ・ダラスの演劇のライドが次第に怪物ドレ・ロナの光、マイクを通して天から周囲に響くドレ・ロナの声。この二つによるも、このシーンはおもえない作画的な雰囲気。このシーンは映画内というより、むしろスポットのイメージ。舞台のイメージすらあるのだが、そう見えるのもまた映画的特徴の1つなのだ。富野トク「舞台的」な雰囲気の中でセリリーを劇場のようにとらえながら、同時に観客をもた「トク」ておこなうセリリーの演技を表現した」想像にさせよう、ここでは二重の演出をなしているのだ。

このように論理でなく気分を演出することで、観客の感情を揺さぶるためのシーンは、クライマックス近くにもある。

まず1つは、セシリーのビギナ・ギナとシーブックのF91が、共同で決断し、鉄板面を削ることを決意するシーン。シーブックとセシリーの会話でテンポよく進められ、意味以前の二人の決意を観客は理解したような気持ちにさせられる。「この二人」や「とりを認めた」物語は、モビルスーツ、ラフレシアとの決戦へと向かう。

そして、ラフレシアと鉄板屋を倒した後のラストに至るシーケンス。最初は、中
にビギナ・ギンガら投げ出されたシリーは行方不明。必死にそれを探る。そのシー
ブック。そして、それに手を取るかすシーブックの母、モニカ。モニカは「FOE」のバイ
コンピュータの使い方を指導し、セリーの存在を感知しようとするシーブックの比
喩的暗示。この関係といふテーマからも合理的なシーケンスの描かれ方。また、カ
ンパは全編、その能力のある原動力である。

「さあ、セシリーがセシリーの存在を直感した瞬間のセリフは、どのような状況をや
すやすと原稿にする。『セシリーを感じられたの?』と問うモニカ。『あ、シーブックは

開口一番「逢うんだ」と訴える。「あれ、花なんだよ。セシリーの花なんだよ。セシリーに決まってるじゃないか」と、単身モビルスーツを飛び出す。映像はあくまでも一瞬だが、バイオセンサーの働きをかりてセシリーを感知したかのように見える。おぼろげな、セリフはそうした心理的整合性をわざわざ否定するようになっている。このラストは明らかに、愛し合う二人が抱き合いを交わすのに達意はいらない。この映画の作法に従って演出されているので観客は道八郎のSF設定の論議ではなく、演出によって醸し出された「情懷感」が缺けていなければ、映画は終わらない。だからシーブックは論議を否定するようなロマンチックなセリフを言うのだ。こうして論議よりも感性・感情に軸を置いてまとめ上げられた映画「F91」は、終る。

「F91」の評価をめくって

以上、演出面から「F91」を総覧してみた。だが、ここでは感情の都合上丁寧に説明できないが、この感情を揺さぶるテクニックと知識を要する上に、「F91」はテーマである「親子関係」については、かなり丁寧に言葉で論理的に説明しているのもまた事実ではある。少しだけテーマについて書くのなら、「F91」は親たらずとも能やかに育つ子ども、という部分にニュータイプの希望を込めさせている。そのためにすべて計算されて親子関係のドラマを設定している。

「F91」に密に込められた論議と感情によって膨大なキャラクターとエピソードを見るにつけ、「F91」は、富野にとって、それまでの作品と比べてみても、かなりテクニック優先で情報を整理し、まとめた映画であったと言えるのではないかな。

確かに「F91」には作画が一部あれるとか、物語が中途半端に積み残されるとか、いくつかの明らかな欠点がある。だがその一方で、「青の8号」監督の前田真景のように「好きだ」と明言する人がいるのも事実だ。

それは言葉で論理的に論議に設定されたテーマがある一方で、それが論議のまま物語を浸食せず、ストーリーそのものは富野の個人的テクニックによって実に巧みに気持ちを楽しく誘導しているからに違いない。そういう意味で、実は「F91」は富野の演出テクニックが突出した結果、彼の語るエンターテインメント作品の一端に触れている作品になったといえるだろう（いや、厳密にいかならず）。

富野自身は「F91」について高い評価をしていない。それは、彼の中に稀世に設定されたテーマと自らのテクニックの中だけで作った計算された映画という自覚があるからだろう。聖戦士タンバリンに参加したメカデザイナー高橋一貴によれば「(富野監督は)理詰めで押していった最後の最後でその末まじゃ気が清まくなり、必ずそこから誰が外す部分をつくらたがる」という。そういう意味で、F91は、その素直に情が世界を突き崩さなかった部分において、富野にとっては不満の残る作品となっていると同時に、観客からは愛されているのではないだろうか。



セシリーのユリの花を手伝うシーブック



自らのエゴを強化し、滅びへて突き進む敵軍「女は情しがない」とつぶやく



セシリーをモビルスーツのバックビートから引き出す敵軍



F91に迫る来る宇宙の戦士先頭にはテンションあふれるM5を切り裂く



能力が爆発した「分身」を止めるF91。興奮を持った敵軍に浮かぶ



F91は、破壊されたモビルスーツの機体を使い、ラフレシアを破壊する



戦場の虚空の中で「自ラセシリーを戻す」シーブック



これは新たな物語、歴史の第一歩に過ぎなかった

CHRONOLOGICAL TABLES

U.C.

- 0141 マリア・ピア・アーモニア、サイド1で占拠始める。
- 0144 マリア主義の集団が生まれ、サイド1のアルビオン地方に独立組織を申請。
- 0145 ファンセ・カガチがマリアと接触。
- 0146 地球総士ガチ党がマリア主義の集団を母体して生まれる。
- 0147 最収束で転送された直近グループを糾弾、ギロチンで死罪に処す。母と子の行動力が人脈を築き、ガチ党はサイド2アメリカの政権与党となる。
- 0148 リガ・ミリティア、実質的な結成期として再編成。
- 0149 サイド2においてザンスカール帝国が建國宣言を行う。リガ・ミリティアがV(ヴィクトリー)計画を策定。
- 0152 ザンスカール帝国の部隊ベスパ(のイエロージャケット)が、中東のラゲーンを攻撃。民間航空基地を占拠して基地とする。
- 0153 Vガンダムが本格的に稼働を開始。リガ・ミリティアは地上や宇宙でレジスタンスを展開。ザンスカール帝国は、ニュータイプ能力者などを利用した最終兵器エンジェルパイロットで、地球上の人々を奴隷化しようとするが、V2ガンダムの活躍などで最終的にその計画は阻止される。

KEYWORD

マリア主義

マリア・ピア・アーモニアによる専制社会の成立を目指す思想。従来の父系社会、男性社会のあり方に疑問を呈する主義である。もともと古い師だったマリアによる奇跡の力は、救いを求める人々にとって、その思想の正しさを実感させるものだった。

ガチ党

ファンセ・カガチが組織した武装政治集団。アメリカ政府で自治権獲得運動が盛り上がる中、活動をはじめ、後にマリアと接触。マリアの訴える「母なる存在」を守るために武力を行使する、という論理で、マリア主義の信者にもその影響力を広めていく。

ザンスカール帝国

V GUNDAM'S WORLDVIEW

コスモバピロニア帝国戦争以降、地球圏はまた新たな事態に突入した。連邦政府の権威が失墜する一方で、自分たちのコロニーは、自分たちで守るというコロニー主義が広まり、各コロニーは独立国家並の自治権と商権を行使するようになった。こうして、地球連邦がその変化をたまただ静観しているうちに、宇宙は戦国時代の権相を呈したのだった。一方で、エリートしか暮らすことを許さない地球だが、大地にあこれ不法に海渡する人々も後を絶たなかった。そうした状況の中、サイド2でマリア主義を掲げつつ、ギロチンで恐怖政治を行うザンスカール帝国が成立。地球侵襲を開始する。地球連邦にはもはやザンスカール帝国に抵抗するだけの力はなかった。だが、ザンスカール帝国の恐怖政治に反対する一部の民間人は、リガ・ミリティア(神聖軍事同盟)を結成。独自にザンスカール帝国の地球支配に抵抗しつつ、連邦軍の決起を促していくことになる。

TECHNOLOGY

ザンスカール帝国は車輪の機能を生かしたさまざまな兵器を開発した。大型戦艦バイク、ガリクソンのほか、タイヤ付き宇宙船の戦艦アドラステアと遠洋艦リシチアが印象的だ。また、MS支援メカとしてタイヤ型のインフラッドとツインフラッドも、重要な戦力を担った。これは、縦に回転するリングの中にMSゲドラフなどを搭載、ビームシールドで保護しながら移動、攻撃を行う仕組みで、後に登場するMSブルッキングにおいては機体背面に折り畳み収納することで、標準装備となった。このほか、ビームシールドの発展型で、飛行と防衛の双方に使えるビームローターもザンスカール帝国独特の技術だ。

一方、リガ・ミリティアが開発したV2ガンダムは小型化したミノフスキードライブを初めて搭載したMSだ。ミノフスキーードライブは、内側のフィールドの反発力で推力を得るもので、理論上は亜光速まで加速が可能という。

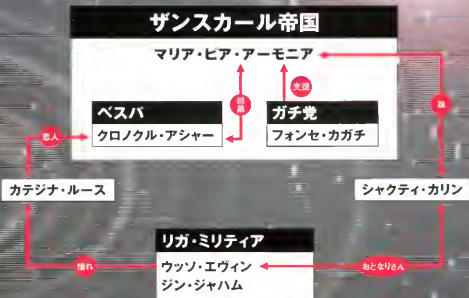
地球から最も近いコロニー「アメリカ」で建国、母なる存在の重要性を説くマリアを女王に置き、その権威の下にガチ党が政権を担当している。マリアの教義を地球圏にあまねく行き渡らせるのが目的である。だが、同時にギロチンによる公開処刑を復活させ、恐怖による治安の維持も行っている。

ベスパ

「舞臺研究と宇宙偵察部隊本部」の略。ザンスカール帝国軍を意味する。もともとは、ザンスカール帝国が連邦時に接収したサナリアの一機関の名で、これが帝国軍の母体となったため、その名前がそのまま使われるようになった。英語でベスパ/バチの意もある。

リガ・ミリティア

Vガンダム 相関図



ギリシア語で、神聖軍事同盟を意味する。民間人で組織されたザンスカール帝国に対するレジスタンス組織。正体不明の指導者、ジン・ジャハムの下、活動を行っている。

ジン・ジャハム

リガ・ミリティアの指導者の名。ラテン語で地獄の悪魔を意味する。その正体は不明だが、数人の人物がこの名前で活動しているらしく、ウツソの父ハンデルグ・エヴィンもまたジン・ジャハムの一人であった。

エンジェルハイロウ

ザンスカール帝国の巨大サイコミュ兵器。リングの中にニュータイプやサイキッカーら2万人を収容し、キールームに入ったマリア（もしくはシャクティ）の祈りをきっかけに全員の思念を増幅し放射する。この放射により地

球上の人間は幼児退行をうながされた。

ミノフスキー・ドライブ

V2ガンダムの胸から背部にかけてのV字ユニットに組み込まれている。これによりV2のコアファイターは、羽根にあたる部分をほとんど持たない非常にくまびょうのようなシルエットとなった。ミノフスキー・ドライブを稼働させると、V字部分からは、まるで羽根のように見えるビームの光が伸びる。

ビクトリー
Vガンダム

■Height: 15.2m/Weight: 7.6t

■Notes: ザンスカール帝国の地球圏侵襲に対し、民間ベースのレジスタンス組織リガ・ミリティアがその抵抗運動の象徴として開発したMS。そのため、一年戦争以後、地球連邦の守護者として地球圏の人々の間で伝説化していた白いMS「ガンダム」の名を与えられている。コア・ファイターを核にしたコア・ブロック・システムを持ち、トップ、ボトムパーツと組み合わせた多様な運用が可能な設計になっている。主武装は手持ちのビーム・ライフル。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

ウツソ・エヴィン

■Notes: 数州の不法居留民設置地区カサレリアに住む少年。居留地付近でたまたまテストをおこなっていたザンスカール帝国軍（通称「ベスパ」）の新型MSを奪い、ベスパと戦撃をおこなったことから、リガ・ミリティアに参加。その果敢を認められて抵抗運動の象徴であるVシリーズのMSのパイロットに任じられる。以後、抵抗運動の前途に立ち、対ザンスカール帝国との戦戦において多大な成果を挙げた。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

ミュラー・ミゲル

■Notes: ウツソ・エヴィンの母。リガ・ミリティア結成初期からのメンバーでMSの開発などの技術面や医療活動を担当。V2ガンダムをウツソらの所属するカミオン隊へと運搬。その後ベスパの暴走となり、カミオン隊が救出に向かったがその戦況の際に戦死した。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第10話

Vダッシュ・ガンダム

■Height: 15.2m/Weight: 9.2t

■Notes: 腰部に「オーバーハングキャノン」と呼ばれるビームキャノンを装備したVガンダムの火力強化型。オーバーハングキャノンのパーツは解体分離時の機体運用にも用いられ、コア・ファイターとの組み合わせでの運用形態は一年戦争時のコア・ファイター強化型にちなみ「コア・ブースター」と呼ばれる。MS時にも宇宙戦での機動力強化の意味もある。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第20話

Vダッシュ・ガンダム

Vガンダム

MOBILE SUIT V GUNDAM

FUTURE

◎機動戦士Vガンダム/未来



ミュラー・ミゲル



V2バスターガンダム

V2ガンダム

V2アサルトガンダム

シャクティ・カリン

■Notes カザレリアに住むウツソの初顔染みの少女。軽いを極める性格で、ウツソがMSパイロットとして戦うのに対して拒否反応を示すが、戦局の推移によって否応無しにリガ・ミリティア後行動をとめることになる。じつはガースカル帯部の女王マリアの私生女であり、そのためベスバにより戦線に追われ、涙のからす道に陥ることとなる。最終的に帝国の手によって身柄を回収され、戦事の最終局面においてはザンスカル帯部の「エンジェル・ハイロウ計画」に利用された。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

V2ガンダム

■Height 15.5m/Weight 11.5t

■Notes Vガンダムの実戦データをもとにリガ・ミリティアが新たに開発した新型MS。基本的にはVガンダムの機構をベースにしており、関節の汎用的な運用を意図して設計、開発がなされているが、MSには初の搭載となる「ミノフスキー・ドライブ」ユニットが組み込まれ、Vガンダムの接近型高出力とすまじい機動力を揮った。小型化されたミノフスキー・ドライブ自体はシステム上の効率化の点ではまだ完成度が低く、余剰エネルギーがユニット背部から放出され、その姿から「光の翼」とも呼ばれた。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第29話

V2アサルトガンダム

■Height 15.5m/Weight 1.3t

■Notes V2ガンダムにフィールドジェネレーター、ビームコート、ウェスバーなどを追加装備した突撃型の仕様。持ち持ちオプションとして大規模にビーム・シールドを展開できるメガビーム・シールド、メガビームランチャーなどがおり敵の大群の中に切り込み、充実した防弾力で敵の攻撃をしのぎつつ、その強大な火力で機動力を分断する、というような戦術が想定されている。旧時代のMSの中でもっとも急速での移動が可能なV2ガンダムの特性をふかしたバリエーション。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第40話

V2バスターガンダム

■Height 15.5m/Weight 13.8t

■Notes 中距離戦用武装を豊富に追加したV2ガンダム火力強化型。背部にロングレンジでの攻撃用のメガビーム・キャノンとスプレービームボッド、装甲各部にマイクロミサイルポッドがオプションとして追加されている。ミサイルボッド以外のバックパック装備はアサルト仕様でも装備が可能で、アサルト仕様はこの仕様のバックパックを追加したものを「V2アサルトバスターガンダム」と呼ぶ。これは火力だけでなく同時に最強のMSである。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第46話



シャクティ・カリン

MOBILE SUIT V GUNDAM

NEXT GENERATION

◎機動戦士Vガンダム/新世代

ネス・ハッシャー

■Notes リガ・ミリティア防衛施設秘密工場でカミオン隊に配備された女性メカニック。地球圏での戦闘から宇宙での決戦まで従軍と行動をともにし、VガンダムなどMSのメンテナンスを担当した。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第7話



ネス・ハッシャー

オデロ・ヘンリーク

■Notes リガ・ミリティア、カミオン隊に保護されていた難民孤児。自分より年少のウツがVガンダムのパイロットとして活躍するために触発され、のちにカミオン隊所属のMSパイロットとしてガンブラスターに乗る。ザンスカール帝国との最終決戦の場で戦死。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

ガンブラスター

■Height 14.9m, Weight 10.3t

■Notes リガ・ミリティアの量産型MS「ガンイージ」にブースターパックを追加し、機動力を強化した高機動型。宇宙空間で優れた機動力を発揮し、ザンスカール帝国のMSに対抗した主戦力である。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第27話

ウォレン・トレイス

■Notes カミオン隊に保護されていた孤児のひとり。オデロの弟分といった役割で、性格的にはおとなしい。戦争の激化とともに、こうした孤児たちが保護されると同時にリガ・ミリティアの戦力ともなっていた。戦時ゆえの非常措置ではあるが、悲惨な現実である。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

スージー・リレーン

■Notes カミオン隊に保護されていた孤児のひとり。送迎少女で、世話役として隊に貢献する。ペスバのギロチンによる追跡を事前で見たことがトラウマとなって残っており、ペスバを恐れ、憎んでいる。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話



ガンブラスター

オデロ・ヘンリーク

ウォレン・トレイス

スージー・リレーン



マルテナ・クランスキー&エリシャ・クランスキー

カレル・マザリク&トマーシュ・マザリク

カルルマン・ドゥカートゥス

フランダース

ハロ

コアブースター

カレル・マザリク&トマーシュ・マザリク

■Notes 太陽発電衛星ハイランドを占拠したヘスバによって人質にされていた子供たちの一員で、トマーシュが兄。カレルが弟の弟。救出出されただけはリガ・ミリディ後行動をとる。トマーシュはのちにMSパイロットとしてガンプラスターに乗り。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第21話

マルテナ・クランスキー&エリシャ・クランスキー

■Notes 太陽発電衛星ハイランドで人質にされていた姉妹。救出された後はいきなりリガ・ミリディの一員として活動し、小型宇宙船ホワイタークのクルーとしてサンホースをサポートした。エリシャが病で、マルテナが妹。戦後は家族とともにカサレリアに暮らしている。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第21話

コアブースター

■Notes Vガンダムのコア・ファイターにオーバーハング・バックを取り付けて運用する一種の強化タイプ。ビーム砲とガンリングガンが追加され、前部距離も大幅に上がる。これにより、パイロットの射出ポッドの性格の強かったコア・ファイターが単体の戦闘機として「使える」機体へと変化する

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第20話

フランダース

■Notes カサレリアでシャクティが飼っていた犬。利口な犬でウツンとシャクティがリガ・ミリディに参加した後も、彼らに同行し、部隊のマスケット的存在となっただけでなく、彼らの危機をもたげ救った。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

カルルマン・ドゥカートゥス

■Notes ベスバの空襲により母親を亡くした赤ん坊。ウツン・エヴィンの手で拾われ、シャクティが親を亡くした彼を引き取って世話をしていた。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第3話

ハロ

■Notes ウツン・エヴィンが愛用するAIモジュール。アムロ・レイが制作したベトロポッドとの関係は不明。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

ジュンコ・ジェンコ

■Notes: リガ・ミリティアのMS部隊、シュラ
ク隊のリーダー。女性ばかりの部隊を指揮官と
してまとめるだけあって隊員たちの信頼も厚
い。カラスキリー戦で戦死。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第
10話



ジュンコ・ジェンコ

マーベット・フィンガーハット

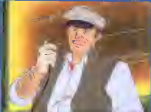
■Notes: Vガンダムのテストをおこなうために
カミオン屋に派遣されてきたテストパイロット。
MS実戦が隊長のオリファ・ノイエと恋
愛関係になり、彼の死後はその役割を引き継ぎ、
部隊指揮をおこなう。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第
1話

ロベルト・ゴメス

■Notes: 連邦軍の軍人だったが、不安定な軍
の体制にイヤ気がさしてリガ・ミリティアに向
向。参加し、リオンホース、リオンホースJr
の艦長をつとめる。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第
11話



ロベルト・ゴメス

Vガンダム・ヘキサ

■Height: 15.2m/Weight: 7.6t

■Notes: 通信機能とセンサー機能を向上させたV
ガンダムの指揮官用バリエーション。のちに高
性能センサーのため、一般用に量産された。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第
18話

ジェムズガン

■Height: 14.7m/Weight: 7.1t

■Notes: 連邦軍重産型MS。ヘビーガンの
後継機で、この時期にはすでに旧式化し
つつある。主武装はビーム・ライフル。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム
第10話

ジャベリン

■Height: 14.5m/Weight: 8.1t

■Notes: 連邦の重産型MS。宇宙戦用のMSで
背後にショットランサーと呼ばれる独特の可動
ノズル兼武器を持つ。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第
15話



MOBILE SUIT V GUNDAM

RESISTER

◎機動戦士Vガンダム／反抗者

マーベット・フィンガーハット



シャペリン

カミオン

ガンイージ

オイ・ニャング
エスデル・チャバリ

エスデル・チャバリ

ロメロ・ワグネル

オーティス・アークンズ

オリファ・イノエ

■Notes リカ・ミリティア、MS戦闘部隊隊長。パイロットとして実戦に出るだけでなく、MS部隊の編成、指揮もおこなう。マーベットのフィンガーハットと機動性で戦死。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第10話

第一期シュラク隊

■Notes リカ・ミリティアの女性パイロットのみで構成されるという非常に変則的な編成のMS部隊。ジュンコ・ジェンコを隊長にヘレン・シャクソン、マヘリア・メルル、ゲイト・ブッシュ、ベギー・リー、コニー・フランスの6名のパイロットからなる。使用MSはカンイージ。

第二期シュラク隊

■Notes ザンスカール帝国との戦勝で戦死者が相次ぎほぼ壊滅状態となった部隊に人員を補充し、隊を再編成したもの。メンバーは第一期の隊一の生き残りコニー・フランス、新人のフランス・スカ・オハラとミリエラ・カタン、それに増強した連邦軍部隊からリカ・ミリティアへ合流してきたユカ・マイリスの4名。部隊の総指揮はオリファ・イノエの後を継いだマーベットがおこなっている。

ガンイージ

■Height 14.9m/Weight 7.6t

■Notes リカ・ミリティアが独自に生産した量産型MS。Vガンダムと同時開発された機体で、突出した性能は持っていないが、生産性と汎用性が高い設計になっている。主武器は手持ちのビーム・ライフル、ビーム・バズーカ

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第10話

カミオン隊の老人たち

■Notes Vガンダムのテストをおこなっていたリカ・ミリティアの部隊、カミオン隊の中核を構成する老人たち。メカニクのオーティス・アーキズ、エスデル・チャバリ、警官のレオ・ニード、アルモデル、チーフメカニックがロメロ・マラベル。指揮官がオイ・ニャング。のちに彼らこと部隊は実戦部隊へと移行。

オイ・ニャング

■Notes カミオン隊リーダーであり、リカ・ミリティア結成時からの中心人物。ペバの潜入工作員によって拉致され、拷問の末、処刑された。後の死により、度内にも地球圏でのペバへの反抗は勢いを増した

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

SPELL

○機動戦士Vガンダム/呪縛

クロノクル・アシャー

■Notes ザンスカール帝国女王マリアの弟でベスパのMSパイロット。地球連邦を倒滅し、大気圏内では常に防弾用のマスクをしている。地球圏で新型MSのテストをおこなっていた際に民間人の少年にこれを奪われ、一旦軍内での立場を危うくするが、オイ・ニュングの捕縛などで徐々に功績を積み、のちにはモトラット艦隊司令として地球反攻作戦の指揮をとるようになる。エンジェル・ハイロウ攻防戦の際に戦死。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

ゾロ

■Height 1.48m Weight 8.9t

■Notes ベスパが大気圏内での活動を想定して開発した可変MS。上半身がヘリコプター状に変形して空中機動をおこなう。この際には下半身もリモートコントロールによる随伴機となる。ただ、多分に理詰りな機体で実際の戦闘でのパフォーマンスはかんばしくなく、合体システムのメンテナンスが面倒であることもあり、すぐに後継機種へ切り替えられた。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

リグ・コンティオ

■Height 1.67m Weight 10.7t

■Notes コンティオを元により攻撃的に改造された試作MS。右腕に長大な射程を誇るヴァリアブル・ビーム・ランチャー、左腕にオールレンジ攻撃が可能なショットクローを装備し、胸部にもビーム砲を三門有するなど、完全に長中距離での戦闘に特化した武装をもった機体。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第50話

コンティオ

■Height 1.51m Weight 10.9t

■Notes ザンスカール帝国の宇宙用MS。右腕に有斬式でオールレンジ攻撃を可能にするショットクローを搭載。パイロットの技量に応じ非常に自由度高い攻撃を実現する。試作型と量産型ではビーム・シールド発生機の仕様など細かい部分が若干異なるが、試作段階から非常に高い完成度をもった機体であったため、その他に大きな変更はない。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第20話





シャッコー

■Height 14.7m Weight 7.4t

■Notes ベスバの試作した汎用型MS、宇宙での運用テストの結果が良かったため、地上でのパフォーマンスを見るために地球へと持ち込まれた。ただし、このテストでは民間人に機体を奪われるという信じがたいトラブルを生じてしまった。しかし、この時の戦績記録からその性能のポテンシャルが高く評価され、のちにこのデータをベースにリグ・シャッコーが開発された

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

リグ・シャッコー

■Height 15.9m Weight 8.2t

■Notes シャッコーのテストデータと設計をベースに開発されたザンスカール帝国のMS。汎用的なMSを目指し、宇宙でも大気圏内でも同様のパフォーマンスが得られるように運動性を重視した構造になっている。地上用のカスタマイズとしてビーム・ローターを装備した機体もある。主武装はビーム・ライフルとビーム・ストリング、ビーム・ファンなど

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第26話

カテナ・ルース

■Note ヨーロッパの名家の娘。ベスバの空襲により焼け出され、リグ・ミリアのカミオン様に保護されていたが、ベスバの攻撃により降からはぐれ、遂にザンスカール帝国軍に保護される。リグ・ミリアに共感できずにいた彼女はむしろ異質なザンスカール帝国に共感。自らMSパイロットとなることを志願すると素晴らしい適性を見せ、エースのひとりとなる。エンシェル・パイロットの戦い以降の行方は不明

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

ゴトラタン

■Height 15.9m Weight 11t

■Notes シャッコータイプの最終型ともいえる試作汎用型MS。運動性を重視した汎用性の高い機体だが、オプションのメカビーム・キャノンユニットを装備することで攻撃力を増進。敵の接近を許した場合はユニットを排射して両敵射撃に突入と非常に使い勝手のよいシステムを持つ

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第49話

MOBILE SUIT V GUNDAM

INVASION

○機動戦士Vガンダム/侵略

アルベオ・ビビニーデン

■Notes ザンスカール帝國軍士官。「ヒビニーデン・サーカス」と異名をとる高機動MS部隊の指揮官として名を馳せる。欧州地区の抵抗運動鎮圧のために地球に降下するが、これに失敗。ヘスハ艦隊による大規模な地球降下作戦で母クレーン作戦においては、士官学校の後輩であるクロノクルの決意に響かれる。エンシエル・ハイロック防衛まぎわに戦死。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第7話



アルベオ・ビビニーデン



ルベ・シン

ルベ・シン

■Notes アルベオ・ビビニーデン配下のMSパイロット。カデシナ・ルースのパイロット教官もつめている。ビビニーデン配下の「サーカス」中でも特に勇猛をもって知られる女性でその気性の激しさから陣方にも恐れられている。Vガンダムのパイロットであるウツン・エヴィンに対してなぜか異様な執着心を見せ、彼を帝國サイドに取り込もうとした。戦死。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第7話

ブルッケンゲ

■Height 14.1m Weight 44t

■Notes サポートメカとして開発されたタイヤ型のMSキャリアーを分解して背中に背負ったタイプのMS。アインラッドタイプのキャリアーは敵に奪われることが多かったためこのような形でMSと一体化したものがつくられた。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第36話

トムリアット

■Height 15.0m Weight 8.6t

■Notes ベスJの可変MS。ソロタイプで簡略となった複雑な合体・分離機構を廃し、単体で空中機動形態へと変形が可能。地上戦のために開発されたが、基本性能が高いため宇宙での運用も可能。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第26話



ブルッケンゲ



ゴッゾーラ

- Height 14.6m. Weight 8.1t
■Notes ベスバの試作MS。頭部に特種な開発のモニターシステムを採用し、地上での実用テストに従事していた。一種の偵察型のな位置付けで開発された機体らしく、装備されているのは大腿部の多目的ランチャーくらいで、主武装は手持ちのビーム・ライフル。
First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第10話

ゾロアット

- Height 15.9m. Weight 8.1t
■Notes ギンスカール帝国が開発した最初の戦術用MSであり、この機体の開発によってギンスカール帝国と連邦との開戦を決定させたともいわれる。宇宙空間での戦闘では申し分のない性能を持ち、連邦軍を圧倒した。
First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第1話

ビルケナウ

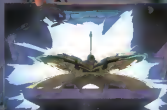
- Notes ギンスカール帝国が試作した宇宙戦用の巨大MA。機体での運用を目的としたもの、というよりはMS部隊の指揮用に開発されたもので、管制、通信機能が充実している。モビルアーマーの大量運用を活かし、戦術区域へすばやく到達、離脱し、マシンキャノン、メガ粒子砲といった大火力で部隊破壊をおこなう。
First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第42話

ゾリディア

- Height 14.7m. Weight 9.8t
■Note 合体 変形機構を備え、純粋にゾロアットベースの地上戦用MSとして設計された機体。アインツァットの使用が前提となって開発された。
First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第34話

サンドージュ

- Note コロニーの外装補修用のMW、虫のような特異な形状で8本のマニピュレーターで機体の固定と増修作業をおこなう。
First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第23話



ビルケナウ

ドッカー・イク& レンダ・デ・パロマ

■Notes: 戦艦バイク部隊ガッタール隊の隊長ドッカー・イクとその忠実な部下で恋人レンダ・デ・パロマ。地上に「バイク軍の集団」を築くために降下軍に志願、のちにタイヤ付きの戦艦モトラッド艦の開発を遂げ、これを容れられてリシティア城モトラッド艦を任された。リガ・ミリティアとの戦艦で戦死。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第11話



ドッカー・イク&レンダ・デ・パロマ



ゲトル・デプレ

ゲトル・デプレ

■Notes: ベスバ、欧州方面軍ラゲーン基地副司令。上官であるワラー・クリフォンと対立しており、政治的に弊を招きし連女の失態を隠した。リガ・ミリティア側が通信で使った暗号を解読し、一気に破壊しようとして自らMS部隊を率いて出撃するが、返り討ちにあい戦死。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第5話

ゲドラフ&アインラッド

■Height: 1.8m Weight: 4.9t (ゲトラフのもの)

■Notes: タイヤ型のMSサポートキャリアー「アインラッド」とのコンビネーション運用を窮乏に開発されたMS。単体での攻撃力や運動性ではなく、アインラッドとの相性を前提に考えられているため、全盛は小さく軽量であり、火器類はアインラッド側に集中している。側面からの攻撃に対応するため両腕にヒーム・シールド発生機があるのも特徴。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第28話

ジャバコ

■Height: 15.7m Weight: 9t

■Note: ザンスカール帝国軍には珍しく白兵戦用に特化したMS。これもアインラッド、もしくはツインラッドとの連携を窮乏に開発されたものだと思われる。両腕にビート・ロッドを装備し、格闘戦には強いが射出系の兵器は単体では手持ちのビーム・ライフルのみ。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第37話



ゲドラフ&アインラッド

ジャバコ

MOBILE SUIT V GUNDAM

WHEEL

◎機動戦士Vガンダム／車輪



ガルグイユ

モトラッド艦隊

ガルグイユ

■Height: 14.2m Weight: 9.8t

■Notes: ベスバの水中用MS。いちおう水中航行用のMA形態をとり、武装として魚雷を装備しているため水中での攻撃力、航行力に関してはそれなりのもを有しているが、宇宙宙であるザンスカール帝国の開発者が水中での戦闘特性をさほど理解していなかった上、テストもロクにされずに実戦投入されたため、運用時にトラブルが多発。現場の兵士の評判は、はなはだ悪い機体だった。

First Appearance: 『機動戦士Vガンダム』第16話

モトラッド艦隊

■Notes: ザンスカール帝国による大規模な地球圏下作戦「地球クリーン作戦」をおこなうにあたり、バイクマニアのドッグ・イクの画策によって開発された地上走行用のタイヤを持つ宇宙戦艦。バカバカしいようなコンセプトのものだけに建造物を破壊しつつ地上を走行する姿は悪夢に似たものがある。

ドムットリア

Height: 14.8m Weight: 8.2t

■Notes: トムリアットの強化改良型。

トムリアット同様に単体での空中機動形態への変形が可能で、そのシステム

の完成度はもっとも高い。空中、地上での機動はともに安定したもので、新たに格闘戦能力の充実も図られている。ベスバのヘリコプター変形型MSの最終完成型というべき機体。

First Appearance: 『機動戦士Vガンダム』第34話

ドッゴーラ

■Notes: 竜に似た特異な形状を持ったMA。水中用と宇宙用の二種があり、外見的特徴はカラーリング以外まったく同一である。その長大な電鞭型の胴体ブロックに多数のマニピレータースタイルの砲台を有し、フレキシブルに可動するこの砲台群と多彩なサブ武装で一度に複数のMSに攻撃を加える。オプション武装としては電磁ネット、ミサイルランチャー、浮遊機など。胴体ブロックはコンテナ状になっており、その付けかえによって全長は変化する。

First Appearance: 『機動戦士Vガンダム』第26話

MOBILE SUIT V GUNDAM

FAITH

機動戦士Vガンダム/信仰

マリア・ピア・アーモニア

■Notes ズンスカール帝国の女王。民間で娯楽法師のような活動をしていたところを力ガチに拾われ、女王へと祭り上げられた。彼女自身は思想的には母権を中心とした一極の博愛主義を説いていたようだ。その超常能力をエンジェル・ハイロックスシステムに利用され、混乱の中、暗殺された。

フォンセ・カガチ

■Notes ズンスカール帝国の政権与党力党の党首。傀儡の女王マリアを立てて国民的支持を得ての上にと、反対勢力に対し、ギロチンによる処刑を断行する恐怖政治をおこなったエンジェル・ハイロックス暗殺で死亡。

タシロ・ヴァゴ

■Notes ズンスカール帝国ナンバー3の地位にある軍官側のトップ。カイラスグリー作戦での失敗で自軍に壊滅的な打撃を与え、失脚。処刑寸前で逃走し、独自に艦隊を再編し、エンジェル・ハイロックス襲撃後に反乱を起こす。攻防戦の混乱の中で戦死。

アビゴル

■Height 12.6m Weight 18.4t

■Notes 宇宙戦闘用に試作された大型可変MS。テスト運用ではロクな運用結果を残せず開発プラン自体に疑問が持たれたが、再調整しての攻撃で真価を発揮。しかし、この時の戦闘で機体は壊滅し、開発計画も消えた。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第15話

シャイターン

■Height 15.9m Weight 11.8t

■Notes ズンスカール帝国が本土防衛用に開発した重装甲、火力重視のMS。機体中のいたるところにビームキャノンを開し、火力だけなら一領中絶分の重武装を持つ。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第23話

ザンネック

■Height 19.4m Weight 16.7t

■Notes ベスパにより、サイコミュ対応の攻撃型MSとして試作された機体。二機の光子加速機を持ち加給予知「ザンネック・キャノン」の発射が可能。

First Appearance: 機動戦士Vガンダム 第40話



アビゴル

マリア・ピア・アーモニア

フォンセ・カガチ

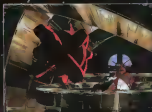
タシロ・ヴァゴ

シャイターン

メッペドーザ



キスハール・バグワット&カリンガ・ウォール



エンジェル・ハイロウ

ゲンガオン

メッペドーザ

■Height 14.7m, Weight 8.5t
 ■Notes ベスパの試作MS。試験的に両肩にビーム・ローターを装備し、両足にもターボファンエンジンを搭載。原型での空中機動戦が可能になっている。

First Appearance: 『機動戦士Vガンダム』 第12話

キスハール・バグワット&カリンガ・ウォール

■Notes 女主人マリアの近衛隊員。隊長のキスハールとその恋人カリンガ。隊方による策謀で同士討ちを遂げ戦死。

First Appearance: 『機動戦士Vガンダム』 第4話

エンジェル・ハイロウ

■Notes ザンスカール帝国の最新兵器。サイキック能力者を媒介に精神波を発信。人の意識に干渉し幼児退行現象を引き起こす。

First Appearance: 『機動戦士Vガンダム』 第4話

ファラ・グリフォン

■Notes ラグーン基地指令をつとめていたベスパ士官。地球でのゼロシオンによる絶倒を懸け、反乱勢力を恐怖により抑えつけようとした。その後、策謀により失脚し、流刑とされるが、タシロの手で救われ、強化された上でその直属となる。戦死。

First Appearance: 『機動戦士Vガンダム』 第5話

ゲンガオン

■Height 13m, Weight 14.3t

■Notes ベスパが開発したサイコミュ対応の試作MS。5門のビームランチャーを持つ。路地の飛行サポートユニットを連発連射で独立して動かすことが可能でこれ本体との運動攻撃をおこなう。

First Appearance: 『機動戦士Vガンダム』 第4話

ファラ・グリフォン



カサレリアで買ったウツとシャクティは、不遇旅者と書かれる存在だった(1話)



ひょんなことからシャコウを助けたウツは、あっさりそれを謝罪してしまう(2話)



巻き込まれて倒れたウツも、フウトリーの力を巧みに避けてしまうウツ(4話)



カタナは、クロノクルについて行くことに決める。それが彼にどんな結果をもたらすとも(8話)



リカ・ミリティアの機もしい銃軍。シュウク隊がカミオン隊を助ける(10話)



地中海の港町で、ウツはアブラに会った。お互いが機動士と知らぬままに(12話)



リカ・ミリティア、メスバの両軍が進行中、ウツはシャクティに優しく話しかける(14話)

EPISODE CHECK

Vガンダム

旧日本軍の力で作られたウツの『テレビシリーズによる『機動戦艦Vガンダム』』とのこと。機動戦艦を動かした『Vガンダム』。しかし、実際に放映された機動戦艦は、様々な評価を生むこととなる。その一番の原因は、幼い子供の視点から描かれる戦争の描写、人の死にあったかもしれない。ガンダムカンタムで描かれた。戦争の描き方を左右する。ニュータイプという言葉は存在して当然の前提とされ、その代わり、戦争の中にあかれた五人組、ガンガン人形、上の戦士として成長していく様子が描かれる。それは、ニュータイプの別の側面としての描き方とも受け取れる。その代わり、ニュータイプが直接的な要素は後半のキーとなるライコウエーブ兵隊、エンジェルハイロウ。の使用によって描かれる。ニュータイプの人々の交差を兵器として置き換え、武力による戦争ではなく元々の、心にある戦意への直接攻撃。確かに、これ以上の武器は存在せずその威力は絶大だった。しかしこれは人の心を、精神的に支配するという。戦争の意義を完全に失わせる物であり、それが正しいか否かはこのころから疑問はないだろう。人々はそんな兵器、の感情には関係なく戦い、死に、個人個人の戦争を必死で戦っている。その中、ウツやカタナ、クロノクルが乗り進めなければならぬものがあつたのだ。Vガンダム、か殺伐とした物語でありながら、非常に愛嬌を感じられるのは、激しい戦争の中で、目を逸らすことを許される。悲劇に直面する人々がじつと描かれていたことにあると思われる。

カサレリアからの旅立ち

(1話~14話)

まずこの話を見ればならないのは、

第1話~4話の構成。実は、第3話は第4

話とストーリーの両方から描かれ、(1話

の、1話からガンダムが登場しないの

はまずいという点からガンダムからの

クレームと、ガンダムが登場する第2話

の、ストーリーと描かれ、(1話と2話の両方

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話

は描き方も多かったと聞く。第1話と2話



ウツとカタナが話している様子



MOBILE SUIT V GUNDAM

本作は戦いをしているタイプであることがわかっている。このVガンダムは3機合
スライム、キャラクターのロリからして「Vガンダム」を意味した作りになっ
ていることが分かる。これにより、この世界には別の世界とつながっているのだと認め
て理解させられるのだ。しかし、この時代、「Vガンダム」は価値の概念という存在はあ
りなく、量産型で汎用性の高いMSのひとつである。反逆の象徴にすぎない。だがワッ
ソンのVガンダムは「手造り」して特殊な能力を付与する方を完成する。それは、少年とい
う少年の能力の高さを際立たせる演出とも受け取れる。そして、加藤英治監督は存
在するが、かつてのような能力はなく、肉体にしていることも分かる。

戦争に巻き込まれていくことで、彼地、カラスから必然的に出ていくことにな
るワッソ達。そんな中、戦いへの決意がつかないワッソは本人が自覚していないま
ま、Vガンダムを駆り戦いに勝利し続けてしまう。そしてそんなワッソの能力同様に、
彼に頼らなければならないリガ・ミリティアの組織としての弱さ、子供のワッソに破壊
力を持つ軍人達の描写は、やはりワッソを召喚しキャラクターを膨らませ、戦争という
戦い物を通して子供の視点で見ていくことで戦いへの理解が深まる。だが現実の描写は残酷な
ワッソは決定的な場面を見せよう、ワッソがカラスに引き込まれ、これ
により、リガ・ミリティアのオペレーションは進行され、ワッソの戦い、カラス
もワッソに引き込まれてしまう。そのワッソは戦い続ける理由ができたの
だ。そして宇宙のリガ・ミリティアと進出するカラスは宇宙へ向かう。そん
な中、ワッソは仲間の手を借りて自覚していくことになる。その後の描写もまた、戦
いへの自覚がない、キャラクターの元を再確認するのではなく、状況として、また間接的
に描くことで、さらにその悲劇性を増した演出となっている。

宇宙一対カラスキリー艦隊(15話～22話)

地球から戦場を移した宇宙での戦いは戦火の底から示していた、ワッソ、カラス、
そしてリガ・ミリティアと連邦の対立の図式は、リガ・ミリティアの、戦いへの決意
を否定なしに前向きさせていくことになる。

宇宙で連邦軍がリガ・ミリティアに協力を開始した、ワッソは宇宙へ上がる。この
時までのワッソは宇宙でリガ・ミリティアの組織の一員として組み込まれていた。そ



ワッソ、カラス、そしてリガ・ミリティアの戦い。ワッソは戦いへの決意を
示す(15話)。

れでも両親を探そうというこころ
に変わる部分は子供の感性を
色濃く残している。そしてそ
で出会うのが、ワッソの成長に
大きく関わることになるロバ
ートである。ワッソはカラス
のオペレーションを知り、ワ
ッソはロバートを助けるが、

の戦いで彼はワッソに、戦いを



宇宙で出会ったカラスのロバートは、ワッソを助けないとワッ
ソを助ける(15話)。



ワッソ、カラス、そしてリガ・ミリティアの戦い。ワッソは戦いへの決意を
示す(15話)。



カラスは戦いへの決意を示す。ワッソは、戦いへの決意を
示す(15話)。



ワッソに戦いへの決意を示すワッソは、戦いへの決意を示す。し
かしそれは失敗だった(15話)。



宇宙に駆け出されたワッソは、カラスの戦いへの決意を示す。し
かしそれは失敗だった(15話)。



ワッソの戦いへの決意を示すワッソは、戦いへの決意を示す。し
かしそれは失敗だった(15話)。



ワッソはカラスの戦いへの決意を示す。ワッソは戦いへの決意を示す。し
かしそれは失敗だった(15話)。



ザンスガール帝国内で、
出陣するにはザンスガールの西軍
に乗せるしかない(23話)



シャウティは、
マリアと再会を
果たす(24話)



ザンスガールから脱走するため、
ウツソは女王マリアを人質に取る
(26話)



カナンは、
保護したウツソの力に
導かれ、近侍を感じるのだった(27
話)



マクトリアの訓練室でオリフ
アとマートへの説明が行わ
れる(28話)



ルベシはウツソを自分のものに
したがついて、だかぬまえたウ
ツソに助けられる(29話)



ウツソはマーベットのガングラムを
飛行機のものにする、彼女を助
け出す(32話)

EPISODE CHECK

時に華たなければ死ぬのは自分だと、出口にもおどろき人としての誇りを持ち、高
昂、ウツソがロケットの力で最終的に脱走してこの結果となるのは、真に皮肉な結果で
あり、果たしたのは素直なもののために信じて行動することとなる。それではウツソが
信じた真実と素直なものの間に隔ちはあらずにいたのは、誰が「ニュータイプ」かも知れな
い。子供だったからともいえる。だが、前記した通り、ニュータイプについてはお中で
自然とで語られるだけで、決して物語のメインテーマには据えられていないのも興
味深い。ウツソは、宇宙での戦いの中で、消極的だった戦いへの姿勢を変えるべき人の
ため、敵を敵として認識しつつ、より積極的なものとしていく。それは、彼の優れた能
力の開花を意味していた。それがウツソにとって真実はどこかとはまた別なのだが…

一方、ザンスガール帝国は女王の名の元に軍備を強化させていく。理想主義を掲
げつつ、ギロチンによる恐怖支配から軍隊を強大化させ、戦力として無視できなくな
ったリガ・ミリティアを討つ大義名分を得たのだ。しかし、そのリガ・ミリティアによ
って地球攻撃部隊であるカリスギリー艦隊は撤退を余儀なくされる。だが怪我の巧
妙か、戦いの中で宇宙に投げ出された女王マリアの実の娘、シャクティはザンスカー
ルに保護される。ウツソは必死にシャクティを探そうとする。ここでもまた、軍人では
なく一人の子供としてのウツソの顔が見える。

ザンスガール帝国内部へ(23話〜27話)

ここでもまた、ウツソや仲間達は子供であるが故の行動を見る。ザンスガール帝
国内部への潜入。その目的は行方不明
となったシャクティを探すことだった。
連邦軍と行動を共に始めたリガ・ミリ
ティアはすでに軍隊であり、ウツソの行
動はとても容認できるものではない。し
かしそれを許してしまう部分もあり(ウツ
ソの行動を利用してザンスガールへの
攻撃行動を起す)。それは従来の連
邦軍などにはない、柔軟性のある組織と
いえるだろう。ただここには、子供だから
と許される、という、子供の行動力とたく
まじく、強い生命力が前面に押し出されて
いるように感じる。ウツソだけでなく、仲間
となったカナンやルベシ、ハイランドの子
供達は人々自身の行動を立立てている。「子供
の力」というのもまた、Vガンダムの特
徴としてあげられるだろう。

ウツソは混乱の中でシャクティを見つけたがシャクティは女王マリアの娘であり、
女王によってシャクティが命を奪われてしまった。ウツソはあえて彼女を連れ出すこと
はしない。ウツソはそこで、女王マリアと決する。マリアの情け、母性、母を感じ
つつも、敵と戦うべきは戦い。そして勝利はウツソ。しかしウツソは、あこがれの



MOBILE SUIT V GUNDAM

彼らは、そのジナが「お母さん」を自分の前に立て、お母さんを見る。お母さんしてしまったが、
 ジナは目撃者である。その瞬間、そのジナにとって、この行為は自己防衛であり、無事
 になり、お母さんではない子供だった。亡きお母さん、半人前となるので
 子供である。

マケドニア～地球への道(28話～32話)

しかしこの辺りから、カッソの子供とし
ての行動は違和感を見え始める。ジャク
ディを取り戻し、ザンスガールから脱出
を果たしたリン・ホース上校は、ザンス
ガール圏内のコロニー・マクトニアへ寄
着する(実質的な解放となる)。そこでカ
リフォルムとマーベットの結婚式が行われ



MS-DOSを動かす286マシンを動かすように改

る(演出のための作劇の一環でもある)。ここにワグネルがみせたオリヴァーへの嫉妬心
は子供から読解しつづける。男、奥さまをさし殺された。また、同時に演出時節を導く
ために、自らおとりを買って出ることも、ワグネルが一人前のリカ・ミリテ・アになりつ
づけるのだと思わせる導きだ。ここでは、ワグネルの前に立ちふさがるのがカチアと
いう娘は興味深い。黒く延えるべき息い出が怒として登場するという矛盾にもまぎ
ワグネルは、すでに大人の男の顔に育っているのだ。またここで、ワグネルの成長を象徴する
かのように、新しきMS-V2ガンダムが登場する。V2はワグネルの母、ミューアが作った
ものだった。母に再会し、子供として甘えるつづいたが、母はそんなワグネルを自分の子
供ではなかった。一人前の戦士として扱う。そのことほど苦しい思いを隠せないワグネル。それも
また、子供から大人へ向かう少年の成長を描いているのと受け取れる。もう子供として
甘えさせてくれるほど、事実は甘くないというところだろう。

グンスカール帝国が地球へ向かう動きを見せ、その戦いの中でガンダムと出会う兄と
も言うべきオリファが先に、補給は分岐点へと向かう。戦いの星は再び地球へと移
っていくのだった。

母の死～再び宇宙へ (33話～40話)

地球を舞台とする話まで、非常に印象深く描かれるのが地球の自然だ。広大な海、山地、そしてカサリティア……。そこには思い立つほどの自然の雄やかさと神秘さが同居している。海で死に、雲にあざむく大層の空は、自然の摂理を描くと同時に、地球がまだ浄化されておらずにことを示している。だが、ジャクナへの旅路がすぐカサリティアの森には、地球が母なる星であることが思いも描かせる雄々しさがある。地面を走ることこそたわる(ように見える)モトッドの身体にはもともと、地面に根差し、地球の文明を懐疑しながらも受け入れるという両方の指すは非常に不合理的に感じる。だが、根付くを嫌うほど大地を駆けずるというその名目には、地球への不合理な愛がこ



セトラット風神を産んで地球に降下したホワイトアークのそばを、イルカが導いていく(33話)



モトラクト艦隊は、タイサで文相を
捕みつゝす地球クリーン作戦を展
開し始めていた。(34回)



ウソの母、ミューはウソの母に誘われていた。だがミューは素直に答えず、(35頁)



アトラスデアはフーズ連の社員で、
たダム建設の餌にはまってしまっ
たのだ。



ミュージアムはウツノの目の前で死んだ。ウツノは、母自身を持ち帰る。(38頁)



カザレリアに性夢を描いていたマチスは、ウソの輪の中で生き絶える (39頁)



マチスの夢を他の夢へ案内するウ
ィゾ マチス夫人はウィゾを責めよ
うとはしなかった(40頁)

EPISODE CHECK

私も所詮人間なのだ。

そんな中、ウツタはカネヲと仲良しになり、ウツタは、所帯を買いまわれる度に強し心を奮
カネヲに、ウツタはカネヲと仲良しになり、ウツタは、所帯を買いまわれる度に強し心を奮

は、その危険な状況の助けをかりました。そんな中、¹の夜、ミーラとジャックがワズン・メーグルに人質に取られてしまいました。ワズンはここで、バカバカしいとしてパイロントではなく、²の子供として母とジャックを取り戻そうとする。だが、すでに中途半端なワズンは、ジャックと母を救済を得ず、次の代価として母を失う。悲劇の形で……これはワズンの子供時代への決定的な描写でもあるだろう。そしてこの

最後、ランスカールとマリアは尊厳認定という名の元には残るという、皮肉どしと書いてある状況となるのだ。母の遺品を探しに行かうツッパは、母自身を持ち帰る。血に染まった母のヘルメットはさすりとした感刺を持っていた……。泣々と「母さんです」と語るツッパに声もないマーベットたち……。人の死を残酷に突きつけられ、ツッパとツッパはただ泣き伏す。それは、ツッパの見た子供としての最後の涙だったのかもしれない。そこに、V2を振る天才的な才能を見せるリガ・ミリティアのエースとしての顔は見えない。それこそ望に、ツッパが「本当は、まだ子供だったのだ」と病室に悪い出させる行為であつたと受け取る。

そんな中でツヅカガ会う。ベスバのメサス・ダークランドの戦いは、ツヅカに自分と
同じような悲しみを持つ戦艦に負けたままにしているのだと思い知らせる結果になる。戦
いだけではなくて、敵を倒してしまふツヅカの能力がそうさせるのだ。母の痛と同じ丘
に建てられたメサスの墓の前で泣き崩れる彼の家族の姿は、Vガンダムの中で
も彼と心を繋がる屈指の場面だ。

父との再会～エンジェルハイロウ空域へ(41話～44話)

動物が鳥居の間を見ながら、ウツリがたしリーホースJrの子供達の描写はニュータイ
 プ的なものが多く見受けられるようになるが、その描写はごく自然であり、そのも
 のがメインと描かれてはいない（UC元・タムシ・スを見ていない観客者にも分か
 りやすいようにその2は加）

母を失い、宇宙に上がったツツ子が、
 のたのた父親になった。しかし宇宙で何会
 したマ・バシケルは母と同じようにツ
 ツ子に騎士である？とを尋ねる。リ
 カ・ミリアデをまもる立場であるハ
 シケルに対しては、その空は口々に
 しいが、ミューティアの騎士と、
 ともに生きようと思ったリカ・ミ



MOBILE SUIT V GUNDAM

[illegible]

天使の輪と光の翼(45話~51話)

シャクティを倒るカルルは、シャクティがエンジェルハイロ
ックにVの真実を告げていた(43話)

ると信じていたのだろう。だがその行動は、アトの戦いを悪化させる原因の結果となる

そしてエンジェルパイロウは強大な力を発露する。人の心から批判的・忌避感を失わせようとする運動に、リッツは幻覚を見る。その力は負滅だった。たがサンスカル帝国内部では、権力闘争による互殺が始まっていた。一度は反乱を鎮めたかに見えたタロウが、女王を人員に再び反叛を助けたのだ。シャスティは女王の代わり、エンジェルパイロウで戦いをやめさせるために折る者となる。しかしその折りは裏返ではなく、地獄へ向けられていた。戦場は地球へ移り、サンスカル軍の主力が投入され、連邦軍もカ・ミリティアも双方共に多大な犠牲を払っていた。シグマズタルク・グリーンホースは次元に特殊を政府する。

その中で、タロノクを倒され、自分の居場所を見つけられずに迷い続けるカズシは、ウツノに助けを求め、戦いを挑んでくる。ウツノは彼を勇く多くの魂に守られ、光の翼でカズシを救った。

そしてエンジェルハイロウはジャクラーによって秘めたる力を発露し、分解して天へ昇ってゆく。それはまるで天使の昇天のようであった。

戦いは終わった。ウッソ達はカゲリリアへ戻り、以前と同じ穏やかな暮らしを再び始める。戦を、仲間達を失っても、明日という日はやってくる。ウッソ達は悲しみを乗り越え、たくましく生きて行くのだ。

冬のある日、シャウタイは一人の女と出会う。戦力も記憶も失った彼女の、シャウタイへの道を訪ねる。その道に迷った旅人、カナナジ。そしてそれを見守るシャウタイのおと。この物語は幕を閉じる。それは、長い4年て失ったものを復讐ぐものなのか。それとも、然しき戦いを出てのことなのか……

シャクティは、自分が女王マリアの娘だということを利用し、戦争を終わらせないかと考え、自らザンスカールへ赴く。だが物事はそんな単純なものではない。事実、クロウゾルのモトラッド伯爵を倒しようとした時にも、うたがったため。しかし、シャクティはその一方で、黒い心で、人の心を奪われ



エンジェルハイロウの起輪。それは
力が手の届くをかなえるものでも
あった(47話)



ワッソの要請に、木星船団の船を
感したる連絡、リガ・ヨリディア上陸
船(48回)



マーヘ、小の体内には、オリファの
の種した子が置っていた(4話)



ウツを直すことに固執するカマ
ジナ ウツノはそんなカマジナに
死で臨みかける(50話)



当りキールームに戻ったシャクティはエンジェルハイロウの秘めた力を解放した(51話)



クロノクルを失ったカデシナは、リ
ノに捨て身の裏を仕掛ける
(51話)



キールームで眠るシャクティを助けとめるVZ。戦いは終わったのに
(51話)

CHRONOLOGICAL TABLES

C.C.

正暦24年

～黒歴史～

月に住むムーンレイスの女王ティアナの発案による地球資源作戦の遂行が認められる。テストとして、生体発動機を体に入れた希種者が地球上へ降下し、これは8分の1Gなど月の環境に慣れてしまったムーンレイスが地球で暮らし始めるかどうかを確認する。資源開発に成功した。

正暦24年

ティアナは市民軍ティアナ・カウンターを中心に、地球降下作戦を実行。地球上でもっとも文明の進んでいるとされる北アメリカ大陸へと降下し、各州主にサンベルト地帯をムーンレイスへと分け与えるよう交渉を開始する。交渉は進展するが、ティアナ・カウンターは強行に入国キャンプを設営。それが機因となってイングレッサ側の軍師ミリシャなどとの小規模な争いが発生する。ミリシャはイングレッサで開発された新兵器、無防衛、飛行だけでなく、マウンテン・サイクルから取り出されたMSもそのその戦力として利用する。イングレッサとルジャーが共同で宇宙船サイクルグムを発進。イングレッサ軍を名代グエン・サード・ラインフォードは、月へ赴き面交渉を行うことを発議。一戦戦力とともに南下、マニュービチを降参して月へ向かう。月の女王ティアナ・ソレルは争いの前兆を察し流石のため黒歴史の隠蔽を明かす。これにより技術開発を望むグエン側と、ソレル軍に仕える武家のギンガナム大将が手を組み、アメリカの征服を企てる。ギンガナムが推すターンXと、黒歴史の原動力となったVが正面対決し、相討ちとなる。

THE WORLD OF V GUNDAM

20世紀初期のような文明を模倣したアメリカ大陸（現在のアメリカ大陸にあたる）が舞台。北アメリカはいくつかの国士に分かれており、それぞれを領土が統治している。この世界では2000年近い間、大きな技術の発展もなく、争いごとでも水争いをめぐる水争い程度のものでしかなく、大規模で組織的な軍事行動はほとんど行われていなかった。しかし、旧ヨーロッパ大陸にあるガリアの存在はアメリカの人々にとって一定の脅威ではあるようだ。

イングレッサ側の領土名代であるグエン・サード・ラインフォードは、地上への帰還を求めるムーンレイスとかねてから無機交渉を行ってきた。彼は産業革命により一層の技術革新が必要だという考えを持つと同時に、ムーンレイスに対抗するための軍備の必要にも迫られていた。そこで、表面上はガリア対策との名目で、航空機など最新の技術を集めた軍隊イングレッサ・ミリシャが組織された。こうして月と地球の武力衝突が発生する。

TECHNOLOGY

表面上は、産業革命黎明期の技術レベルに見えるが、それはすべて遠過去に開発されたナノマシン技術によって支えられている。ナノマシンとは分子・原子を組み合わせて作られた微小なロボットのこと。例えば、グエンのクラシックカーだが、ガソリンエンジンではなくフロジストンと呼ばれる水素吸着ペレットを燃料として利用した水素エンジンで動いている。また、飛行船のプロペラも、胴の上に貼られた太陽光発電窓から供給された電力で稼働するモーターで回転している。フロジストン、太陽光発電窓とともにナノマシン技術の応用により、まるで海産物や魚産物のようにメンテナンスされている。このほかナノマシンは土壌改良にも一般的に使われている。また、Vの頭部が破壊した時、まるでかきふたのような覆いが出来上がり、破壊部位を再生したのもナノマシンの働きだ。だが、一般の人はその仕組みも機能も知らず、ただ便利なものがある、という程度の認識でナノマシンを利用している。

KEYWORD

マウンテン・サイクル

●アメリカ大陸のあちこちにある、黒歴史の謎を解明していると伝えられる山の総称。月にもある。イングレッサ側では、ビシニティの近くにあるアーク山がマウンテンサイクルだ。

黒歴史

人類が失った遠過去をさす言葉。そこには失われた技術なども多数あったと思われ、山脈と呼ばれる人々は、マウンテンサイクルなどを発掘して、黒歴史時代の遺物を探求している。

フロジストン

自動車などの動力として使われる水素吸着ペレット。吸着した水素を使い切った後は、海に沈めて一定期間放置し、それを天日干しすると再び利用すること

ができるようになる。

太陽光発電

各建築物の屋根などに貼られ、電力を供給している。

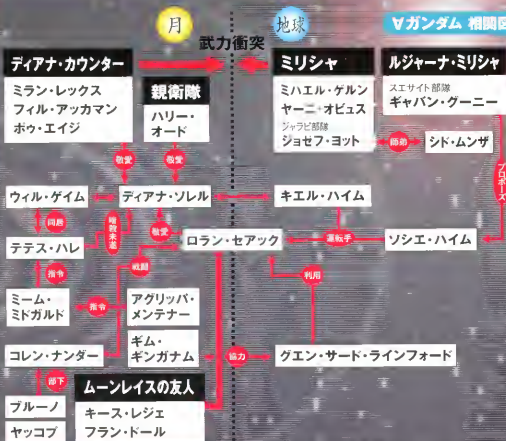
アデスの民

アデスの山から飛んだアデスの柱が空を運るといふ伝説を信じる民族。赤道直下にあるマニュービチという高山都市に住んでいる。アデスの山とは、V世界における世界樹のことで、アデスの族ははるか上空に見えるザックトラゲールを指している。

ザックトラゲール

ロータベークと呼ばれる軌道エレベーターの一種。全長8500kmの巨大なバトンの形状をしており、地球の赤道上の高高度で縦方向に回転している。高

Vガンダム 相関図



度10000m以上まで上昇した宇宙船は、ザクトレーガーの先端にあるドッキングベイが回転してきた時にそれとドッキングし、大気圏降着を行う。このドッキングベイが操縦のため、ザクトレーガー（ドイツ語で真珠）と呼ばれる。

ミスルトフ

アステロイド・コロニー。ソレル家がここで作物栽培の研究を行った。この実験により、ソレル家はムーンレイスから尊敬され、カリスマを得るようになった。

月の運河

月の赤道道を環状に運河が流れている。これは水により、宇宙船を防ぎ、昼と夜の温度差を緩和する機能を持っている。月の都市は、この運河の下に作られている。

冬の愛蔵

球型の外殻をして、ムーンレイスの本拠者を保管する場所。黒歴史の真実の記録もまた、ここからデータ・ルームに保管されていた。

ターンタイプ

VとターンXの存在だけが確認されているSMSの一種。ともに月基地システムを搭載。

月光砲

ある種のナノマシンを大量散布することで、機械文明を破壊したシステムの呼び名。ターンタイプXの背面からナノマシンが吹き出す様が、まるで雪のはねのように見えたことに由来する。

ガリア

旧ヨーロッパ大陸。再統一を果たしたグエンが目指した場所。

V GUNDAM

LEGEND

◎Vガンダム／伝説

ロラン・セアック

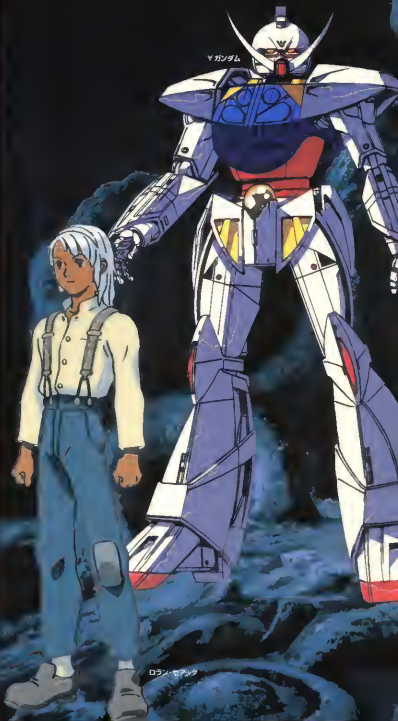
■Notes：ムーンレイスの少年。地球の調査のため地上に送られた一人。地上に降り立った彼は地上の人々にまぎれ、イングリッシャのハイム軍の兵士として地上の人々と親しく過ごす。地上へ降下してから2年後の成人式の日、神像ホワイトドールの内部に隠れていたMS・Vガンダムに乗り込んだことから、以後操縦者としてミリシャに従事する。ムーンレイスと地球人がなくすに戦況状態に陥っていた情勢において事態の収拾に船め、ムーンレイス・地球人との和平を強く願う。

■First Appearance：「Vガンダム」第1話

Vガンダム

■Notes：地上人が発掘した最初の「機械人形」であり、月の記録によれば地球文明を根本から破壊した最終兵器だとされる。ビシニティ地方の守り神である神像ホワイトドールの内部に埋もれていたが、降臨したムーンレイスの機械兵器の来襲に呼応するようにその姿をあらわし、奇しくも月からの先行入植民であるロラン・セアックの手で起動される。「ガンダム」の名はムーンレイスの肥前にあつたものであり、地上の人たちはこの人型兵器が埋もれていた神像の名をとってそのまま「ホワイトドール」と呼ぶが、その機体形状から「ヒグ」などと呼ぶ。神像にほど近い古代文明遺跡マウンテン・サイクルからこの兵器のためのものとされる武器が発掘されており、通常戦艦にはこれを使用する。この機体はシステムVの実証機であるらしいが、月光艦、1フィールドなど、どこまでこのシステムに含まれるか詳細は明かされることはなかった。

■First Appearance：「Vガンダム」第2話



ロラン・セアック

ソシエ・ハイム



ソシエ・ハイム

■Notes: ビシニティのハイム家の次女。ロランと一緒に成人式の主役を務めるが、その日始まったムーンレイスの精進作戦により、父ティランを失う。父の死によってムーンレイスに怒りを感じ、以前から決めていたイングレッサのミリシャの兵士として志願。飛行機パイロットを経て、発案された機械人形「カプル」のパイロットとなる。以後ミリシャパイロットとして動乱を転戦。月の女王とともに宇宙船「ウィルゲム」に乗り込み地上人として初めて月へと飛んだ人々の一人となった。

■First Appearance: 『Vガンダム』 第1話

キエル・ハイム



キエル・ハイム

■Notes: ビシニティのハイム家の長女。ムーンレイス最初の精進作戦の際にハイム家の名代としてイングレッサの首都ノックスに母とともに赴いていたため、ディアナ・カウンター攻撃によるハイム家滅亡の戦いを逃れた。大学で学ぶより実社会で働く時代と考え、ムーンレイスとの交渉役をつとめていたイングレッサの次期領主であるラインフォード家の副官グエン・ラインフォードの秘書役となる。月の女王ディアナ・ソレルといたずら心から立場の入れ替わりをしたことから、ディアナ・カウンターをまとめ続けることとなる。

■First Appearance: 『Vガンダム』 第1話

ディアナ・ソレル

■Notes ムーンリスを統べる女王。100年に一度目覚め、1年間統治者として月を統べるという特殊な人生を送ってきたため、実年齢は19歳だが、女王としての深い威厳を持つ。地球圏境の再生に応じて月移民の地球帰還作戦を計画。平和的な地球への帰還を願うが、科学文明レベルの格差やコミュニケーション上の齟齬から地球側の勢力と戦争状態に陥ってしまい、深く悩む。最終的に地球帰還作戦が月側の政治的な分裂を誘発したため、最終的にはムーンリス内の内部抗争のような様相を呈すが、逆にこれにより地上と月の勢力が共同して反勢力との対決する形になり、ムーンリス降下により巻き起こった戦乱は収束へ向かうことになる。戦いの後金責任をとって引渡し、ロランとともに暮らす。

■First Appearance: 『マガンダム 第5話』

ソレイユ

■Notes ディアナ・カウターの地球帰還船団の旗艦。イングリッサ鎮内に降下し、ディアナ・ソレルらムーンリス上層部の領域となり、月から降下した移民者たちへの指揮をおこなう地球帰還作戦の中心的な役割を担う宇宙船である。降下後はディアナの領域としての地球人との交渉の主たる舞台となった。多数のモビルスーツを搭載可能で、各種ビーム兵器も搭載するなど相当の戦闘力を有している。戦乱終盤の月反乱勢力の地球降下にあたってはこの戦闘力をフルに使用し、ディアナ・カウター先行派遣艦の戦艦「アルマイヤー」、地上で発展された宇宙船「ウィルゲム」とともに反乱勢力の艦艇と艦隊戦をおこなっている。

■First Appearance: 『マガンダム 第4話』

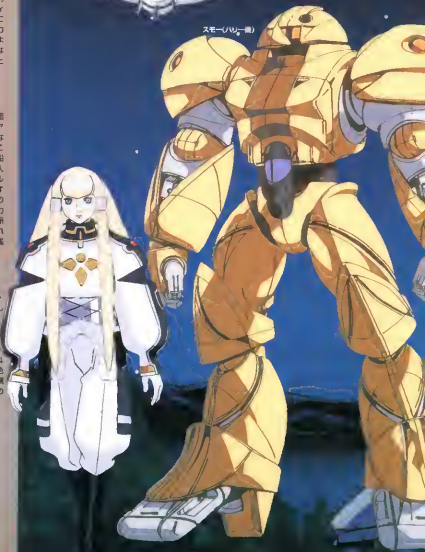
スモーク（ハリー機）

■Notes ムーンリスの戦闘部隊「ディアナ・カウター」。その中でも女王直属の部隊として特訓が記傭される機動隊が用いた人型兵器。開発された限定空間における戦闘で優位性を発揮し、格闘戦に優れる。機體型のヒートホークを専用装備に持つ。[Strike Unit for Maneuver Operation]（機動戦闘ユニット）の頭文字から名前がとられた。機体色が金色のスモークはハリー・オード中尉の乗る観望部隊長機である。機体色以外の機体の相違点は不明である。

■First Appearance: 『マガンダム 第5話』



ソレイユ



スモーク（ハリー機）

ディアナ・ソレル

▼ GUNDAM

MYTH

○マガンダム／神話

スモー

スモー

■Notes: 義衛隊は通常の軍艦隊と異なり、女王道策であるため、独自の判断で動くことが多く、またその複製も保証されている。そのため軍や政治官僚と衝突することも多かった。事実として悪いポテンシャルを秘めた強力な機体であるスモーを与えられていた彼らは、月面全域で考えても突出した戦力である。そのため義衛隊に任官された士官は非常にプライドが高く、女王への忠誠心が強い。スモー自体は格闘戦を得意とする機体だが、1フィールドと呼ばれる一種の「力場」をコントロールするシステムを持ち、このため大火力のビーム兵器にも対応できる。このシステムは攻撃兵器として転用も可能である。

■First Appearance: ヴガンダム 第5話

ハリー・オード

■Notes: ディアナ・ソレルによる地球圏連行軌道行時の副艦隊隊長。18歳。ディアナに心酔し、艦内に命を懸ける。女王に先導けて先導隊とともに地上に降下し地上の政治勢力との折衝にあたる。女王降下後は一貫して女王の事を説き理健反としてディアナ・カウンター内部の強硬派に対抗。月面での内乱勃発以降は地味人とも共闘している。ディアナとキエルの入れ替わりをひとり知り、キエルを利用してまでもディアナを守り抜こうとした。

■First Appearance: ヴガンダム、第4話

ハリー・オード

V GUNDAM

THE INDUSTRIAL REVOLUTION

○Vガンダム 産業革命

メシェー・クン

■Notes: イングレッサでラインフォード家の庭師のもと、機械技術の開発(主として飛行機)に従事する技術者一家の種。父、ラダラムとともにもムーンレイスの降下以後はミリシャの一人となり、機械人形カプル発案後はそのパイロットとなる。同年代であることから、ソシエと仲がよく、ソシエにカプルのパイロットとなることを願ったのも彼女である。

■First Appearance: 『Vガンダム』第1話

ギャロップ

■Notes: 宇宙船ウィルゲムが壊るロスト・マウンテンで同時に発案された巨大ホバー陸戦艇。水上移動も可能。しかし、莫大なカ、モビルスーツ運用には足りない容量など、戦術上大きな欠陥に罹りて疎通されたものだと罵られる。発案後はロラン・セアックにその運用が任せられ、その指揮のもと地上での独立遊撃隊の任を蒙る。

■First Appearance: 『Vガンダム』第19話

ウィルゲム

■Notes: イングレッサ族の外れ、キングスレー地方オーバーニー深谷のロスト・マウンテンに埋蔵されていた宇宙艇船艙。その地の豪族、ゲイム家の男たちによって代々採掘求められ、ムーンレイスによる地球連作戦実施時にまたまた当分のゲイム家当主、ウィル・ゲイムによって発見されていた。この発見を知ったイングリッサのミリシャにより宇宙艇は接収され、その後地上の人々を月へと運ぶこととなる。

■First Appearance: 『Vガンダム』第13話

ゲエン・サード・ラインフォード

■Notes: イングレッサの領主ラインフォード家の御曹司。技術文明に対し顕明的な篤年で、機械技術の積極的な開発を奨励することで、産業革命を促そうと考えている。ムーンレイスの地球降下にあたってはイングリッサの政治勢力の代表者として交渉の窓口をつとめ、自ら組織したミリシャの中心に立つ。月の技術を目の当たりにしてからは、地球の文明に取り入れようと、ギンガナムと手を組む。

■First Appearance: 『Vガンダム』第1話





ジョゼフ・ヨット

■Notes: 山崎シドが辺境での発掘作業で雇い入れた助手である。アデスカ近辺のマバ族の出身。その後、先史技術に関する知識と冷静沈着な性格を買われ、ミリシャが編成した機械人形主体のジャラヴィィ部隊の隊長に抜擢される。月の先遣隊が降下した際に使った機械人形「フラット」を買っ赤に遺棄して使用する。

■First Appearance: 『マガンダム』第2話

シド・ムンザ

■Notes: 民間伝承に伝わる古代先史文明遺跡、マウンテン・サイクルの発見と発掘、土地改良を主業とする老人。素歴史と呼ばれる民間伝承に伝えられる古代文明はお伽話であり、そこに現実的な根拠があるとは考えられていなかった。ビシニティのアーク山をマウンテン・サイクルだと見て発掘作業を進め、モビルスーツ、武器等の発掘に成功する。

■First Appearance: 『マガンダム』第2話

ミハエル・ゲルン

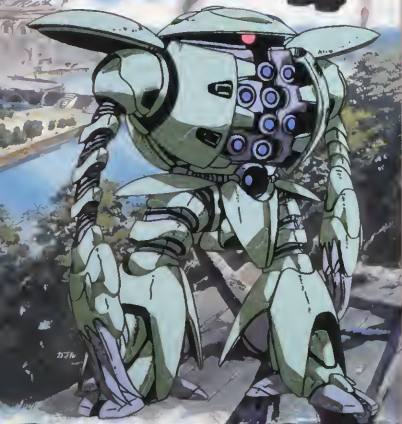
■Notes: ミリシャを統括する大佐。イングレッサ方面司令官。55歳。イングレッサ嶺における有力者のひとりであり、軍人として誇りと信念をもつ。ディアナ・カウンターを地上から排除するために働く。のちにすべてを失ったグエン・ラインフォードが独力でルジャーナ領土の支援をとりつけ、再起して見ると彼の野心に感服し、その宏大な部下となり、彼が自らの野心で歴史的な決断をするまでこれを支えた。

■First Appearance: 『マガンダム』第1話

カブル

■Notes: ビシニティのロスト・マウンテンから出土した第二の機械人形。ホウイドールと異なり、両腕機が多数発掘されている。発掘時には球形状に近い形状で発見される。球形状の形はのちに水中での機動のための変形機構であったことがわかっている。比較的単純な容姿な機体であるらしい。操縦者は、メシェー・クワン、ゾンシエ・ハイムなど。

■First Appearance: 『マガンダム』第4話



GOVERNMENT

◎Vガンダム/戦況

ウォodom

■Notes: ディアナ・カウンター地球連邦部隊の主力モビルスーツ。巨大な機体で大型というよりは乾鳥のような特異な形状をしている。頭部中央に大出力ビーム砲を備え、ミサイルを6発搭載。本来火力支援型の長期離兵機だと思われる。もともと地上に対する威嚇目的で持ち込まれたと思われるためウォodomが主力になったのだろうが、地上人によるモビルスーツ廃絶により、ディアナ・カウンターは思いの地獄力を消耗することになってしまう。

■First Appearance: 『Vガンダム』第2話

ミラン・レックス

■Notes: 女王ディアナを補佐する第一の側近。執政官。象徴的な存在である女王に代わり実質的な月の政務を執り行う月の最高政治指導者のひとり。基本的に女王の人道主義的な路線に立つて移民計画を進めようとしていたが、地上人との折衝を重ねるうちにグエンらの政治的な指導力に疑問を持ち、フィル少佐の主張する強硬策に次第に傾いていく。中ぶらりんの立場のままなしくしてきでフィルに賛同した後は地上との軍事的な衝突の引き金を引いた形になり、混乱した状況の中、女王を月へ送還する。しかし、本来は強硬派ではなく、政治裏手しく現実主義者なだけであり、戦乱終結は女王に協力している。

■First Appearance: 『Vガンダム』第5話

フィル・アッカマン

■Notes: ムーンレイスの機連作戦・第一次機連部隊の軍政部長。ディアナ・カウンターの指揮官として直接交渉をおこなうアジ大佐を補佐し実戦指揮をおこなう。生粋の軍人で組織内の最強硬派だが、部隊編成上そういう役割を期待されている人脈ともいえる。それが軍官のナンバー1であるアジが地獄人に殺害されたため、なしくしくに発言力が拡大化し、一時クーデターすら成る。女王の月送還に役立っている。

■First Appearance: 『Vガンダム』第2話

ボウ・エイジ

■Notes: アジ大佐指揮下のディアナ・カウンター少尉。モビルスーツ部隊隊長。実戦指揮官であるフィルに心酔し、その命令を女王の政敵より絶対視する軍人。ノックス周辺戦時、ミリシヤの抵抗の要衝し、ビシニティを攻撃、戦艦を倒してしまう。その後、Vガンダムと数度戦いを繰り返すが、取り逃がしてしまい、焦りを感じる。

■First Appearance: 『Vガンダム』第2話



ウォodom



フィル・アッカマン

ボウ・エイジ

モビルリブ

■Notes: ディアナ・カウンターが地下作戦で地上に持ち込んだ作業用重機械の一種。施設の建設や敷設作業などに使用される重機械で戦闘用のものではない。イングリッサのミリシャにより奪取され漏れ船などの隠れ家を遊されて機械化部隊に組み込まれた。脚部の車輪によって移動し、二本の巨大なアームによって作業をおこなう。胴体部のフレームには各種作業用のオプション装置をとりつけ、運搬・運用することが可能。複数の機体を接続し、4脚または6脚の巨大汎用機として使用することもできる。

■First Appearance: 『Vガンダム』第3話

ムロン・ムロン

■Notes: 地球連邦作戦実施より100年前、女王ディアナ・ソレル戦役を促しておこなわれたというディアナの最初の地球訪問。このとき乗員の和人が地上に残され、ディアナの帰還を待つように命ぜられたとされる。その末裔がディアナの帰還に応じて降下部隊へと出陣し、ディアナ・カウンターの一部隊として再編成されたのが「レット隊」と呼ばれる戦闘部隊である。ムロン・ムロンはその副隊長で、隊長のキャンサー・カフカとともにモビルスーツ「フラット」のパイロットとして戦場に従軍した。

■First Appearance: 『Vガンダム』第20話

キャンサー・カフカ

■Notes: 地球と月との戦艦便所のような草庵で地上に残されたらしいレット隊の祖先だが、長い年月を経るあいだにディアナの来訪自体が一種の民間伝承と看做されるようになり、その存在自体が忘れられていった。また、彼ら自身も地上の人間の生活に分け入り、同化することを選んだため、血統を守り、月を懲罰する防衛的な民族として定着する。その異様な風俗は地上の人間からも月の人間からも奇異の目で見られ、隊長のキャンサー以下レット隊の人々はその意見を払拭するために人一倍結果を求めた。

■First Appearance: 『Vガンダム』第20話

ペロナ

■Notes: ディアナ・カウンターが使用していた人型の作業用機械。背部にワットと同様の可動フレームを有するより小型の機体。一人乗りで作業用の機体であり、地球連邦作戦時に施設設置用に地上へと持ち込まれた。本機をもとに開発されたものがワット。

■First Appearance: 『Vガンダム』第43話

キャンサー・カフカ

ペロナ

ムロン・ムロン

モビルリブ

V GUNDAM

CIVILIZATION

◎Vガンダム 文明

フラット

■Notes: 月面で使用されている人型戦闘兵器「モビルスーツ」の一種。月面で大気圏突入をおこなうためのいわゆる「変形システム」を搭載しており、一種の小型宇宙船としての使用が可能。そのため地球降下作戦に先駆けておこなわれたムーンレイスの重力適応テスト被験者の地球降下に使用された。内蔵武器として振動破壊兵器を搭載しており、降下後被験者たちはこの機能を使って身体を隠蔽した。

■First Appearance: 『Vガンダム』第1話

キース・レジェ

■Notes: ロラン・セアックとともに地球に降下した対G通商試験被験者のひとり。地球降下作戦実施後も降下部隊に合流せず、地球側の戦力として戦うこともなく、職人として働いていたパン屋でパンを焼き続けることを選んだ。のちに機械化されたパン工場を設立、戦乱の最中にも月間、地上側の分け隔てなく食料を供給した。その結果経済的な成功を収めたが、それ以上に無害で融和政策を実施していたともいえる。

■First Appearance: 『Vガンダム』第1話

フラン・ドール

■Notes: ロラン、キースとともに地上に降り立ったムーンレイスの少女。降下後は印刷工として工場勤めをしていたが、のちに経営者に就き入られ、女性新聞記者となる。戦乱終結後は貴族によって月と地球の対立の解消を望むと考え、ミリシャに密告して戦地からの報道につとめるが、自身の語る記事が報道規制によって置けつぷらされていたことを知り、その戦業に対し深く絶望する。

■First Appearance: 『Vガンダム』第1話

リリ・ボルジャーノ

■Notes: アメリカ大陸、ルジャーナ地方の領主であるボルジャーノ家の末娘。グエン・ラインフォードの許婚でもあり、その安否を気遣ってか、ノックス襲撃後のグエンを再び表部舞台に立てるように協力。敗退したイングレッサ・ミリシャの要塞に追われたルジャーノ・ミリシャに密告していた。グエンの代わりにムーンレイスとの外交交渉を引き継いだルジャーノ公の座を受け、ミリシャとともに月に向かう。

■First Appearance: 『Vガンダム』第1話



マリガン中佐

■Notes. ルジャーナ・ミリシャの実戦指揮官。立場的にはイングリッサにおけるミハエルと同じだが、彼の場合は代々ルジャーナ公に仕える貴族であり、イングリッサのような軍と政治勢力の主導権争いはない。軍人らしく素直な徹底抗戦論者だが、このため主家であるボルジャーノ家の意向には逆らえない。合流したイングリッサ・ミリシャの指揮権まで手に握ろうとしたようだが、グエンを立てるリリの存在のためにこれは失敗に終わっている。

■First Appearance: 『マガンダム』 第14話

ギャバン・グーニー

■Notes. ルジャーナ・ミリシャの機械人形部隊スエサイト隊の隊長。ルジャーナでも名家の出身らしいが、貴族社会に馴染まず放蕩生活を送り、走騷して兵隊となる。豪放な性格で部下に慕われ、実戦部隊の指揮官としての大局的な視点を持ち合わせる。マリガンらの貴族出身組とは違う実質的なルジャーナ・ミリシャの指揮官。自命の理想の軌道を越えた威力を持つ秘兵器の危険性を認識出来ず、ロスト・マウンテンから出土した核爆発に巻き込まれてしまう。

■First Appearance: 『マガンダム』 第14話

ボルジャーノン (ギャバン機)

■Notes. ルジャーナ領内のマウンテン・サイクルより出土した機械人形。この一機のみ他と外装形状および機体色が異なっているためギャバンが自身の愛機たる隊長機として使用された。外見上の相違点としては常を基調にしたカラーリングと、機体をはしるパイプ類とシールドの有無、頭部形状などだが、実質的な性能差があるのかどうかはこの機体自体が核爆発で文字通り消失し、その後同型機も出土していないためまったくわからない。

■First Appearance: 『マガンダム』 第14話

ボルジャーノン

■Notes. ルジャーナ領内で発見された初の機械人形であり、領主の名をとって「ボルジャーノン」と名付けられたルジャーナ・ミリシャの主力モビルスーツ。イングリッサで出土したカブルと違い、この機体には多数のオプション兵器が発装されており、クラッカー、マシンガン、バズーカなどで戦闘をおこなった。飛行能力は有しておらず、背中のノズルからの噴射によってジャンプする形で機動する。

■First Appearance: 『マガンダム』 第14話

ギャバン・グーニー

マリガン中佐

ボルジャーノン
(ギャバン機)

ボルジャーノン

ブルーノ&ヤコブ

■Notes: コレン・ナンダーの部下として送られてきたディアナ・カウンターの下級兵士コンビ。月下屠民の出で、コレンの失踪後は旧知のデリスによるディアナ尊敬に苛立、ディアナ・カウンターを出售、身の上を隠して地球人の中に身を隠す。その後ミリシャに参加。彼らのような下層民の存在は、当時の月社会の封建性を物語るものであり、政治的な不安定さの一因ともなっていた。

■First Appearance: 『Vガンダム』第9話

イーゲル

■Notes: コレン・ナンダーに専用機として貸与されたモビルスーツ。完全な格闘戦用の機体であり、人の膝部にあたる部分も打突用のパーツであり、他の機体だと膝部にあるセンサー類は背負状に集中している。背負状のフレームを中心にボディ全体を前傾し脚部を逆関節状に曲げて走る高速移動形態で走る。専用の手持式武器として振動用重砲のシールドマシンを改造した「ミンチドリル」を持つ。

■First Appearance: 『ガンダム』第9話

コレン・ナンダー

■Notes: 地球連邦作戦実施時に冷凍刑に陥れていた重犯罪者。補遺作戦の隠微で目撃めさせられ、月面の複雑な政治闘争の結果独立部隊を与えられて地球に送られる。睡眠覚醒時のミスによるものが地球降下後も記憶の混乱が見られ、地上で発露された白いモビルスーツに過剰な反応を示す。ノックスでの戦闘後、一息生れ不明となるが、その後記憶を完全に失くして放浪しているのを確認され、ターンXの地上侵襲時に完全に記憶をとりもどして戦線に復帰した。

■First Appearance: 『Vガンダム』第9話

ゴッソー

■Notes: 真中に巨大な長距離砲撃用のレールガン兵器化したディアナ・カウンターのモビルスーツ。宇宙空間で運用されていた支援用の機体と思われる。手にマイクロミサイルを装備。コレン・ナンダー隊の隠行機としてヤコブとブルーノに与えられた機体であり、地上に送られたのは彼らの乗機二機のみ。のちに破壊したそのうち一機がミリシャに回収されて、バールジャーノン等の部室で応急処置されてゴドウィンとして使用された。

■First Appearance: 『Vガンダム』第9話



V GUNDAM
LINEAGE

『Vガンダム』 血脈



カブル(コレン機)

■Notes: ターンXの地球編攻撃時に記憶を取り戻したコレン・ナンダーが使用した機体。カブルをベースにいくつかのパーツを組みあわせてつくられたもの。コレンのイメージカラー「赤」で塗られており、指揮官用の角が付く。ウォドムの手を改造したロケットパンチ等を装備。

■First Appearance: 『Ζガンダム』第49話

ウアッド

■Notes: ディアナ・カウンターの幅広い用途で使用している汎用作業機。その汎用性の高いため戦艦にも転用され、そのための専用武器も数種採用されている。全速移動時には前傾姿勢の高速移動形態をとる。

■First Appearance: 『Ζガンダム』第2話

デテス・ハレ

■Notes: 月の反女王派勢力によって補選民に紛れて送り込まれた地蔵者。月の下層民の出身で女王に対して個人的な恨みを持っているともいわれる。何度も失敗ののち、露見を恐れたミトガルドによって射殺される。

■First Appearance: 『機動戦士Ζガンダム』第13話

ミーム・ミドガルド

■Notes: ゲンガム第二大隊予備役、階級は大尉。アグリッパ・メンテナー子爵の情報士官。補選民に紛れて地上に降下し、地上での反女王派の工作活動を取り仕切るなど汚れた一面に引き受け。最終的に補選閣僚上層部と反女王派の取引を成立させ、女王の月返還を演出する。

■First Appearance: 『Ζガンダム』第23話

キャンノン・イルフート

■Notes: オーバー・浜谷のロスト・マウンテンで発見された機械人形。ウィル・ゲイムによってムーンレイス機へ持ち込まれ、ディアナ・カウンター部隊とともにボックスを逃れたミリスを襲った。肩に同輪理型機身を装備する。

■First Appearance: 『Ζガンダム』第14話

ウィル・ゲイム

■Notes: イングレッシ島キングスレー地方の豪族、ゲイム家の当主。歴史を信じ、宇宙船の発案に血道をあげる変わり者。すでに家名は損いているが、先祖から受け継いだ執念で埋蔵された宇宙船を探し当てていた。

■First Appearance: 『Ζガンダム』第13話

V CIRCUIT

DESTRUCTION

○Vガンダム 被弾

ギム・ギンガナム

■Notes: 月の治安維持を司る一族の末裔。月軌道上で外敵から月面都市を守る宇宙軍司令官であり、月世界の権力者のひとりだった。外敵が湧き、有名無実化している自身の職務に嫌気がさしており、権力というよりは「戦争」それ自体を求めて反女王派の背後で隠躍する。封印されていたモビルスーツ「ターンX」を解放放ち、最終的には艦隊を率いて地上へと侵攻。発動した「月光爆」システムに飲み込まれた。

■First Appearance: 『Vガンダム』第37話

ターンX

■Notes: 1はかな音。宇宙から流れつuitとされる機体で月のマウンテン・サイクルに封印されていたものをギンガナムが発見、起動した。機体のすべてのパーツが分離合体可能で個別に攻撃が可能という非常に特殊な構造を持ち、戦闘力は極めて高い。コクピットは艦船にあり、キャラバスと呼ばれる甲冑のような兵器プラットフォームを装備する。『Vガンダム』の兄弟機であるらしい。

■First Appearance: 『Vガンダム』第39話

アスピーテ

■Notes: ギンガナムの指揮する私設艦隊旗艦。彼の艦隊は他のいない月軌道上で2000年ものあいだひたすら艦隊演習だけをおこなっていた。このためギンガナムとその配下は自分たちの職務である月の戦艦を概念的に美化し、戦うこと自体を目的とするようになる。この艦隊はアグリッパの托後、グエンに操縦されて地球を侵攻。地上のディアナ・カウスターと戦艦を聞くことになる。

■First Appearance: 『Vガンダム』第37話

マヒロー

■Notes: ギンガナム配下のモビルスーツ部隊が使用する対敵兵器駆動に適した機体。他の機体と異なり人口筋肉システムで駆動するシステムを搭載。パイロットの技能が運動性にそのまま表れる。

■First Appearance: 『Vガンダム』第38話

アスピーテ

マヒロー

ターンX

ギム・ギンガナム

スザン

バンデット

バンデット

■Notes: ギンガナムによって月のロスト・マウンテンから掘り出されたモビルスーツのひとつ。ウー・ジー・アーマー（分泌装甲）を特徴とした機体で多彩な武装を誇る。メリーベルに与えられ、月面から地上に至る女王派との総戦に投入された。

■First Appearance: 『マガンダム』第41話

スザン

■Notes: 月のマウンテン・サイクルで発見された機体のひとつ。ギンガナムによって、ターンX、バンデットなどと同時期に開発され、女王側の戦力との交戦の戦に実戦投入された。肩にミサイルパックを装備し、胸部にはワイヤー付の射出兵器を内蔵。数機編隊でコンビネーション攻撃をおこなう。基本的に宇宙用であるようだが、地上での使用も可能であったらしく、ギンガナムの地上進攻にも使用されている。

■First Appearance: 『マガンダム』第46話

スエッソン・ステロ

■Notes: ギンガナム配下のモビルスーツ部隊隊長。ギンガナムの部下らしく戦術的な人種であり、演習が終わり実戦ができることを喜び、戦線に投入する。地球進攻時の戦績で戦死。

■First Appearance: 『マガンダム』第36話

メリーベル・ガジット

■Notes: ギンガナム子飼いの少女パイロット。常にギンガナムの傍にはべり、戦術的な行動を導く。後がグエンと協定を結んでからはグエンのもとに派遣され、彼の軍事顧問兼目付け役のような立場となった。

■First Appearance: 『マガンダム』第42話

ムットウ

■Notes: ディアナ・カウンターの地上のロスト・マウンテンから発見し、実戦投入した可変モビルスーツ。1フィートによる高い飛行能力を持つ。同時に出土したヒートサーベル付ライフルを使用。

■First Appearance: 『マガンダム』第26話

アグリッパ・メンテナー

■Notes: 月の文化保存を担当する文官で月世界での最も有力者のひとり。本来は歴史と冷凍睡眠システムの管理を担当だが、地球帰還作戦での女王不在により政務を代行。その間にギンガナムと結んで権力を握ろうと試みた。

■First Appearance: 『マガンダム』第41話

ムットウ

アグリッパ・メンテナー

メリーベル・ガジット

スエッソン・ステロ



EPISODE CHECK

人の命を大切にしない人とは誰か？

そして、明いの中、サングラスのタム・ダグが「ロビンソン」を捜す。その言葉の裏には、作品の真意が明かされるのは、その上巻の終りだが、真意は後述のとおり、そしてタム・ダグは、その下巻で、サングラスを脱ぎ捨てて、真意を明かす。

入れ替わったふたつの心(11話~18話)



「上野公園」の桜は、大勢の観光客で賑わいます。桜並木の下を歩くと、春の訪れを感じます。

[illegible][illegible]

キエルは「ミルと入れ替わろうとするが、キエルは、自分にできることとして、ティアナとして諸国宮を廻し、自分達は同じ人間同士なのだと語り、それはミリシににとっては好都合だったが、ティアナには彼女こそがムーンレイスを真にまもって行ける者として感じ、ティアナ・カウンターをこのまま彼女の手にゆだねることを決意する。」

この時、ロランは主人公ながら傍観者のイメージを感じる。ディアナとキエルが入れ替わった事実を知りつつも、ロランは物語の中心として戦いには関わらず、その外に



EPISODE CHECK

GUNDAM

[illegible]

そして、周遊する「A」としての彼の活動は知られる。ディアンは彼自身の「異国」入りにより「異文化」を知り、そして、宇宙空間に属する場所の存在を「発見」した。そして、この「発見」が彼に与えた「瞬間的な感動」は、「……」と、宇宙移民の地と呼ばれるのは、「瞬間的な感動」だ。そしてディアンは、2000年頃「A」が地球の文明を壊滅して、「……」を再開する。ターミネーターは、「……」の歴史を埋め戻している。……

再び地球へ 最後の戦い(44話-50話)

[illegible][illegible]

地球で再会したディアナと、その決裂が決定的なものであり、戦いは避けられな
いものとなった。そして、千年カブト軍は手強い、カウンターへも戦いを開始した。
そんなディアナ・カウンターへも主役が加わる。それは、今までいかに合っ
たチームだったのか、と問うた。

ターンAの目玉を止めるために、ハリー、ボウバ、マール、ティアナが、戦場へと突っ込んでいく。ターンAとターンXの相打ちで……

1年後、地球と月の間に定期航路が開かれた。月には女王として大々を治めるキエルの姿があった。そしてディアナは、すべての責を自らに背負い込み、ロランと二人だけの隠居生活に入ったのだった。

THE DESIGN WORKS OF GUNDRAM

The New Century **UC** 123-153 **CC** 2345

●連邦軍モビルスーツ

連邦軍 F91 ガンダムF91

サイコミュとバイオコンピュータを組み合わせ、新技術をふんだんに用いて連邦軍最新海軍学術研究所（SNRI）で製作された。ニュータイプ用の汎用型試作MS。リミッター解除時はフェイスマスクが開放され、機能的な機動力を発揮する。

ヴェスパー（VSBR）

バックパックの両側に装備されている、可動式大型ビーム兵器。動力伊と直結していて、強力なビームを射出する。通常は腰に抱える形で使用するが、取り外しも可能。

メガ・マシンキャノン

ビーム・ライフル

コクピット

内部構造

マスク無し

マスク有り

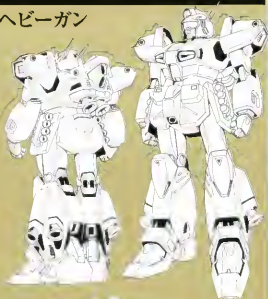
連邦軍 F71 G・キャノン

中間級実戦攻撃能力をもちながら、格闘戦にもなすように設計された機体。しかし格闘戦時の性能は、近距離専用として開発されたMSには一歩劣る。たが1機で多数の任務に使用できるため、格闘専用などとして開発されていたよう、プロシディア対艦戦機にも多量に配備され任務にしていた。F91同様、SNRIで開発された。

コクピット

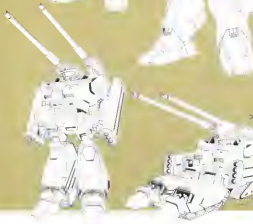
連邦軍 RGM-109 ヘビーガン

アナハイム・エレクトロニクスで開発された近接戦闘用の量産MSで、取付番号が示すように一年戦争時のGMO系に属する。とはいっても、すでに内装はまったくの別物で、新主力機種のジェガンに匹敵するべきかもしれない。各所に多装が配置されている。



連邦軍 RGM-89 ジェガン

「シャアの反乱」時に配備が絶えていた量産。ヘビーガンやG・キャノンでは運用性を要していた15m高に変更されたが、このジェガンが作成された当時は15m高が標準サイズであった。すでに実戦がはまっているが、いまだにまぶきなバリエーションの機体を見ることが出来る。



連邦軍 RXR-44 ガンタンクR-44

フロンティアIにあるオー・ユングの戦争博物館に展示されていた試作兵器MSで、この機種のMSの前身である機動性を誇るため、人型とタンク形態に両方可変。しかし量産されたようにはならないとから見て、むしろ量産機を兼ねかねないことではある。機動性や射撃性能、コスト面などのデメリットの受けが顕著ではあったが、もしくは制動力に必要量のMSは不要と判断されたのではないかと推測される。システム化もいまだで、ガンナーとパイロットの2名を必要としている。

機動戦士ガンダムF91

宇宙世紀0123年、地球と月の間にあるコロニー、フロンティアが自国のMS部隊の攻撃を受けた。フロンティア・サイドに独立生産の新兵器コスモ・バビロニアを運送しようとする、マイツァー・ロナ配下のクロスボーン・パンガードの戦艦作戦だ。彼らの小隊MSの機動性に旧式MSを主力とする連邦軍は劣勢に陥る。

月コロニーのフロンティア総合宇宙機械科に送るシーブック・アノーは、学園祭の最中、戦乱に巻き込まれる。妹のリズ、同級生のセリリー、ドワイト、ドロシー、サム、ジョージたちと戦火の中をかくれくり他コロニーへ脱出をはかろうとする。だが友人のアーサーは戦争帰りの隊長ロイとガンタンクR-44で応戦中に死亡。セリリーは彼女の友人シオの懇切りによって、クロスボーン・パンガードのMSバベルが、ダラスに渡る艦隊戦役、ドレル・ロナに拉致されてしまう。実はセリリーの母ナディア・ロナこそは、独立生産を嫌い、セリリーを連れてロナ軍から出奔したマイツァーの真の娘なのだった。ナディアと駆け落ちしたシオだったが、いつしかロナ軍と密通し、セリリーをロナ軍に引き渡す約束をしていた。セリリー脱走の最中には、ロナ軍の長女、本名ベラ・ロナとしてコスモバビロニア建設のため、民衆のアイドルに立てばほしいというマイツァーの願いがあった。ナディアに逃げられた後、鉄板面を履くようになった父カロッツとは思えないセリリーだったが、戦乱の現実に見舞われ、やがて親父の願いを遂げられ、民衆の前に立つ。

一方、フロンティアIに逃げ込んだシーブックは民間の抵抗組織に身を投じ、連邦の連邦艦スペース・アークを善にクロスボーン・パンガードに戦いを挑む。奇しくも同艦には、バイオコンピュータの開発者である母モニカが乗ったMSガンダムF91が搭載されていた。シーブックは同艦に乗り、連邦軍パイロットのビルギット、クロスボーン・パンガードから脱走してきたアンナマリーと共に奮戦。ニュータイプ能力に発展していく。やがてセリリーも戦局に巻き込まれ死亡したと誤っていたシーブックの生存を知り、MSビギナ・ギナのパイロットとして戦列に加わる。だが、月と地球の人類抹殺を計画するカロッツは、彼を兵隊バグをフロンティアIで使われ、自ら巨大MAラフィシアで人類の殺戮を開始する。しかし、F91の機動性に導かれたカロッツは、ビーム・ライフルによって撃破された。シーブックは戦いで宇宙に投げ出されたセリリーを、バイオコンピュータの助けを借りて救出する。

●クロスボーン・バンガードモビルスーツ

クロスボーン・バンガード **XM-07 ビギナ・ギナ**

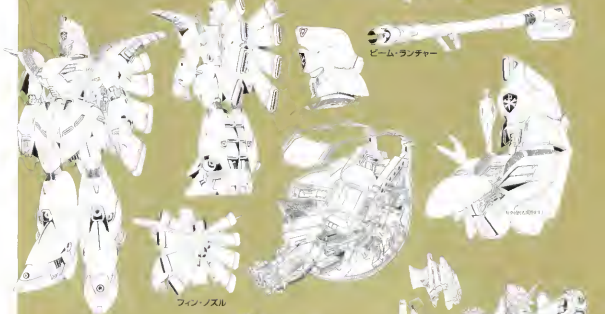
セシリーが開発していたクロスボーン・バンガード (C・V) の試作用開発用MS。ベルガ・ギロスの発展型で、背中のノズルがシェルフ・タイプから、新たに開発されたフィン・ノズルに置き換わっているのが最大の特徴。これらの装置によりF91に匹敵する能力を有するが、セシリーの故障により、F91とともに戦うことになったのは奇縁だったといえる。



ビーム・ライフル



ビーム・ランチャー



フィン・ノズル

クロスボーン・バンガード

XM-04
ベルガ・ダラス

ドレル・ロナが開いていた、C・Vが開発した試作用開発用MSで、右のベルガ・ギロスより大幅に改良を加えられている。右腕にランサーを標準装備しているが、これは変換化や射出が可能で、MS戦術の運用ならば非常に効果的とされている。また、変換化や射出が可能で、MS戦術の運用ならば非常に効果的とされている。



シェルフ・ノズル

ショットランサー

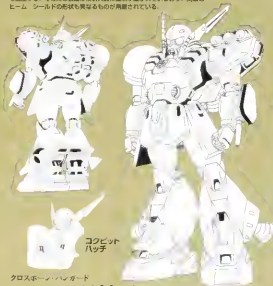
クロスボーン・バンガード

XM-05 **ベルガ・ギロス**

ベルガ・ダラスに続いて開発された開発用試作MS。もっとも機体の右腕は、右腕部分が異なることから、ほぼ同時期に製作されたのではないかと推測される。背中のシェルフ・ノズルは、ひとつずつ分離して射出可能で、ミサイルのように用いることができる。ジャビーネ・シャルが開いていた。

クロスボーン・バンガード XM-02 デナン・ゲー

デナン・ゾンと連動を結んで用いられる。C-V型的主力MS。デナン・ゾンの腕に内蔵しつつ、このデナン・ゲーで駆使を加えることによって、機を駆逐する。そのため駆逐は投射兵器に偏重がなされている。両腕のヒューム・シールドの形状も異なるものが用意されている。

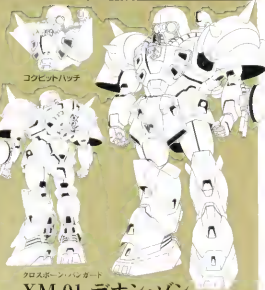


クロスボーン・バンガード
コグビット
ハッチ

クロスボーン・バンガード

XM-06 ダギ・イルス

エビル・Sを駆けて偵察任務に従事するために用意された。偵察任務の偵察機、偵察の役割と分析、情報収集が主任務のため、駆逐能力よりもセンサーと長距離駆逐能力が充実している。アンナマリーが搭載していた駆逐は最終的に放棄され、搭載が変更された。



コグビットハッチ

クロスボーン・バンガード

XM-01 デナン・ゾン

C-V型の中核を継承する。主力攻撃型MS。突出した駆逐能力は無いが駆逐性を徹底的に追求した設計で、この機体の特殊なシステムは、機体にもあるC-Vのフロンティア・サイドへの接続は、実現しなかったに違いはある。ショットランサーを始めとした遠距離戦闘兵器を多く載せている。



偵察ボット

ショット・クロウ

クロスボーン・バンガード

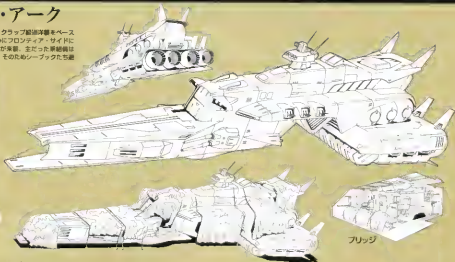
XM-03 エビル・S

分離型の偵察ボットを右腕に装着するなど、ミノフスキャーと不協和な下位の駆逐性を有するために開発された偵察機。ただし基地への射撃攻撃を考慮して、かなりの駆逐能力が与えられており、左腕のショット・クロウでは遠距離の偵察すら果たして居た。実体の強さを誇っているが、これは発光と電線網の発生を抑えるためといわれている。

●戦艦 他

進邦隊 スペース・アーク

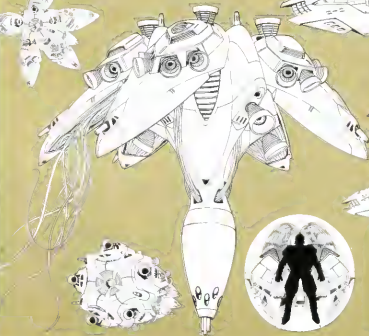
"シヤアの反乱" 時に配置が移った、クラブ船団海軍ベースにした機動艦。F91のテストを行うためにフロンティア・サイドに入港していた。しかし登場直前にC・Vが暴動。主だった乗組員は戦術に固まったため人手が後方に不足。そのためシーブツクたち連戦艦までが乗り出されることになる。



ブリッジ

クロスボーン・バンガード XMA-01 ラフレシア

自ら強化人間になった数戦艦。そんな戦艦の能力を引き出すことを想定して建造された。サイコミュ搭載の試作型の超巨大MA。暴走暴動時には折りたたまれる5枚の花弁状のバークの外側。合計25本のデンタクラウ・ロッドを持つほか、全体に多数のビーム砲を備える。恐るべき戦闘マシンである。



クロスボーン・バンガード

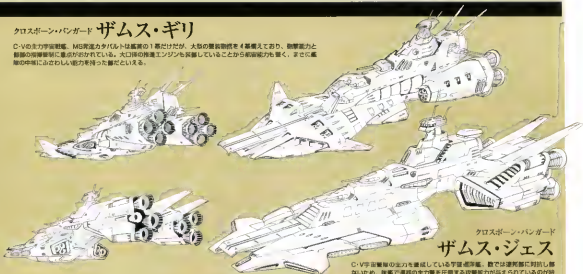
ザムス・ガル

C・V機甲宇宙艦隊の旗艦をつとめる大型戦艦。ブリッジのある本体とバグを収納した前面のガラ・プラフ。左右の両側用カタパルトと、計4つに分層することが出来るため、戦艦でさまざまな戦術に対応が可能。これは大規模をいっつかに分割して破壊するという方法を、先手を取ったのではないかと推測される。ラフレシアを模倣してした。



クロスボーン・バンガード ザムス・ギリ

C-Vの主力宇宙戦艦。MS生産力カナルトは通常の1番だけだが、大型の艦首砲塔を4基備えており、攻撃能力と防御の両面から意図が示されている。大口径の推進エンジンも搭載していることから運動能力も高く、まさに艦隊の中心にふさわしい能力を持った艦だといえる。



クロスボーン・バンガード

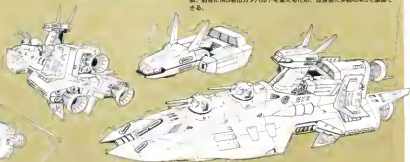
ザムス・ジス

C-V宇宙戦艦の主力を構成している宇宙戦艦。数では連隊制に對抗し難い。艦首で連隊の主力を圧倒する攻撃能力が与えられているが特徴。最後にMS射出カナルトを備えるため、艦隊に多数のMSを随伴させる。

クロスボーン・バンガード

ザムス・ナター

多数が投入された、C-Vの宇宙戦艦。内部にMSを収めできないため、両舷の上下に4基のMS用クレーンを備えている。これはMSの輸出も可能なものだが、艦首や機銃には運用がまま。



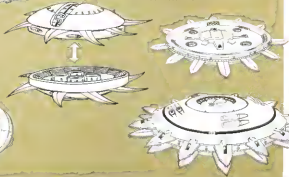
連邦軍 スペース・ポート

シーブックたちがフロンティアIを救出するときに使用した小艇の宇宙船。あくまでもコロニー間の移動や周辺宙域での作業用のため武装は豊富ではないが、2本の作業用アームを備えている。上部と前面に射撃式のハッチを持ち、これを利用してドッキングもできる。



クロスボーン・バンガード バグ

フロンティアIに投入された、凶悪無比な無差別攻撃用メカ。ビーム弾や刃のほかに、本体内部に数機の子バグを持ち、本体死滅や撃破被害などのセンサーにより、生き残るものすべてを見つけては数秒で抹殺する。



連邦軍

サウザン・ジュピター

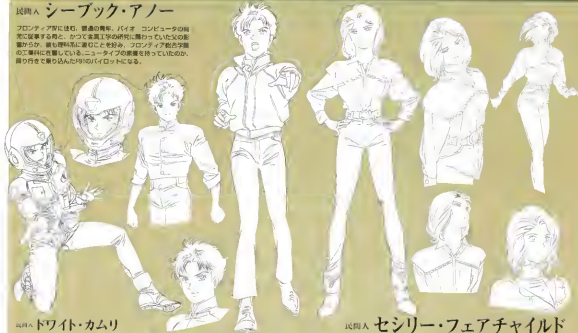
地球側の主なエネルギー源であるヘリウムを水素から製造するために開発された。戦国大宇宙船団は、一年戦争以来この木星を巡る必要と定められているが、エネルギーは戦争に不可欠なため、手中に収めようと狙われる艦が多く、本艦でも数回に大きな被害を受けていた。



③ フロントニアⅣ / 地球連邦軍キャラクター メイン・キャラクター

民間人 シーブック・アノー

フロントニア界に仕込む、普通の高年。バイオ コンピュータの研究に従事する時と、かつて高度工学の研究所に勤めていた父の影響からか、最も理科系に凝りこむことを好み、フロントニア航空学園の工学科に在籍している。ニュータイプの影響を受けていたのか、異行行きて乗り込んだF91のパイロットになる。



民間人 トワイト・カムリ

ミス・コンの同窓会をうけていた。フロントニア航空学園の生徒会長。普通科に在籍しているらしい。父が所属している連邦軍の戦闘機で、おぼっちゃま育ち。



民間人 セシリー・フェアチャイルド

フロントニア学園の普通科に在籍する。通常で少し気が強いが思い切りの良いシーブックの幼なじみ。しかし実はO-Vを患っているロナ軍の野女であり、幼い頃に夫のカロザスを捨てて祖父のシオと駆け落ちした母のナディアに連れられて、フロントニア・サイドに移住したのであった。



民間人 リズ・アノー

シーブックの妹。まだ小学生だが、母と離れて暮らし自立を口に出すまいとする、悪気は女の子である。



民間人 ドロシー・ムーア

シーブックたちと同じフロントニア学園に通う少女で、父親は連邦軍の機務担当。一見すると遊んでいそうなイメージだが、子供たちの世話を焼く優しい少女

民間人 アスマ&サム

フロントニア学園の工学科で学ぶノーブックの両親生。その気風を生かして、フロントニアⅣからの脱出やF91の整備などに活躍している。

ナディア・ロナ

セシリーの母親で、シオと別け隔ちした後、独りセシリーを抱いて育ち続けた女性。そこには女として、さまざまな思いがあったと思われるが、ロナ自身がセシリーに接触したと聞いて、それを止めようとする夢をみる。



シオ・フェアチャイルド

ナディアを攫った後、セシリーの祖父になった男。C・Vの復讐を遂げたロナ家に取り入ろうとする狡猾な人物。



モリギット・プリヨ

ヘビーガンに乗り込んでC・Vと闘う、過激なMSパイロット。また結構は強いが、シーブックたちと戦い続ける。



ヘルムット・ロドリグス

リナ・マリット

幼子たち

C・Vの復讐により両親を失い、シーブックたちとともにスペース・アークに避難してきた子供たち。まだ心もつかない幼子たちであり、状況を理解する間もなく起死回生にまつた彼らこそが、戦争の最大の被害者だといえよう



ミゲン・マウジン

コチュン・ハイン

モリギット・エドバリ

主要乗組員がC・Vとの戦いに出て参らなかつたため、スペース・アークの艦長代理をつとめていた女性士官。民間人の脅威に奔走した。



ロイ・ユング

連年の激戦で、フロンティアの戦争経験の豊かさを誇る人々。C・Vの来襲を前に、まさに決戦機体のガンタンク44で出陣する。とんでもない男でもある。ヒーロー顔だが、死んでいたのであるが、あっさり死した。

コスモ・ユーゲス

フロンティアでC・Vに抵抗する、にわか格闘の地下組織のリーダー的な存在。連年の激戦者のため、一連の軍事的な知識を持つが、結果のため、何となくシーブックたちと衝突する



レズリー・アノ

かつては全米工学の第一線の研究家だったシーブックの父親。過激な事業に巻き込まれているが、父としての生き様を見せる。



モニカ・アノ

FBIのバイオ・コンピュータの開発に参画しているシーブックの母親で、仕事のために事業と犠牲でフロンティアに参入している。しかし母親のつとめを、先方に果たせないことを苦しんでいた。

サウザン・ジュビター艦長

はるばる本拠地からリウムを運んできた、サウザン・ジュビターの艦長。連年の激戦の経験者だが、母がC・Vの来襲にはとんと知識的な対応がとれないのを見て事変を察知。ロナの要請に応えてみせるなど、状況を見極めていた。ある意味、もっともスリルな人。



クロスボーン・バンガードキャラクター メイン・キャラクター

クロスボーン・バンガード

ベラ・ロナ

ロナ軍の一員としてのセシリ。この名こそが彼女の本名ともいえるが、セシリとして過ごした時間を忘れるわけには行かない。結局、彼女はセシリとして生きることを選んだのだから



クロスボーン・バンガード

鉄仮面
(カロツ・ロナ)

セシリーの父であり、妻を襲撃され、無しの口への恥から復讐を企てた男。自ら變化人間になって戦の場を見ようとしたが、たどった道は人としての心を忘れたものだった。それは寂しいことではあるが、消え去らねばならないことを意識していた。



クロスボーン・バンガード

マイツァー・ロナ

理想の宇宙国家、コスモ・パビロニアの建設を夢見て、G・Vを旗揚げしたロナ軍の家長。それは足元にある権威によって築かれた世界なのだが、周のナディアの駆け落ちやその後のカロツの變化は、決して理想を壊せるものではないことを示す中で滅びていくのである。結局は、ひとりの男の覚悟と夢だったのであろうか。



カロツ



ベラ

ドル

ナディア

ロナ家(12年前)

クロスポーン・バンガード

ドレル・ロナ

べうの異母兄だが、生き別れになった彼女をロナ
家に再び迎えたいと心から誓う。家族想いの異母
ロナ家がブッホと名乗っていた頃の辛さを余り知
らないため甘さもあるが、才能はある。



クロスボーン・バンガード

ザビーネ・シャル

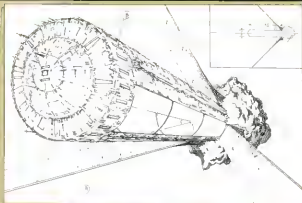
純粋な黒・バンガードの輝き。ベラのお目やねを
いられたことから、彼女を通じてロナ亭に取り入ろうとす
が、第1回が黒い服を着た人々を捕まえたことに対して
罰金を払うなど、悪いことを考えることを拒否する男でもある。



クロスボーン・バンガード

アンナマリー・
ブルージュ

ロナ卿の一言ではないにもかかわらず、その力からブラック・パンガードを任されたザビーネに想いを置ける。C・V重傷箇所箇所無傷。しかし彼がベラに近寄ろうとするのを見て直に、愛機とともスベース・アークに発砲して、自分を捨てたザビーネを数回で殺そうとする。女の執念ともいえるが、数回に数回が満ちる時をコスモ・パビロニアは失礼していたのかもしれない。

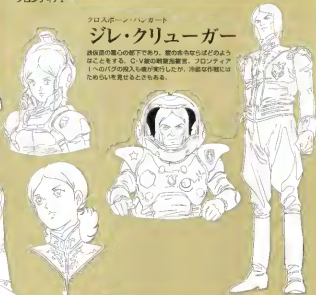


フロンティア!

クロスポーン・ハンカート

ジレ・クリューガー

政敵の囂心の部下であり、彼の命令ならばどのようなことをする。G・V社の経営者兼、フロンティアへのバグの投入も彼が実行したが、冷徹な作戦にはためらいを覚えるときもある。



キャラクター対比図



◎メインキャラクター

リリィ・ミラティイ LM312V04 Vガンダム

地球連帯政府が力を失っていくのに応じて、新興したダズンカール帝国、恐怖を用いて人々を従わせようとする、その権威に対抗するために結成されたのがリキア・ミリティア（神聖軍事同盟）であり、彼らの敵愾になるために作り出されたのが、このVガンダムである。初代ガンダムと同様に3つのパーツから構成され、汎用性が高い。



トップ・ファイター

上半身を構成するトップ・リム(Aハーツ)とコア・ファイターが合体した形態。ビーム・ライフルとビーム・ソードを離えるため、打撃力と防御力は高いが、操縦者の視界が悪い。

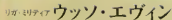


コア・ファイター

『ガンダム』の中核を構成するユニットで、初代ガンダムのものと異なるのは、頭部バーンを持つこと。戦術機として使用可能だが、武器はバルカン砲が2門のみ。



ボトム・ファイター
コア・ファイターとボトム・リム（自パーツ）による連続攻撃。ライフルの装填も可能。



中央ヨーロッパのポイント・カサレリアと呼ばれる場所で育った少年。そこで発生した、クロノクルのシャッコーとゴアファイターの戦いの巻き込まれたことから、Vガンダムのパイロットになる。その後、連年続々にニュータイプのような要素を開花させていくが、最終決戦の直前には心のけて平和な生活の日々へ戻っていく。



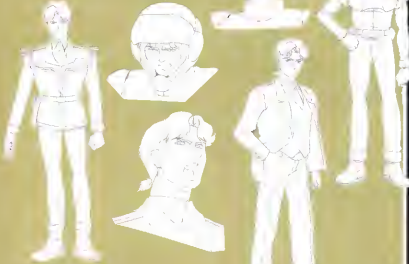
民間人　ザンスカール

シャクティ・カルン

ワツソの幼なじみ。一見、普通の少女のようだが、実はザンスカール帝国の女王マリアが若い頃に生んだ娘。母の面を受け継いだために高いニュータイプ素質を持ち、そのためにマリアが殺された後はザンスカールに利用されそうになるが、彼女はそれを逆手にとって戦いを彼方に導く。

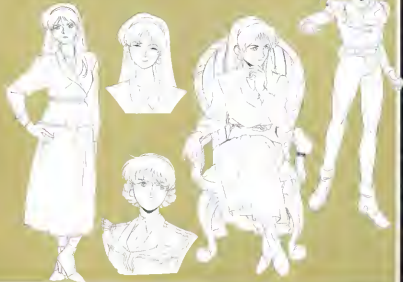
ザンスカール クロノクル・アシャー

女王マリシアの弟で、戦とともにカガサによってスカウトされ、ザンスカールに身を置くようになった。しかし女王の弟と称ばれることを嫌って自ら土壁の壁に組み、戦いの中でカデジナをパートナーに選ぶ。だがその結果、今度は彼女の手の中で殺されてしまうことになる。



民間人 ザンスカール カデジナ・ルース

カサレリアの近くの特殊区ウーイグに暮らす。ウッソの噂を知った少女。当初はリガ・ミリティアと一緒に行動したものの、ザンスカールに誘われてクロノクルに見出されてからは、自ら選んで奇襲の軍事組織ベスバに参わり、女の豪をむき出しにした戦いを始める。



第1話 「白いモビルスーツ」

宇宙世紀0163年、サイド2のザンスカール帝国は軍事組織ベスバによる地球進攻を開始。九州のラゲーンを前線基地として、特別区ウーイグを攻撃する。しかし、抵抗運動を続ける民間組織リガ・ミリティアは、ピクトリーと名付けられた白いMSを完成。成り行きからそのパイロットとなった少年ウッソは、ドッキングを成功させ、敵のMSゾロを撃退する。

第2話 「マシンと会った日」

シャクティはウッソが砲火の中に身を投じるまでの日々を回想していた…。ある日、2人が住むポイント・カサレリアに、ザンスカール帝権軍のMSシャッコが飛来する。ウッソはパイロットのクロノクルからシャッコを奪取し、天性の勇を頼りにMSゾロを撃退する。そこへ、ラゲーンから戦災孤児のオドロ、ウォレン、スージーが逃げ込んでくる。

第3話 「ウッソの戦い」

ペンフレンドのカデジナが住むウーイグが襲撃された。ウッソはシャッコで駆けつけるが、そこで冒険なく人の命を奪う戦争の悲惨さを見る。その衝撃で断絶したウッソは、市民から手当てを受けてカデジナと相遇。ウッソは彼女と戦災孤児になった赤ん坊のカルルマンを連れてカサレリアへ戻る。その頃、クロノクルはラゲーン基地へ帰還していた。

第4話 「戦いは誰のために」

カサレリアにシャッコの襲撃を招くサバトが現れた。一度は追い払うことに成功するウッソだが、雷鳴を聞いたサバトが、クロノクルと再び攻撃を仕掛けてくる。カミオン艦に同行していたリガ・ミリティアのパイロットのマーベットは、コア・ファイターを操縦してウッソを支援。ウッソはサバトのゾロを撃破するが、初めて聞く人の術未慮に動揺する。

第5話 「ゴッソーラの反撃」

地下工場はガンダムのパイロットが少年ウッソだったことに湧く。そこに、サバトの復讐に燃えるガリーがMSゴッソーラで突進する。戦いに邪魔を置くカデジナは子供が出る必要はないとウッソを止めるが、「前に死んでほしくないから」とウッソは出撃。だが、その混乱に乗じたクロノクルは、カミオン軍のオイ伯姫とカデジナが拉致されてしまった。

●EPISODE1~15 各話設定:カサレリアへアーティ・シブラルタル①

ザンスカール ZM-S08G ゾロ

ザンスカール軍のベスパが、初めて地球侵略地に到着したMS。宇宙用MSの観望ノハウしか持たなかった彼らが地球上に戦いを広げる決断を断った。この機体の開発に成功したところが大い。けれども分離しなければ大気圏内飛行ができないなど、いまだ未完成な部分も多い。



ボトムバーン

ゾロの下半身パーツの飛行形態。基本的には無人である。



トップパーツ

上半身の飛行形態で、操縦者はこちらに座っている。セームーランドにより爆力を生む。



ザンスカール

ZM-S09G トムリアット

分離戦士の大気圏内飛行が可能になった。ゾロでの反省を生かして開発されたMS。しかも関節関節を拡張するため、ゾロと共通のパーツを随所で使用したため、初戦での整備も楽になっている。だがそれだけに開発も早かったようで、すぐに次のMSの開発が開始された。



フライトモード

飛行形態時のスピードも、ゾロより向上している。



ザンスカール

ZMT-S12G シャッコー

ゾロやゾロアットに続く開発用MSのテストベッドとして作られた機体。地球圏での運用テストのためにカサレリアに搬入されたところではリガ・ミリアのVガンダム移設部隊を発見。その戦闘にウツを奮起させたことから、この機体は始まった。空想なしで大気圏内飛行が可能である。



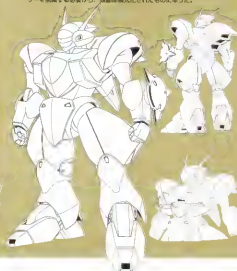
ショルダービームガン



ザンスカール

ZMT-S13G ゴッゾーラ

リガ・ミリアアを始めた。地球上の敵ザンスカールを倒える戦術を構築するために試作された。対グリム・威力調整用MS。強力なセンサーを装備する必要から、頭部は機式化されたものになった。



ザンスカール ZMT-S16G メツメドーザ

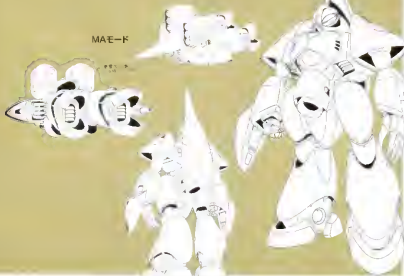
胸元にビーム・ローターを備えるだけでなく、両脚にもターボファン・エンジン内蔵することにより、甲板上で垂直昇降運動を可能にした高度機動機体。しかし機体の軽微なドクトリンを演じるまでに遅いという点は、子供は少数に留まったようであった。



コクピットハッチ

ザンスカール ZMT-D15M ガルグイユ

ザンスカールが投入した、数少ない水中用MS。これはすでに宇宙への移動移動が済んでいたため、地球上には大規模な水上・水中戦力が残されていなかったためだが、地球表面の2/3を占める海を戦場に仕立てたという点は、ザンスカールにとって幸いだったに違いない。



MAモード

第6話 「戦士のかげやき」

オイ伯郎とカチジナを連射中のウッソは、ベスバの機体の勇士ワタリー・ギラが率いるMS部隊に苦戦する。だが、騎士道を重んじるギラは、子供がガンダムを操縦している姿に直感。強敵を軽蔑に突進し、ウッソの眼前で自爆して滅ぶ。一方、戦争に巻き込まれたいくないシャクティは、ウッソに書き置きを残してカサレリアへ帰っていく。

第7話 「キロチンの音」

カサレリアへ向かったウッソは、ドッカー・イク率いるガッダール隊に遭遇。機動バイクに翻弄され、さらに宇宙から降下してきたビニーデンのトムリット隊をも相手にしなければならなくなる。その頃、ベスバに捕らえられたオイ伯郎は、ラグーン基地司令のフアラ・グリフォンによって、近衛分子への見せしめとしてキロチンの刑に処されてしまう。

第8話 「激闘! 激状攻撃」

キロチンの光線に衝撃を受けたウッソは、戦争を拒否してカサレリアへ帰る。その頃、マーベットはガンダムを誘い出す作戦に出たトムリット隊の攻撃に、追い詰められていた。ウッソの才能を思い知ったマーベットを、バラグライダーに乗ったウッソが危機一髪で救う。ウッソはリガ・ミリティアのオリファアの指揮を経て、トムリット隊を逃げる。

第9話 「旗立ち」

クロノクルに伴われたカチジナがカサレリアに現れる。だが、心変わりしてしまった彼女はザンスカール管理の思想に共鳴するようになっていた。一方、クロノクルにVガンダムを捕獲されたウッソは、MSソロで戦い返すが、ガンダムのパイロットであることを知られてしまう。憧れの女性カチジナが去り、ウッソはシャクティとカサレリアを後にする。

第10話 「鮮烈! シュラク隊」

旧ドレスデンに向かうカミオン隊と別行動を取ったウッソは、シャクティとカルマンを乗せてボトムリムで飛び立つ。だが、デブレ大尉の指揮するトムリット隊に発見され、捕縛の危機に陥る。同族にいるシャクティのために戦えないウッソを、オリファアが指揮する女性だけの部隊、シュラク隊が救う。オリファアは単独行動を取ったウッソを助ける。

●EPISODE1~15 各話設定:カザレリア〜アーティ・ジブラルタル②

リガ・ミリアア

LM111E02 ガンイージ

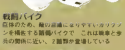
MSの衝突と生意ノハウの戦術のためにリガ・ミリアアが作り出した戦術で、編隊の曲率からGM系の設計がベースになっていると思われる。駆力の供給量が、先に開発が終わっていた強力なモーターを搭載したため、異常な構造の間に出力が強いのが特徴。この機体で再度試験を元にして、Vガンダムの開発が行われた。



ザンスカール

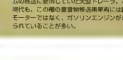
ZMT-A03G ガリクソン&戦闘バイク

最終部隊のガンダール機に配備されていた、全長10mを越えるバイク型のガリクソンと、陸海空の戦闘バイク。海空の低いライオンを備えていて、本拠地の戦闘艇を待機している。後に戦闘艇で地上の侵入を妨害した。モトランド艦隊連隊のためのデータ収集も行っていた。



連邦軍RGM-119 ジェムズガン

この時代の連邦軍の主力地上用MS。機体形状と形式番号からわかるように、一戦時局のGMの系列に属している。基本武装はビーム・ライフルとビーム・サーベル。それに頭部のガンカンのみ。もちろん他にもオプション武装の搭載が可能だが、ベースのMSよりも大きく劣っており、永続で数撃すれば倒れ負けはしないのは明らかだった。



戦闘バイク

団体的ため、機体の前部よりマイン・ガンファンを構成する戦闘バイクで、これは攻撃と歩兵の両方に近い、2面型が特徴的である。

カミオン

リガ・ミリアアのニューグランド、Vガンダムの戦況に使用していた大型トローラー。この時代も、この種の重貨物輸送車両が主流モーターではなく、ガソリンエンジンが用いられていることが多い。



セッターH926

シュラク隊のガンイージを搬送するのに用いられた、標準的な大気圏内用フライトサポート・メカ。ドライを始めとした以前の四機種のメカと異なるのは、ステップ部分が下方に開閉して、駆動時に搭載MSの足道を確保しやすくなったことで、これにより機種の回遊率よりかなり高上している



オーバーヘッドホーク

ザンスカール帝国の標準なペスバと並び、最も広く地上に活用されている兵器機動機。ミノフスキー粒子都市下の情報伝達を容易にするため、日シオン線の情報機ルッピンと同じコンセプトを用いてコックピットが一回旋回可能に設置されている。あくまで後機の収容が任務目的にも機能を持っているが、後方機動も訓練している。



ワッパ

この時代に広く用いられている、バッテリー駆動による運動ファンを使用し動力を供給する、不燃性飛行性に優れた移動機小メカ。特に人口が稠密、利便性以外の運動機能が要求されなくなったため、地上上ではエリカよりも広く普及するようになった。エリカよりも運動機種の移送配分は多いが、それでも有線ミサイルを搭載したなどの点が優れている。



第11話 「シュラク隊の防壁」

ベチンの飛行場跡に到着したウッソたちは、宇宙引越公社に雇われた輸送機で、ノルウェーへ向かう。だが、ルベ・シノの隊とダッカール隊に見えられ、戦意が察知される。シュラク隊のヘレンは輸送機を守るために相手のMSと格闘になり難航。正真正失ったシュッティは、危機に自分の居場所を教えるため、ヤナギランの種を贈る。

第12話 「ギロチンを粉砕せよ」

ウッソは輸送機と別れ、アーティージブラタル方面へ飛ぶ。そこで海軍のロブと出会う。ロブには戦争に行ったまま帰らない息子ニコルがあり、ウッソは意気にもなされる。だが、ペスバが来たギロチンのために市民の犠牲が起き、鼻を折ったロブはウッソの眼前で落ち死す。ウッソはトップ・リムから憎しみの感情をギロチン台に打ち込む。

第13話 「ジブラタル空域」

ウッソとオリファはアーティージブラタルの宇宙引越公社に空港使用を求めに行く。そこでウッソは公社の責任者マンデラから父の消息を教えられる。折しも空港に訪れていたフラガが、襲撃したゴメスの輸送機を発見、戦意が察知される。しかし、ウッソはフラガが乗るMAリカルを撃つことができず、その目ざがマヘリアを戦死させてしまう。

第14話 「ジブラタル攻防」

宇宙では連邦の艦にリガ・ミリティアに協力する態度が窺れ、増設コビビニューテンは、フラガに公社の制圧を命じる。しかし、公社の中立性を主張するマンデラは度々、襲撃を無効したフラガは試作MSメムデーで襲撃を遂行する。ウッソたちは再び敵火を交えるが、マズドライバーを守ったゲイトが被弾、またもシュラク隊に犠牲者が出る。

第15話 「スペースダスト」

ウッソは両腕を接しにマーベットと共に宇宙へ上がる。シャトルにはオドロとウォーレンが密航していた。その頃、カイラスギリーのタシロ・バゴ太夫の執事会では、フラガに宇宙漂流の刑が下される。シャトルで航行中、ウッソは漂流船する建造物にペスバのゴットワルド大尉を発見する。ウッソは酸素ボンベを渡し、大尉もその厚意を受け入れる。

●EPISODE1~15 各話設定:カサレリア〜アーティ・ジブラルタル③

リガ・ミリア オデロ・ヘンリーク

ベスバの爆発によって両眼を失った少年。ウォレンとスージーとヨーロップを保護していたところを、ニュングラ軍に捕われたが、向敵に愛されていなかったのではないかと、と笑い込んでいた。オリファの死後は戦線におくようになるが、子供たちの中で唯一の死者になった。



民間人 スージー・リレーン

やはりベスバによって両眼を失われた少女。当初はラダールの母で育った。今ロンドン都市がトラウマになっていて、兵器などの事に敏感に対応していたが徐々に守衛を振り出し、シャクティが捕らわれてからは熱心にかルマンの行状を見るなどしていた。



リガ・ミリア ウォレン・トレイス

オデロとともにニュングラ軍に捕われた内蔵は少男。緊張すると発熱するところから、それっぽく。最初はリーダー候補のオデロの巻手に預けられているようなイメージだったが、ウッパやオデロを見ていううちにいつか彼も後方で戦うようになる。マルテナに好意を寄せていた。



民間人 カルマン・ドゥカートウス

ウーイックの船でベスバの攻撃を受け、重傷になってしまった乳児。抱腹は最後まで保ちかばい、拳銃の弾片から守るかのように抱いてかかかって死んでいた。



ハロ&フランダース

シャクティの愛犬と、ウッパが父のハンパルから与えられていたハロ。両犬との再会を喜ぶまでは、ふたりにとって唯一の家族だった。



リガ・ミリティア

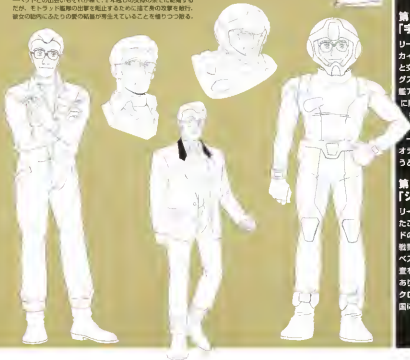
マーベット・フィンガーハット

Vガンダムのパイロット兼機としてニョクグ隊に同行、その役割はウソに過ぎるが、最後までもに行動した女性。オリファーと結婚するが死に、だが彼女の胎内にはふたりの子供が宿っており、最後はカサレシアに旅を続けた。



リガ・ミリティア **オリファー・イノエ**

MS出(パイロット)の教官であり、シチュウ隊の隊長をつとめていた。マーベットとの出会いもそれが縁で、3年越しの交際の果てに結婚するが、モトラッド艦隊の出撃を阻止するために捨て身の攻撃を敢行。彼女の胎内にふたりの子の命が宿していることを知りつつ逝る。



第16話 「リン・ホース浮上」

地球ではゴメスが指揮する戦艦リン・ホースが出航準備を進めていた。カミオン隊とシチュウ隊、バグレ隊のユカも乗船する。それを阻止せんとドッカー・イクが水中用MSガルグイユで魚雷攻撃を仕掛けてくる。一方、スペースダストを抜けたウツトたちはベスバの船体につっかり、ベスバのシーベに通行される。そこには太陽電池衛星ハイランドの子供たちがいた。トリモチと戦艦を使って、ウツトたちは脱出に成功。ガンダムに乗り込んだウツトは初めての宇宙戦を体験する。

第17話 「帝国の女王」

ザンスカールに奪回したドッカー・イクは、帝国の実質的な指導者カガチと女王マリアに謁見。マリアの黒クロナクルの活躍と自ら開発したモトラッド艦を報告。軍隊に匹敵する規模に発展していることを理由に、リガ・ミリティア討伐の必要性を指摘する。カガチの「少年までも取り出すリガ・ミリティアは異常者の集団」という言葉を聞いたマリアはスキャン艦隊を出撃させ、その映像は全宇宙に放映される。それはリン・ホースでも観望されていた。

第18話 「宇宙艦隊戦」

リン・ホースへ向かうウツトとマーベットは、カイラスギリー艦隊から出動したクロナクルと交戦する。MSゾロアットのビームストリングスに晒されて苦戦するウツト。一方、戦艦アルマリアに押されてリン・ホースは危機に陥るが、戦艦ガウランドが合流し、形は逆転していく。だが、ウツトは指導者ジン・ジャハナムに失望を覚悟してしまう。一方、エリシャとマルチナ姉妹に気があるオドロとウォーレンは、彼女たちの翼を引くようにと涙ぐましい努力をはじめた。

第19話 「シャクティを捜せ」

リン・ホースにシャクティたちが密航していたことがわかり、ウツトはオドロやハイランドの子供たちと隊列を始める。その際、先の戦艦で宇宙に投げ出されたシャクティたちは、ベスバ(の)のシーベに回収されていた。精密検査を受けたシャクティは、女王マリアの娘であり、クロナクルの母ということが判明する。クロナクルはタシロの命令でシャクティを本面に連れ帰る。

●EPISODE1~15 各話設定:カサレリア〜アーティ・ジブラルタル④

リガ・ミリティア ニュンク隊

Vガンダムの開発を任された、老人だけの組織。貴族から買収して多分、全国が連邦軍の過激軍閥が材料の密買に買収していたものと想われる。老人であるがゆえに、もう何年かうちにはないとい、彼らはザンスカール帝国と戦うが、最終とても勝利した連邦政府を良くは思っていないが、カザリと戦ったのどちらが本当の敵で正しかったのか、それは誰にもわからない

オィ・ユング

ニュンク隊のリーダー。仲間からは愛顧と呼ばれていた。落ちえられ、黒球色の髪と青い

エステル・チャバリ

悪徳を担担する、悪質なお婆さん。子供たちを何かくる守るのは、自守の基を見い出すからか

ロメロ・マラバル
Vガンダム設計チームのリーダー。ザンスカール帝国の云にもなつたDNAの出身らしい

オーティス・アーキンズ

MSに所属されている特殊なエンジンのスペンティリスト。落ちつた容姿の人物で、牧師の資格も持っていたらしい

レオニード・アルモドバル

はたさないながらも重宝の資格を生かして、一行を支えていた人物

リガ・ミリティア シュラク隊

あくまでも地下組織であり、大規模な勢力を握っていないリガ・ミリティアの、あつたMS部隊のパイロットたち。そのため彼らは、いずれも鍛錬された一戦だけの戦力である。彼らの死をいといわぬ戦い方には、ベスJのパイロットたちも参加していたが、それゆえに消耗も激しく、次々と戦っていくメンバーを前にして、ワッゾたちは見果てぬ戦うのだった。隊長のオリファをのせて空軍女性だが、その理由不明。マヘットもかつてはこの部隊に所属していたと推察される。

マヘリア・メリル

強い思いと尊敬で彼を愛している。奇ひとつてリガ・ミリティアに入つた女性

ジョン・コ・シェンコ

リーダー的な役割をつとめていた女性で、どこか虎に巻いていた

コニー・フランシス

初戦のメンバーで、たどりとりの生き残り。それ以外の戦死したばかりである

ヘレン・ジャクソン

チームの最終の指揮官。ルベ・シノのMSと壮絶な戦いを演じた

ウィット・ブッシュ

ザンスカール帝国の本拠地であるアメリカ・コロニーの出身者。マクス・ドライバーを守るために戦死

ヘギー・リー

ザンスカールに加入した、ワッゾたちを守るために死亡した戦士

地球連邦軍 ロベルト・ゴメス

連邦軍の参入で、最初の話は想像した連邦軍の勇ましいような人間だったが、ウツタたちの真摯な姿を見るうちに、いつしか目的意識に共感し、ついにリオン・ホースJr.の威風凛々をもつとめるようになった。最終決戦で死した



リガ・ミリティア 構成員

強力な戦闘力を持たないリガ・ミリティアを支える戦士たち。その具体的な人数は不明だが、ザンスカル作戦が導き出した恐怖統治の背後者と連邦軍を翻弄する悪者を中心に、かなりの数がいると推測される。



ウッフ・サロモン



マンデラ・スーン

アーティ・ゾフバルタルに殺害されている。宇宙引渡し会社のコロニア映画のトップ・マネージャー。裏切者で、ウツタの両親とも知り合いだったようである



ストライカー・イイグ



ネス・ハッシュャー

第20話

「決戦前夜」

カイラスギリー軍團の地球進攻をくい止めるためには、リオンホースとガウランドでは戦力不足だった。ウツタはハイランドのマイクウェーブを射撃する作戦を提案。計画は実行され、島の将兵たちは順番や順番に悩まされる。その間隙を縫ってリガ・ミリティア軍は攻撃を開始。だが、ジュンコをまきだすオリファニーにマーベットが接近し、戦闘の足並みは揃わない。その頃、ウツタは宇宙に漂う星の死体を見て、死の恐怖と闘っていた。

第21話

「戦術衛星を叩け」

シャクティが気になるウツタは迷いを振り切るように眼を磨き直した。だが、色で破けるような音に感じ気づいたウツタは、ジュンコやトマーシュたちの動きをきいて辛うじて戦い続けていた。一方、リオンホースは無人の戦術ガウランドを艦にカイラスギリー軍団へ接近する。ガウランドを自爆させ、白兵戦の後、戦術スクイードの機を奪取りに成功する。その途中、カチジナは「シャクティたちは無事だと伝えてほしい」とシュラク図のコンニにウツタへの伝言を残してゆく。

第22話

「宇宙の虎」

戦闘後の空域で生存者を捜索中のウツタは、漂流するゴミの奥に隠れていたMSBアゴルに捕まる。だが、そのパイロットこそ「人食い虎」と恐れられる、以前ウツタが撃ったゴッドワールド大尉だった。大尉はウツタを見送ってくれるが、トマーシュたちがハイランドの両端たちに会いに行く途中、再び遭遇。交戦する羽目に陥る。ウツタはゴッドワールドの正面を取るが、引き金を引くことができない。「この瞬間、勝たなければ死ぬのはおまえだ!」と叫ぶゴッドワールドに、ついに引き金を引く。

第23話

「ザンスカル潜入」

トマーシュ、エリシャたちはハイランドの家来と再会するが、船外作業中にマルチナが倒れてしまった。病気の彼女を診てもらうため、ウツタたちは黒石に急接近して一層近いザンスカル本館への密入を図る。だが、それも島の役人に見つかり、コロニー公社が開発したMWサンドージュの攻撃を受ける。ウツタはサンドージュの足元の攻撃に苦戦するが、手足をビームサーベルで切り落とし、ようやくそれを振り切る。潜入に成功しウツタたちは、カルルマンを導いたスージーと再会する。

●EPISODE1~15 各話設定:カザレリア〜アーティ・ジブラルタル⑤

ザンスカール ファラ・グリフォン

ラゲーン基地の司令官として登場したが、地上でゼロチンを倒し倒壊したラゲーン基地の司令官が、Vガンダムに倒れ倒壊したことから宇宙軍の兵に殺せられ、一瞬は死んだかと思われていた。だがタシロに拾われ、ゼロチンの家系であることをキーワードに協助人類と見られる位置を奪われ、恐るべき戦士となって戻る。しかしその姿は、隠れてしまった。



ザンスカール アルペオ・ビビニードン

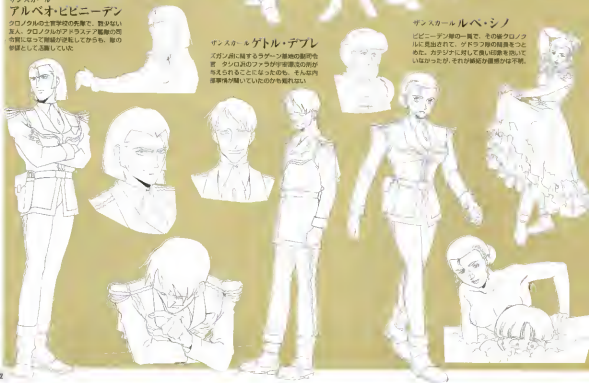
クロノクルの士官学校の先輩で、数少ない友人、クロノクルのアドラスア艦長の司令官になって補佐が任命してから、海の参謀として活躍している。

ザンスカールゲトル・デブレ

ズガン兵に属するラゲーン基地の副司令官。タシロの父のファラが宇宙軍の兵に与えられることになったのも、そんな背景事情が隠れていたのかもしれない。

ザンスカールルベ・シノ

ビビニードン等の一員で、その妹クロノフルに見出されて、ゲドラフ卿の補佐をつとめた。カタジナに対して強い印象を抱いていなかったが、それが断絶点のきっかけは不明。





ザンスカールワタリー・キラ

意味のない戦いを薦う、騎士道精神を尊ぶペス、のMS隊の隊長。その考えを部下にも押し付けてきたが、彼らは戦場で人間性を捨て去ってしまふ。そして、彼のVガンダムのパイロットが、いかにいかなる少佐だと知ったとき、彼はあまりの凄惨に自ら命を絶つたのだ。

ザンスカールガリー・タン

Vガンダムとの戦いでも、そんな自らの命を奪つたために被害を受けた被害者たちを救うために立ち上がったことを疑われ、攻撃の先かしてウツツたちに追いつたVガンダムのパイロット。しかしウツツはそんな彼の攻撃を辛うじて回避。ガリーはリガ・ミリティアの捕虜になり殺された。



ザンスカールメツナ・ルーベンス

ファラの戦いに前のように付きまわっていた。Vガンダムの戦いに参加し、リガールの捕虜にも陥れていたが、両軍のVガンダムに対して後方から攻撃を仕掛けて、悪戦苦闘を繰り返した。それは上官と部下という関係を越えているかのように見えたが、結局はファラを守って死に、ふたりの戦いが報われることはなかった。

第24話 「首都攻防」

ウツツたちの近くで、ジャクティは女王マリアとの対面を果たしていた。そんな中、ペスバが連入攻撃の機嫌を開始した。ウツツはマルチナたちを守るためガンダムを動かす。一方、捕虜したスクイードと融合したリーンホースJr.は、ザンスカール本部に攻撃を開始する。ウツツはジャクティの住む城に進行を断る。彼女との再会を果たしたが、女王が優しい人であり、母親としてジャクティを必要としていることを知る。ウツツは迷いながらも、ジャクティにここに居ることをすすめる。

第25話 「敵艦と敵地へ」

無断で出陣したウツツはゴメス艦長に睨られていた。そこへリーンホースJr.の動きをつかんだクロノクルが、新型MSコンティオで強襲をかけてくる。ベギーとペスを組んだウツツは阻戦するが、急の脅とマーベットのソロアット、負傷したベギーを見せたガンジーは孤立。マーベットは激突する敵艦に粉砕。込んでザンスカール本部へ潜入する作戦を立てるが、ウツツは渾で発見されて難民として拘束されてしまう。クロノクルに見えられたウツツは、女王マリアをとっさに人質にする。

第26話 「マリアとウツツ」

女王を人質に取ったウツツのVガンダムに、クロノクルのMSコンティオが襲いかかる。しかし、ウツツは女王を人質に利用できない。そんなウツツをかばい、ベギーは戦死してしまう。囚われたウツツは、女王から自分の罪を謝るようにジャクティを謝罪して欲しいと頼まれる。マリアが広場で人々に命の慈悲を見せた後、ガチガの演説が行われ、ウツツたちばかりか、タシロにまでギロチンが求刑される。その時、オチロとトマーシュが広場のガンダムを動かす、助けに現れる。

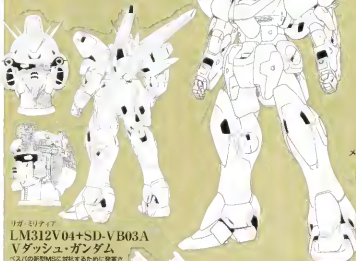
第27話 「宇宙を走る閃光」

オチロとトマーシュがVガンダムとガンジーを動かす、ウツツは窮地を脱する。だが、その前に、MSシャッコーが立ちちはだかる。そのパイロットこそ、ウツツを助けるようになつてたカチジナだった。ウツツはリガ・ミリティアと連邦軍の奇襲に襲われるが、カチジナの奮闘に混乱してしまう。この戦場の最中、ジュンコはクロノクルが仕掛けた爆弾によって戦死。ウツツは悲しみを堪え、戦いを止めさせるためにビックキャノンの引き金をザンスカール本部の主力部隊に向かって引く。

●EPISODE15～32 各話設定:ハイランド〜地球へ①

リガ・ミリティア LM314V21 V2ガンダム

リガ・ミリティアの新たなシンボルになるべく生み出された。従来の機体台座を流石にしく動力源ミノフスキー・ドライブを備えたMS。開発にはアナハイム社やGNPの資金と施設が用いられたとされている。



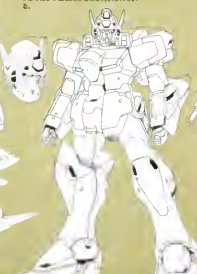
リガ・ミリティア
LM312V04+SD-VB03A
Vダッシュ・ガンダム

ベスバの新型MSに搭載するために開発された。オーバーハング・バックを装着した強化型Vガンダム。火力と機動力が大幅に向上しているが、このバックは分霊機にはコア・ファイターの強化パーツにもなる。



LM312V06
Vガンダム・ヘキサ

Vガンダムの後部パーツを変更したモデル。常態と遊撃機性が認められていて、前者は軍用機の機体といえる。その他のパーツはVガンダムと同じものが用いられている。



V2 トップ・ファイター
Vガンダムのトップ・ファイターは機体の機体が欠点だったため改良された



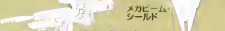
V2 ボトム・ファイター
兵器搭載量はV2トップ・ファイターと大差ないが、シールドを待たないため防御力は劣る



V2 コア・ファイター
ミノフスキー・ドライブを内蔵する。V2ガンダムの心臓部。水平翼は不要なため省略されていない



メガ・ビーム・ライフル



メガビーム・シールド



ビーム・ライフル

LM111E03
ガンブラスター

遊撃ラインの攻撃的以意図が強くつなげられたガンイージに似く。リガ・ミリティアの本格的な機体MS。大型のブラスター・バックを備える。



連邦軍RGM-122 ジャベリン

ジェムズガンダの宇宙用ともしめる機体で、機体の各部に共通のパーツが採用されている。機に名前の由来になったジャベリンユニットを備えるが、実用機はあまり目立たなかった。作戦的にはベスバのMSに大きく劣る



リガ・ミティア リーンホース Jr.
大膽なリーンホースと、意地悪したベスバの妹をライオンを模した宇宙艦。しかし戦艦の性能を犠牲にしたため能力は高い



リガ・ミティア リーンホース
連邦軍のクラブ級宇宙艦。いまだに開成艦や連邦軍に数多く服役しているが、基本設計から60年を超えている

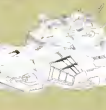


マケドニア軍RGM-109-M5 ヘビーガン

サイド3のマケドニア政府で使用されていた、クロスボーン・バンガードの初陣時に連邦軍に駆逐されたものの、高価に改修が施されているが、いんせん30年以上前に設計された機体であり、簡単にベスバによって撃破された。



リガ・ミティア ガワランラント
連邦軍の強力なリガ・ミティア・リオンから生まれた、アタシス艦隊時のアレクサンドリア級宇宙艦。さきさきにオンボロだった



リガ・ミティア ホワイトアーク
リオンホースとガワランラントの機体から生まれた、代わりウソたちの道になった大型宇宙艦



第28話 「大脱走」

サイド2のコロニー・マケドニアに立ち寄ったウソたちは、ザンスカールの勢力下にあるマケドニア政府によって捕縛されてしまう。ウソたちは監獄の油断を誘ったため、オリファとマーベットの結核式を解き、脱走のチャンスを得る。そこへモトラッド宇宙艦隊司令に昇進したクロノクルが、シャクティ隊員のため、ダイヤ付きMSグドラフで奇襲をかけてきた。彼の脱出時間を稼ぐとウソはコア・ファイターで臨むが、カゲジナのグドラフに襲撃されてしまう。

第29話 「新しいスーツV2」

マケドニアから脱出したゴメス艦長たちは、マーベットのMS8機の援護を得てリオンホースJr.に帰還する。だがウソは難に陥らされ、道がニュータイプに悪いと指摘したルベ・シンから仲間にならないかと誘われる。誘いを断り脱出したウソだが、コア・ファイターが襲撃、危機に陥る。そこに新型V2ガンダムを持ってホワイトアークが救援に駆けつけた。ウソはV2ガンダムに乗って、MSグドラフを圧倒。後にウソは最ムエー・ミゲルがV2を盗んだと知る。

第30話 「菊のガンダム」

ベスバの攻撃で月面都市セントジョセフに逃げ込んだウソたちは、そこで不審な男たちに逢われる1人の女性を救う。その女性こそウソの最ムエーだった。最との対面を果たしたウソは、これまでくちくち捨てた記憶を語り、ミューラはV2ガンダムのことばかり聞きたがる。「どうしてそんなことを聞くの?」と問いかけるウソに、ミューラは「千羅チンをやめさせるには必要なこと」と答え、ウソが生まれる直前、ニュータイプを授かる夢を見た、と話し始める。

第31話 「モトラッド発進」

月のネオ・カタルヘナ基地では、モトラッド艦隊が地球へ発進しようとしていた。シャクティは敵父のクロノクルなら話を聞いてくれるかもしれないと思い、1人で基地へ向かう。ウソはシャクティの後を追いつき、彼女を連れ戻すことに成功するが、ミューラがカゲジナのグドラフに捕まってしまう。一方、最の副艦アドラスアタを止めようとして攻撃をかけたオリファは、決死の覚悟で特攻をかける。最後、オリファはマーベットに子供たちのことを託し、爆死する。

EPIISODE15~32 各話設定:ハイランド~地球へ②

ザンスカール

ZM-S22S リグ・シャノコー

シャノコーの量産型機だが、各話で異なる機と
は大幅に異なる。これはパイロットなどで似た運用
データが生かされたためである。

ザンスカール ZM-S14S コンティオ

高機動の有線誘導式ショットクロウを用い
て、オールレンジ攻撃が可能な機体。だが
サイコミュ機の性能は不明。出えるパイロ
ットの少なから、生産は少部に留まった。

ザンスカール

ZM-S19S
シャイターン

衛星近傍の近域で基中配備されて
いる。近距離戦闘MS。全身に
ビーム砲を備えるとともに大型
の推進器を持つが、これは作戦
領域を限定したからこそ、使用
が可能なのである。

ザンスカール

MW544B サンドージュ

ザンスカール軍の主要アメリカ銀行のコロニ
ー管理を担っていた。ズブロン・シメネフ
が所有するゼビルワークー。

ザンスカール

ZM-S24G ゲドラフ

モトラト艦隊の戦役に合わせて
改良の機体で、アインラッド
の戦役を前線に投入された期
めての機体。両者の運用は、
徹底的な改良をあげた。

ザンスカール

ZM-S06S ゾロアット

ザンスカール軍の最新鋭の機体に成功し
た宇宙用MS。宇宙の母艦が5Nであり、
本艦隊司令部からも直達や遠隔分
入していることを考えれば、機体もそ
ろに設計されたのかも知れない。

ザンスカール

ZM-D11S アビゴル

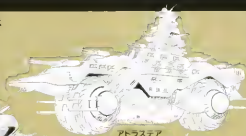
ベスパの機体としては珍しい、宇宙用可
変型MS。機体サイズもこの時代の平均
である14mを大きく超えており、アク
シズ艦隊のものに匹敵する22mもある。

ザンスカール・モトラッド艦隊

地球クリーン作戦のために建造された、バイク状大気圏外のアトラスデア、緑地艦と、リシアア級戦艦、巨大なタイヤでどこに生きている人もなく都市を移動。すべてを助かることなく消滅させる非人道的な兵器である。タイヤを駆動することにより飛行も可能。



アトラスデア
フライング・モード



アトラスデア



リシアア

ザンスカール カイラスギリー

地球ローラー作戦前にザンスカール将領が策定しようとした、地球上の任意の場所をピンポイントで攻撃するための、超巨大ビーム兵器。静止軌道上で発射時に、ワッソたちの必死の攻撃によって奪取された。



ザンスカール 宇宙艦隊

宇宙に拠点を構えるザンスカール軍艦は、多量の戦艦艦隊を保持していた。それらの戦艦軍艦のものより優れていたが、やはり通常の戦艦を前にしては戦力が劣っていた。しかしその戦艦には、すでに力不足はなく、それが戦艦の強さにつながった。



カリスト



シノーベ



メリリン

第32話

「ドッゴラ激進」

モトラッド艦隊を追うリーンホースJr.は、マーベット星とシュルク星で密着作戦を敢行。この戦いにオデロとトーマッシュもガンブラスターで初陣にでる。オリファの叫びに反応。だが、敵のような新機MSドッゴラに奮発され、ワッソたちは苦戦を強いられる。旗艦アトラスデアは発進し、結局、密着作戦は失敗。敵の地球襲撃作戦をくい止めることはできなかった。クルーたちはリーンホースJr.の甲板でオリファの宇宙船を行い、モトラッド艦隊を追って地球へと向かう。

第33話

「海に住む人々」

モトラッド艦隊を追って地球に降下したワッソたちは、人口海洋都市アンダーフックに到着する。だが、そこを拠点とするマリア主権信奉者によってシャクティが拉致されてしまった。一方、モトラッド艦隊から出撃したルベ・シノMSドッゴラは、停泊中のリーンホースJr.を攻撃。ワッソはこれを撃退するが、カチジャとシャクティの乗る潜行艇はクロノクルの機体に取り込まれ、海底に姿を消す。クロノクルと対面したシャクティは戦争を止めてと訴えるが、聞き入れられない。

第34話

「巨大ローラー作戦」

メキシコ方面に移動したモトラッド艦隊は、地球クリーン作戦を遂行。巨大な戦艦で街を蹂躪しながら北米大陸に向かって進む。それにワッソたちのMS部隊は必死で、艦隊の航行速度を遅くすることは出来なかった。戦艦が核融合を引き起こせば、街を消滅させてしまうからだが、地球を汚染させてしまうからだ。しかし、戦いの中、艦隊アトラスデアに母の姿を認めたワッソは、艦隊を止めさせようとMSを爆発させる。だが、すんでの所でアトラスデアはこれを回避し、上昇していく。

第35話

「母かシャクティか」

リーンホースJr.は、捕虜のゴズ・パールを泳がせるためにわざと溺れさせ、それに扮したワッソとオデロをアトラスデアへ潜入させる。ワッソはミューラと合流し、彼女に船内部の機体をまかせると、シャクティを救出。ワッソはシャクティを人質に見せかけて救出を試みるが、彼らを知るクロノクルにそれは通用せず、母ミューラは自ら死んで、再び甦らされてしまう。「ワッソはおばあさまを助けるべきだったのよ」というシャクティの言葉に、ワッソはやり切れない思いを抱える。

●EPISODE 15~32 各話設定:ハイランド~地球へ③

民人 **ハイランドの子供たち**

トマーシュ

禁止地球上の太陽光発電衛星ハイランドに暮らしていた。保守警察の要員の6人の子供たち。生み出される電力をカラスグリーに供給することを画策したベスバによって、彼らも他のままに暮らすための機嫌として連れ去られようとしていたが、そこをワッパンたちによって救われた。以降、一門と行動をともにするようになったが、中でもトマーシュはMSのパイロットに志願、直接戦場にも赴いていた。

マルチナ

カレル

ノフィア

プラス

リガ・ミリティア **ミュラ・ミゲル**

ワッパンの母親。夫のハンゲルが同じくリガ・ミリティアの組織からのメンバーであり、夫の監獄中に任務を要請したため、ワッパンをひとり残して作戦に従事していた。彼女の素性を知ったビビニーデンによってワッパンに対する人殺しとして用いられ、彼の眼前で非難の死を遂げた。ワッパンを身ごもったとき、夢の中でニュータイプの子供を産んだというが、それは彼女の願望だったのだろうか?

(4年前)

エリシヤ

リガ・ミリティア **シュラク隊**

燃料の盗しゅうラック隊に駆逐されてきた部隊たち。しかし彼女たちもまた、戦いのやどに戦いに参っていくのであった。

ユカ・マイラス

リガ・ミリティアに所属してカイラスベリーへの攻撃を実行した。連邦軍バグ隊の生き残り。最終決戦に死した。

リガ・ミリティア **ジン・ジャハナム**

リガ・ミリティアのリーダーが務める。商人と戦うの名を持つ。だがくまで密にはゾニーであり、彼のジン・ジャハナムは常に潜伏存在していた。

マーベット&オリファ

マケトニア・コロニーの無敵攻撃隊で、ついに超機動を挙げたときのふたり。それは戦いの中、数少ない平和な一瞬だった。

フランチェスカ・オハラ

一見すると美人だが、高価なものの買い手。ワッパンをからかって楽しんでいる。

ミリエラ・カタン

シュラク隊に襲撃に捕らされたパイロット。フランチェスカとともに死した。



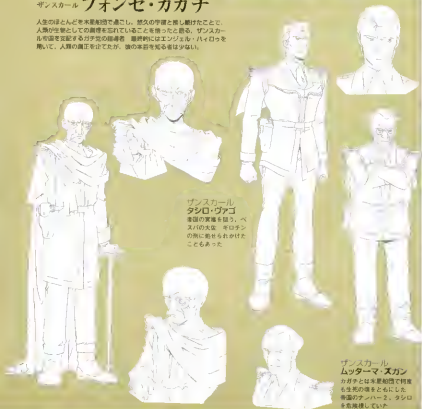
ザンスカール マリア・ピア・アーモニア

カガチに導かれるザンスカール神座の女王にして、シャクティの汚濁、異端神教や平和などのニュータイプ勢力だけでなく、本能能力までも持つ、マリア主義の教団でもある。戦いを好む女性ではないが、カガチとの結婚は彼女に幸福をもたらすことになりかけた。親善のためにエンジェル・ハローで来るが、自分がすでに汚れた大人であることを悟った彼女は、シャクティにたずねてすべてを託して死ぬ



ザンスカール フォンセ・カガチ

人生のほとんどを木星海溝で過ごし、悠々の平和と静けさを感じたことで、人類が生きていくの価値を忘れていたことを悟ったと語る。ザンスカールを国を支配するカガチの継承者。最終的にはエンジェル・ハローを率いて、人類の真実を告げたが、彼の平和を信じる者は少ない。



ザンスカール
タシロ・ヴァゴ
皇国の実権を握る、ベ
スバの大臣。平和チ
ンの物に動かせられかけた
こともあった

ザンスカール
ムッター・マスカン
カガチとは本能的に同僚
も生死の境をともにした
帝国のナンバー2。タシロ
を危機に陥れている

第36話 「母よ大地にかえれ」

停戦協定の発効前にリーンホースJr.を仕留めたいクノロクは、内容を踏かずビビニーデンの作戦を無条件で許可する。だが、それはミュールを犠牲にしたがらV2ガンダムを叩く辛苦な作戦だった。ゴズ・パール機は捕らえられたミュールを前にウッソは戸惑うが、ミュールは「戦士なら私を忘れないで」と叱咤する。が、ゴズ・パール機は捕らえてアラスデアの路線に引っかかり、機動したリシア艦に巻き込まれて運搬機と捨てられてしまう。無惨な母の死にウッソは泣き崩れる。

第37話 「逆襲ツインラッド」

休戦が取れたウッソたちは、假や仲間に理解するためカサレリアへ向かう。だが、そこへ停戦協定を無視したドッカー・イクが海軍から機導戦を仕掛けてきた。ホワイトアークは経路に追いつけず、そこには海の汚染で生き物の死骸が大層に漂着していた。戦艦に怯えるエリシャとマルティンに、シャクティは「きれいな環境を作るために戦っているのだ」と語りかける。ウッソたちは海軍の援軍を待てるドッカーの部隊を捕獲するが、ウッソは母の死の衝撃から立ち直れないでいた。

第38話 「北海を炎にそめて」

ウッソとオデロは海上の偵察に出かけるが、オデロは内緒でエリシャを同乗させていた。2人きりのデートを羨しうとうとう演説だ。そこをレンジのインラッドに発見される。再びドッカーの部隊がホワイトアークを襲ってきただ。戦艦が爆撃され、ホワイトアークはモトラッド艦の攻撃に苦戦。オデロは機銃を取ろうと果敢に攻め、リシア艦を撃破する。戦艦の直前、将軍を捕らえていたドッカーとレンジは絶命。ウッソたちは、2人がバイクに跨って空を飛んでいく幻影を見る。

第39話 「光の翼の歌」

ヨーロッパに入ったホワイトアークは、カサレリアを目前にベスバに戦われる。ラゲーン基地に駐屯するマチス・ワーカの部隊だ。彼はリギ・ミリアアに一矢を報い、平和なこの土地に自分の家来を迎えたいと考えていた。だが、光の翼を広げたウッソに部隊のMSは次々と破壊。マチスは単身でV2ガンダムに戦いを挑むが、強くなったウッソの敵ではなかった。ウッソはマチスをコックピットから救出するが、彼は戦死する。ウッソは母や仲間と共に船をカサレリアに運搬する。

●EPISODE33~51 各話設定:アンダーフック~エンジェルハイロウ①

ザンスカール ZMT-S29 ザンネック

両肩に大型の粒子加速器を持ち、それを用いた超大型のビーム砲「ザンネック・キャノン」を備えた、重装甲型MS。このビーム砲の威力はすさまじく、成層圏上層から砲をの海に押し下げる程であった。量産性に富みあるため、専用の円盤状移動プラットフォームのザンネック・ベースが用意されていた。サイコミュが、それに際する装備も搭載されている。



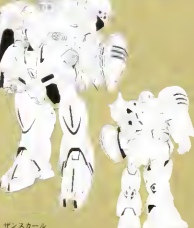
ザンスカール ZM-S20S ジャバコ

右腕にヒートロケットを備えた、高運動性を重視した機体。アイングラッドの標準機で、それなりに戦果を挙げている。しかし機体の最先端性は低かったらしく、あまり姿を見かけないうちに戦況が激変してしまった。



ザンスカール ZM-S06G ソリティア

ザンスカール市街が初めて襲撃したMSゼロアクトで、地球上での運用に適応した改修を施したモデル。形式上は未完成品だったが、機体は手を加えたため、使い勝手は悪くはない。近接まで多くの兵士が乗り込んでいた。



ザンスカール

ZM-S21G プルッケング

ゲドラフとともに開発されたアイングラッド機。肩のジョイントで連結して重装甲型にした機体。だがあまりにアイングラッドは重量がかたいため、ここでは量産型のものに変更され、機動力の点ではゲドラフよりも若干劣ることになってしまった。しかしそれでも、この機体は捨てがたかったらしく多数が前面に投入された。



ザンスカール

ZMT-A31S
ドッグロー

全長30mにも及ぶ、巨大なMA。宇宙のみならず、水中でも運用できる。機体の半分はコンテナ状のパーツで構成されていて、自由に分離・合体できる。



ドッグロー機体

ザンスカール ZM-S27Gドムットリア

ドムットリアの家族機。しかし、ソロの乗組員に過ぎなかったドムットリアとは異なり、まったく新たな機体として再設計されているため、格段に優れた性能を有している。口の部分に近視用眼鏡のショックバインドを持つ。



フライトモード

ザンスカール ZM-S08GC ソロ改

兵士の乗物を離れてウッソたちに戦いを挑んできたマチス・ワーカが乗組していた、ソロの改造機。基本的にはソロの姿だが、移動のセンサーが強化されているため、歩行印象を受けるアンバランスなものに改造されている。



ギガシィ

ザンスカール本部のコロニー内に配備されている、小型の警備用マシン。マシンガンは小口に、武装化したものではあるが一部マニピエーターも備えている。



第40話 「超高空攻撃の下」

カサレリアで休息をとるウッソたちに輪の面が絡めてくる。不意に思ったまま、ウッソとマーベットはラグーンへ飛び、そこでマチスの軍団に出会う。ウッソたちが父を救ったことを聞いていたマチスの子供たちは、ウッソに石を投げ、罰しめをぶつけてくる。その時、強力なビームが突如、ラグーンの街に真空から降り注いできた。不思議な音はこのビームを発するMSガンネックから出ていたのだ。ウッソはマチス夫人と子供たちをカサレリアに避難させ、マチスの墓に案内する。

第41話 「父のつくった戦場」

リーンホースJr.とホワイトアークは再び宇宙に上がり、太陽系南緯のハイランドへ向かう。そこには連邦軍の軍艦が集結しており、ウッソは数回ジャンヌダルクで父ハンゲルグ・エヴィンと再会する。ハンゲルグはリガ・ミリティアのリーダーである真のジン・ジャハナムとして、連邦軍の協力を得ようとしていたのだ。ウッソは地球にいた頃と違う父の態度に戸惑いながらも、ビビニーデン戦艦との戦闘に参加。ハンゲルグはウッソの高い戦闘能力に目を覚ます。

第42話 「鮮血は光の洞に」

ビビニーデン艦隊を圧倒した連邦軍とリガミリティア艦隊は、ザンスカールの秘密兵器エンジェル・ハイロウを目指す。一方、ビビニーデンはタシロに援軍を要請するが、後の晩年によって孤立させられる。自ら巨大MAビルケンウで出陣する覚悟を決めたビビニーデンは、メガビーム・シールドを操るウッソに放たれるバ・シノのMSブルッキングと激突。浪がことごとく繰り返ったビルケンウと共に宇宙に沈む。ハンゲルグは強すぎるウッソを見て、我が子に別人のような辛さを味わっていた。

第43話 「戦場の罅罅ファラ」

冷たい態度の父に不満を抱えたまま、ウッソはエンジェル・ハイロウ周辺の戦艦隊を掃討する作戦に出撃する。そこに現れたMSガンネックから、生身のファラが飛び出して来た。戸惑うウッソに、ガンネックに同乗していたキルがビームを発射する。間一瞬でそれを外したウッソは、リーンホースJr.からあちこちのブーツを連射射出してもらい、ガンネックを感得せる。ウッソはガンネックの死角から攻撃、ついに撃破する。ファラはボッドで脱出する。

●EPISODE33～51 各話設定:アンダーフック〜エンジェルハイロウ③

ザンスカール

ZMT-S33S ゴトラタン

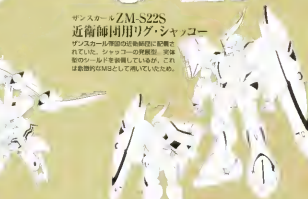
実機メカなしに、強力な腕部ビームランチャーの搭載を可能にしたZMT-S33S。キャノン・ユニットは、近接戦闘時には背後に折りたたまれるだけでなくメイス・スラスタースにもなり、この機体が高い機動力を有えることに成功している。



ザンスカール

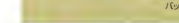
ZMT-S34S リグ・コンティオ

各話所示のように、強い印象を受けながら見える者が少なかったことから少量生産に留まった、コンティオの発展型として開発が進められていた機体。しかし、いまだ試作段階のようである。コンティオには搭載されていたショットクロウが1基になっているが、かわりにヴァリアブルビームランチャーを備えており、火力的には遜色はない。



ザンスカール ZMT-S28S ゲンガオゾ

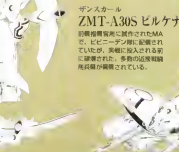
5連装のマルチ・ビームランチャーを備えた、バック・エンジンユニットを持つMS。このユニットは分離して遠隔コントロールが可能なことから、サイコミュが搭載されている可能性が高い。生産数が極めて少ないのも、そのためであろうと推測される。



ザンスカール ZM-S22S

近衛師団用リグ・シャッコウ

ザンスカール軍団の近衛師団に配備されていた。シャッコウの発展型。実体型のシールドを装備しているが、これは数機用なMSとして用いていたため。



ザンスカール

ZMT-A30S ビルケナウ

近衛師団用機として製作されたMAで、ビビーン・デンザンに配備されていたが、実験に投入される前に破壊された。多数の近接戦闘用兵器が搭載されている。

バック・エンジン・ユニット



リガミティア

V2アサルトバスターガンダム

V2ガンダム用に開発された、2機用のオプションパックがアサルトユニットとバスターユニットである。攻撃と防御の両方が強化されるだけでなく、一機にはニュータイプ用装備も載せられており、それ5分もろろんウッソに合わせれば機體が潤される。



アサルトパーツとバスターパーツは同時に装着可能。これほどまでの強化ができたのは、メカニクス・ドライブ・ユニットに多大な余裕があったからに違いない。

LM314V23 V2バスターガンダム

多関節ヒールランチャーやスプレー・ビームガンなどを載せる。オーバーハング・バックを装着した状態をV2のバスターと呼ぶ。



LM314V24 V2 アサルトガンダム

機にP31で用いられたV2のV2を載せるが、これは切り替えてファンネルのような使用でも可動地加減中はヒールの多関節は縮める。

第44話

「愛は光の果てに」

本陣とはぐれたウッソたちは、ホワイトアークを襲撃してエンジェル・ハイロウ空域に乗り込む。だが、シャクティが自ら女王マリアの顔と名乗り出て、隠れにきた近衛衛門のキスハールに送り届けてほしいと頼んでしまう。一方、それが恋人キスハールのMSで捕縛されていると思い込んだ恋人のカリಂಗは、彼が持っているとも知らず、ファラにけしかけられて攻撃を仕掛けてしまう。キスハールは自分の戦いをカリングが悪い出でせよとすると、彼女と悲劇の相打ちを演じてしまう。

第45話

「幻覚に陥るウッソ」

ついにエンジェル・ハイロウが完成した。女王マリアはキールームに入り、テストのためサイキッカーたちと共に戦場に向けて新を出す。その影響を懸け、ウッソは幻覚に陥る。突然、地球に降ると言い出したウッソに、オデロとトーマシュは彼が普通ではないことに驚き、MSソロアットの部隊に続く。戦いの最中、ウッソはようやく正気を取り戻し、光の影で敵を撃破する。この実績でカガチはマリアに代わりが必要であることを認める。

第46話

「タシロ反乱」

シャクティはアドラスデアに移り、クロノクルにエンジェル・ハイロウを壊して欲しいと要求する。クロノクルはそれを断る。その頃、タシロが以前ギロチンにかけられた痛みを持つカガチに反旗を翻し、女王マリアを人質に取る。タシロは女王マリアにエンジェル・ハイロウが人質を総動員させてしまうことを断固し、動揺したマリアは「人質を導くのはおなた」とシャクティに言い残して連れ去られてしまう。その頃ウッソは、ファラの執拗な攻撃に苦しんでいた。

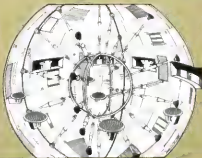
第47話

「女たちの戦場」

エンジェル・ハイロウの波動で、地球では人々の間に幼児流行現象が始まる。キールームにはマリアに代わったシャクティの姿があった。一方、ウッソはマリアを救出するためにタシロの艦隊を導くが、ファラのMSガンガンオゾが立ちふさがる。ファラはウッソを撃破するマーベットのお返しに新しい命の波動に不意をつかれ、その服をウッソに奪われる。ファラは先に運んだ部下のメツェウのことを思いながら手首を壊していく。タシロはマリアが敵を呼んでいるのでは、と疑念を持つ。

エンジェル・ハイロウ

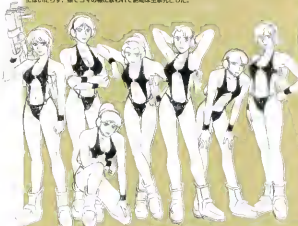
カガチが侵入した。機体300mにも及ぶ超巨大サイコメカニクス。内部には2万人のサイキッカーが冷凍睡眠状態でまとめられていて、中央のキールームから指示することにより、使いがたい300mのサイコメカニクスを起動、人々の精神に影響を与える。



●EPISODE33~51 各話設定:アンダーブック~エンジェルハイロウ③

ザンスカール **ネネカ隊**

女王マリアを守ることを目的にして編成された近衛隊の中でも、女性ばかりで構成されに近衛マリアがタンシロに殺害されてからはエンジェル・ハイロウの防衛に投入されていたが、その戦術中にカデジナから特別任務を与えられる。それはウッソをたぬらすために海防防衛の役で、V2ガンダムに新機体整備を仕掛けろというもの。確かに作戦は一時的に成功する。だがV2を倒すにはならず、逆にコマの罠に嵌りて敵艦は全滅した。

ザンスカール **マチス・ワーカー**

カサレリアに属せられ、そこで訓練と暮らしをさせられたベスバのパイロット。だが暗黒軍団のために訓練された一時的な平和軍に利用されて、家下とともに最終に敵軍を開始する。重ではあったが、実用な人間。



ザンスカール

キスハル&カリンガ

近衛隊に属するパイロットで、カリンガはキスハルの僚機であると同時に艦隊の人でもあった。しかしキスハルの剣を攻撃の保険と考慮していたため、ふたりは前し合うことに。一。

連邦軍 **ムバラク・スターン**

リガ・ミリティアの創設に応じて、自らの指揮下にあるリッフェス・ダルク艦隊を出陣させ、ザンスカール軍と戦うことを決断した艦隊。

**ファラ・プリフォン**

連合人間としての攻撃を受けこたえられたヴァラ、タンシロの艦隊方となってプリフォンに送られ、新編したマーベットとの戦いの中、女を取り戻して居る。

**アンダーブックの住人**

コロニーへの移住と同時に黒い連隊が行われながらも、忘れ去られてしまった海軍都市の人々。マリアを保護する者が多く、シャクティの艦隊に捕らえられた。

**マチスの妻子**

先夫の死を受け、カサレリアで静かに暮らすマチスの妻と子孫たち。彼らの夢を見て、ウッソは真実を知らせられた。

リガミティア ハンゲルグ・エヴィン

ウッソの父親であり、最後のリガ・ミリアアの指導者のひとり。以前から妻とともに反ザンスカール帝国の活動に身を投じていて、いつしかその活動が露見することになったらしい。軍艦に対する襲撃や、もうウッソには父親は不要であるというのかもしれない。ムバク艦長とともに特攻を敢行する。しかし激突直前の瞬間には妻の姿が見えず、胸に刺さった刀を握り締めていた本妻の姿を内蔵に導くために、死を覚悟したのではないのともいわれている。



カサレリアにて

カサレリアに帰ってきたウッソたち。そこにはオデロの姿は見えないが、代わりにオリアファーとの子供を腕内に抱いたマーベットがいた。そして始まる平和な日常。生活に委ねながらも少しの憂いを感じるカサレリアは、ある意味で理想郷なのかもしれない。そこを過りかかると能力を失ったひとりの女性。それは時々の正義に奮起したシャクティは、優しく彼女を救済する――

盲目のカデジナ



第48話 「消える命 咲く命」

シュバッテンの艦橋に取り付いたウッソは、マリアを解放するとタシロに迫る。だが、狂気に陥られたタシロは、マリアを射殺してしまう。目の前の惨事に呆然とするウッソは、とっさにビームサーベルで艦橋を突き刺し、シュバッテンを撃破する。一方、連邦軍とリガ・ミリアア艦隊は地球に降下するエンジェル・ハイロウに、直接攻撃をかける作戦を決定。ジンジャ・ハナムの指令で進軍を開始する。ホワイトアークに帰ったウッソは、次の命を生む女性のために戦っているのだと自覚する。

第49話 「天使の輪の上で」

エンジェル・ハイロウへ向かうウッソたちに、カデジナは執拗な攻撃を仕掛けてくる。正義を振りかざすウッソのような子供に嫌悪感を募らせていたのだ。ガンブラスターに乗りユカは、ウッソの突入を助けるため、自ら犠牲となり殉死。エンジェル・ハイロウに侵入したウッソにカデジナは水雷のネネカ弾を差し向ける。が、汚いやり方に怒りを覚えたウッソは初めて彼女に憎悪を向け、彼女を殺そうとする。キールームに入ったウッソは、そこでザンスカールの宰相力ダチと対峙する。

第50話 「憎しみが呼ぶ対決」

エンジェル・ハイロウの破壊を指示するハンゲルグに対し、ウッソとシャクティはサイキッカたちを救いに再び潜入を試みる。シャクティがキールームで祈りだすと、エンジェル・ハイロウは光を放ち、分解を始めた。一方、彼弾したリール・ホース・Jr.は、ゴース艦長とカミオン隊を乗せたままモトラッド艦隊に特攻。ジャンスダルクも沈み、モトラッド艦隊の全滅を引き替えにゴニー、フランチー、ミリエウも犠牲する。その頃、ウッソはクロノクルと1対1の戦いを繰り広げていた。

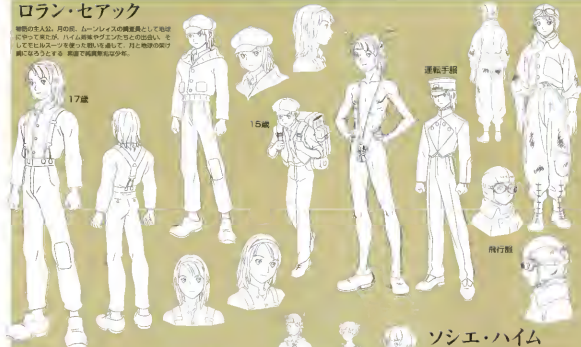
第51話 「天使たちの昇天」

ウッソにシャクティを救いに行かせるため、オデロはカデジナの一軍に敵った。分解するリングの上でウッソはクロノクルを撃ち破り、カデジナをも倒れる。エンジェル・ハイロウは宇宙へと飛び去り、戦争はようやく終結。ウッソは光に包まれたシャクティと共にV2ガンダムで地球に降下する。時は流れ、カサレリアには静かに暮らすウッソやシャクティたちの姿があった。そこを暗から光を失ったカデジナが、彼らのウイングを目撃して通りすぎていく。道に迷った旅人のように。

◎メインキャラクター①

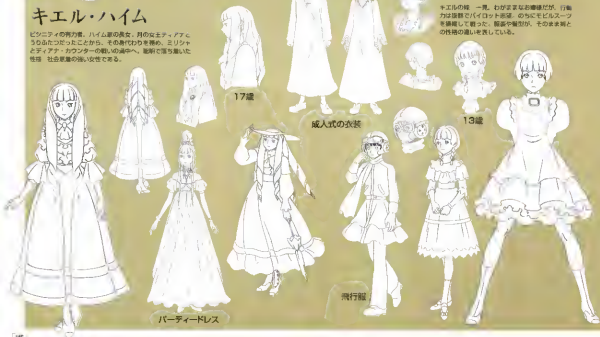
ロラン・セアック

世界の主人公。月の民、ムーンレシスの調査員として地球にやって来たが、ハイム艦隊やエンタチとの出会い、そしてモビルスーツを使った戦いを通して、月と地球の架け橋になろうとする、真意で純真無邪な少年。



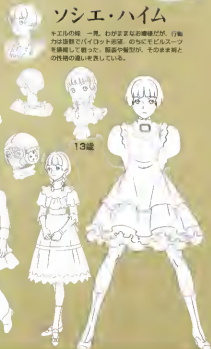
キエル・ハイム

ビタニアの有力者、ハイム家の長女。月の公主ティア・アウロムにたつだったことから、その身代わりを命め、ミリシアとティア・カウプターの戦いの途中へ、密航で落ち着いた性格、社会意識の強い女性である。



ソシエ・ハイム

キエルの妹。一見、わがままなお嬢様だが、行動力は母様でパイロット志望。のちにモビルスーツを操縦して戦った。服装や髪型が、その将来明との性格の違いを表している。



ゲン・サード・ ラインフォード

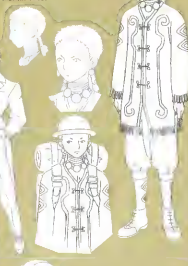
イングリッサの若き副官で、愛憎革命を推進する実務者。ムーンレイスの進攻に對してミリシャを設立し、戦いをリードしていくが、若さゆえの戦術的も目立たない。なかなかのしゃれ者。



17歳

ジョゼフ・ヨット

山崎ワンの弟子であり、機巧な熟手。のちにミリシャの一員としてジャラビム戦を演義する。マバ島の出身で、当時はその民族衣装を着ていた。



メシェー・クン

ソシエの友人で、父親ゆずりの機巧技術者で通称、ミリシャの機巧師兼パイロットとして活躍する。ソバカスとくせ毛が可愛い。愛憎のある少女。



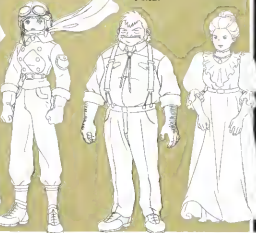
ラダラム・クン

メシェーの父親で、ピシニティの飛行場で働く。パイロット、飛行機の設計技術でもあり、のちに罗兰たちの宇宙船の発展や機密に関わる。当初の愛憎はヒップヘビー。



ハイム夫妻

キエルとソシエの親類の両親。父ディランはピシニティの鉱山主で、罗兰をやとってくれた義人だが、ムーンレイスの攻撃で死亡。



第1話 「月に吠える」

MSフラットが地球に降下する。中には月に住むミス・ムーンレイスの3人の少女少女が乗っていた。彼らの目的はムーンレイスが地球へ降下するため、地上で生活できるかをモニターすること。その1人罗兰は、降参先の鉱山を目指し途中、川で溺れ、ハイム家の姉妹キエルとソシエに助けられる。この出会いから罗兰はハイム家で暮らすことになる。

第2話 「成人式」

地球降下から2年。ピシニティで成人式が行われ、罗兰もソシエと参加する。だが、同じ日、ムーンレイスは地球への移住を断念し、戦艦部隊ディアナ・カウンスラーを先兵に地球への進攻を断行。イングリッサの首都ノックスが攻撃され、戦艦を付け合う様式が始まった時、罗兰の目の前でホワイトドールが溺れ、白いMS・Vガンダムが現れる。

第3話 「祭の後」

ボウ少尉のMSウォドムにピーム・ライフルの1撃を受けた後、Vは動かなくなった。罗兰はソシエは機体を鉱山跡のシドに預けてハイム家へ戻る。だが、空襲によって家は破壊、ソシエの父ディランは地命していた。一方、ノックスの降参で来るラインフォード家の副官グエンは、Vを敵との交渉に切り札にすべく、罗兰をVのパイロットに任命する。

第4話 「ふるさとの軍人」

V脱出に動いたボウ中尉のMSウォドムとワッド小隊が近づくと、罗兰は記憶のないVで敵を撃退させるが、同じ頃、月の女王ディアナ・ソレルの戦艦部隊長ハリーが、戦艦部隊の本隊とともに地球に降下。地球と月の交渉が開始される。だが、降参、イル家の長老の暴走で、月側の代表アジ大佐は殺害。罗兰は身分を断り、ムーンレイスと接触する。

第5話 「ディアナ降参」

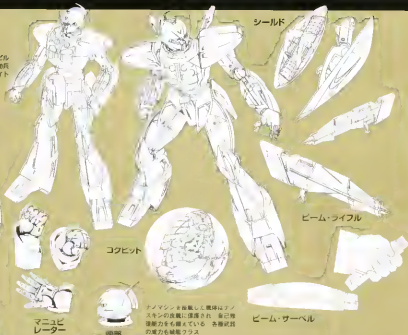
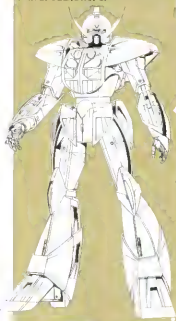
ヤニ軍率いるミリシャの部隊がムーンレイスの民衆人居住地を断参。だが、敵のMS部隊の攻撃でメシェーが降参してしまう。罗兰はVで出陣し、これを救出する。一方、ミハエル大佐をはじめとするミリシャの過激派は女王ディアナの拉致を秘密裡に画策していた。キエルは父の死を機にMSカブルの訓練に参加するというソシエに、不安を断念させていた。

●メインメカニク

ミリシャ System-▼99

▼ガンダム

マウンテン・サイクルの石像から出現した意識人形＝モビルスーツ。近世紀・宇宙時代の高度な科学技術が生んだ機動兵器で、自動防衛システムを含む各種の装置を備え、高ワイトボール、ヒグなどと呼ばれている。



マニピレータ

コクピット

頭部

デノマシンと称された機体はアノスキンの衣装に保護され、自己修復能力をも備えている。各種武器の威力も絶大クラス。

ビーム・サーベル

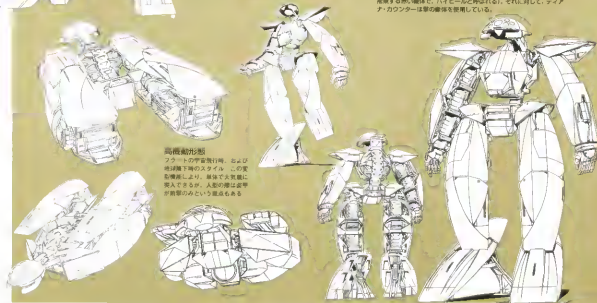
ムーンレイス

FLAT-L06D フラット

ロランたちが機体へ潜入する際に使った可変モビルスーツ。のちにギースが乗り込んでしまい、ミリシャの戦力となった「レット」隊が使用する機体。機体で「ハイビーム」と呼ばれる。それに対して、ディアナ・カウンターは機体の機体を使用している。

高機動形態

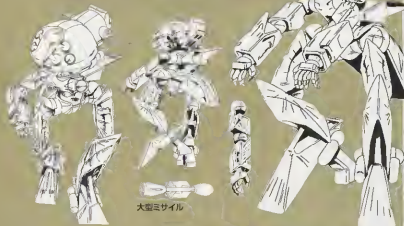
フラットの宇宙飛行時、および地球降下時のスタイル。この変形機体により、機体で大気圏に突入できるが、人型の機体は空気が数秒のみという弱点もある。



ディアナ・カウンター

JMA-0530 (Model U) ウォドム

ディアナ・カウンターのボウ・エイジたちが乗る大型MS。ミリシャからは「かかし」などと呼ばれているが、大目黒ヒムキャノンやミサイルランチャーを装備した重武装のブロックなど、宇宙空間での戦闘を想定した重武装が特徴であるその驚異的な機動力がミサイルスーツを初めて見た地球の人々を圧倒した。



大型ミサイル



ビーム キャノン

コブヒト

ディアナ・カウンター

MRC-U11D ウッド

正体にはミサイルではなく、ワーキング・ダンプリング (Working Dumping) と呼ばれる増援のマシン。ボウのウォドムに同行してマガンダムと戦ったが、軍用にはでなく民生用としても使われ、ムーンレイスのゼノア軍はマウンテン・サイクルの発掘作業に利用していた。



ジョイント・バスター

第4話でマガンダムの機体破壊に使用した十字のような形状の武器。ブラスヤを放出して機体の動きを封じる

第6話

「忘れられた過去」

女王ディアナを迎えたグエンが月の裏面たちを城に送る途中、ミハエルの部隊が襲撃作戦を敢行。ロランのYとハリーのMSモーターが出動し、互いを無敵にしながらこれを救出する。だが、月と地球の交渉は難航し、旧約に従ってサンベルト地帯への移民を主張する月側に対し、地球側はそれを認めようとしなかった。その頃、ピンチティを襲撃中のフィルとボウは、発掘現場を守ろうとするソシエたちのカプルと交戦。ロランは炭坑下の近距離で発見したハンマーでMSウォドムを撃破する。

第7話

「貴婦人修行」

マウンテン・サイクルで機械人形の発掘を続けるミリシャを模範しつつ、月側はディアナの提案で互いの間接を深めるパーティーを主催する。ロランもYのパイロットとして参加するが、素性を察すため、グエンの指示で女装することになり、キエルの指導で女性パイロットのローラとして、人々の前に姿を現す。一方、パン屋に勤めていたキースにパーティー用の特大ケーキが発注される。が、ムーンレイスの反ディアナ派がそれに潜み、会場でディアナ暗殺を決行しようとする。

第8話

「ローラの牛」

ムーンレイスの民間人居留地で、ロランは軍に窮状を訴える増援民のクーエンと出会う。増援民は、就職状態のため食糧難に苦悩していたのだ。ロランは彼らを救うため、食料集めに奔走。だが、途中、家畜を乗せたトラックを発見したボウは、ミリシャの秘密行動と勘違いし、これを監視してくる。ハリーの阻止でロランたちは家畜をクーエンのもとに送り届けることができるが、そこで地域の人々から悪評を浴びる。人類同志で憎しみあう愚に、ロランは自分はムーンレイスだと叫ぶ。

第9話

「コレン、ガンダムと叫ぶ」

ロランの正体をムーンレイスだと知ったソシエは、その怒りをグエンたちにぶつける。一方、月の反ディアナ派によって、軍用機密に裏切カプセルで隠されていたコレン・ナンダーが地球に送り込まれてきた。戸惑うディアナ・カウンターの兵士たちを前に、コレンは部下のヤコブ、ブルーノと共に、停戦協定を拒絶してミリシャのMS部隊を襲撃する。彼の強いY。MSイグールでロランのYと相対したコレンは、それを見てガンダムと叫ぶのだった。

ディアナ・カウンター

JMA-0530 (Model U) ウォドム

ディアナ・カウンターのボック・エイジたちが乗る大型MS。ミリシヤからは「かわし」などと呼ばれているが、大口砲・ビームキャノンやミサイルランチャーを搭載した超機動兵器ブロックなど、宇宙空間での戦闘戦を想定した重武装が特長であるその機動的な機動力はミサイルを初めて飛ぶ乗組員の人々を圧倒した。



大型ミサイル



ビームキャノン

コクピット

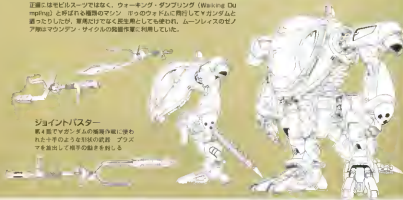
ディアナ・カウンター

MRC-U11D ウッド

正体はモビルスーツではなく、ウォーキング・ダンプリング (Walking Dumping) と呼ばれる機種のマシン。ボックのウォドムに同行してマガンダムと戦ったが、軍用には適さないとして使われ、ムーンレイスのゼノア軍はマウンテン・サイクルの発展作戦に利用していた。

頭部対空バールガン

頭部兵装ブロックハッチ



ジョイントバスター

第4巻でマガンダムの機内作戦に使用された十字のような形状の武器。プラズマを放出して相手の動きを封じる。

第6話

「忘れられた過去」

女王ディアナを迎えたグエンが月の軍人たちを城に送る途中、ミハエルの部隊が襲撃作戦を断行。ロランのVとハリーのMSモーターが動出し、互いを警戒しながらもこれを救出する。だが、月と地球の交渉は難航し、旧約に従ってサンベルト地帯への移住を主張する月軍に対し、地球軍はそれを認めようとしなかった。その頃、ビシニティを偵察中のフィルとボックは、突如襲撃を受けるようにソシエタたちのカプルと交戦。ロランは制度下の武器廠で発見したハンマーでMSウォドムを改造する。

第7話

「貴婦人修行」

マウンテン・サイクルで機械人形の発展を助けるミリシヤを警戒しつつ、月側はディアナの提議で互いの戦線を深めるパーティを主催する。ロランもVのパイロットとして参加するが、素性を隠すため、グエンの指示で女装することになり、キエルの指導で女性パイロットのローラとして、人々の前に姿を現す。一方、パン軍に動いていたキースにパーティ用の特大ケーキが発注される。が、ムーンレイスの底ディアナ派がそれに潜み、会場でディアナ暗殺を決行しようとする。

第8話

「ローラの牛」

ムーンレイスの民間人居留地で、ロランは農に轉戦を断る軍用機のクレーンと出会う。軍用機は、輸送機のため食糧庫にあいっていたのだ。ロランは食糧を救うため、食糧庫に奔走。だが、途中、家畜を襲ったトラックを発見したボックは、ミリシヤの補給行動と勘違いし、これを襲撃してくる。ハリーの制止でロランたちは家畜をクレーンのもとに送り届けることができるが、そこで地球人たちが騒音を浴びる。人間同志で憎しみあふれる、ロランは自分がムーンレイスだと叫ぶ。

第9話

「コレン、ガンダムと叫ぶ」

ロランの正体をムーンレイスだと知ったソシエは、その怒りをグエンたちにぶつける。一方、月の底ディアナ派によって、軍用機所に突如カプルで襲撃されていたコレン・ナンダーが地球に送り込まれてきた。戸惑うディアナ・カウンターの兵士たちを前に、コレンは部下のヤコブ、ブルーノと共に、停戦協定を無視してミリシヤのMS部隊を襲撃する。彼の狙いはV。MSイグールでロランの乗るVと相対したコレンは、それを見てガンダムと叫ぶのだった。

アジ大佐

ムーンレイスの第一次襲撃作戦を指揮した司令官。2年前からクエンと手紙交換を続けていた新機動隊が、第4師で地殻崩壊の戦いに巻き込まれる。

ミラン・レックス

ムーンレイスの機密官で、ディアナの側近。当初は女王に忠実だったが、地球への使命感が勝るのを覚悟して軍部（フイル）に近づく。

ディアナ・カウンター制服

パン屋

潜入時

キース・レジェ

ロランと共に地球に潜入した少年で、元ムーンレイスの地上部隊に所属。特殊時代の戦術の達人。ベルレーヌと愛し合い、結婚した。



フラン・ドール

ロラン キースと同じく、元ムーンレイスの地上部隊所属。同僚を率えて「ノックス・クロニクル」の襲撃部隊となり、地殻崩壊に挑む。

機密隊 指揮官 リーダー 一般兵

記者スタイル

印刷工後

第10話 「暮れり」

クエンの秘密として働いていたキエルは、ディアナと面会した折、彼女から少しの隙だけ入れ替わってみたいかという提案を受ける。はじめて黒心からはじまった遊びだったが、互二つの彼女からの入れ替わりに人々が気が付かないまま、一行はキエルの手に立ち寄る。そこでキエルは病気の母と父の死に直面し、ディアナは月面の襲撃作戦によって地殻崩壊に多数の犠牲者が出たことを知り知らされる。ディアナはキエルを演じたまま、キエルの父の墓に哀悼の意を示す。

第11話 「ノックス崩壊」

キエルのままビシニティにとどまったディアナは、地球の自然に融れ、喜びを新たにする。が、ディアナを演じるキエルには、ミハエル大佐率いるミリシャの襲撃ソレイユへの攻撃が迫る。一方、ディアナ・カウンターの強硬派であるフィル大尉は、コレンの襲撃に重宝を懸けて、ミリシャの先制攻撃を口実に、マウンテン・サイクルへの襲撃を開始する。コレンはVをおびを寄せるためにノックスの船を破壊していく。その頃、ロランはマウンテン・サイクルの地下道へ逃げ込んでいた。

第12話 「地下回廊」

マウンテン・サイクルの地下回廊に逃げ込んだロランは、同行するキエルの以前と違う立ち振る舞いに戸惑う。その頃、破壊された首都ノックスではクエンが露土を放置し、再総を断るべくルジャーナ領土の黒いリ・ボルジャーノンに接近。ミリシャはミハエル大佐を中心に独自に戦況を監視することになる。ロランはやがて、コレンたちと発見され、MSイーグルに立ち向かわざるを得なくなる。イーグルの侵襲で絶体絶命の危機に陥ったロランを、ディアナの勇敢な行動が救う。

第13話 「年上の人」

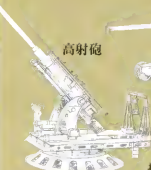
キングスリーの谷に出たロランたちは、歴史の遺物の発掘を続ける青年ウィルと、デウスという女性に出会う。ウィルは月の女性と恋を誓った先祖の物語を留めるため、宇宙船の発掘を続けているのだという。ロランは彼の手伝いを言っ出てくるが、ディアナは過去の記憶に震える。彼はディアナこそ、ウィルの祖父と100年前に恋をしていた女性その人だったからだ。冷凍睡眠により、100年おきに目覚めるという生を繰り返すディアナは、幾度も地球に降りていたのだ。

●ゲスト設定・メカニク①



大型飛行船

第1回や18回に登場した。ダレン海軍の飛行船。背面に太陽電池を装備しており、背面にはライオンフォード家の紋章つき



高射砲



移動式高射砲

初ムーンレイズ登場であるモリンの兵器で、固定式

投光器

夜間戦闘用の大型ライト。この世界ではまだレーダーが発明されていないため、探査や投光器が頼りだ



聴音機

遠くにいる物の動きを音（電磁的）に検知したもので、によって検知する。新機種の一種で、ターターで動く



発電車

電力源や駆動源などのモーター用車として、現場に運ばれて電力を供給する特殊車両。固定できないのが弱点である

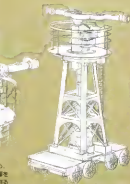


測距機

高射砲の照準を修正するため、大型のレンズでとらえた映像を合わせ、目標までの距離を測る

装甲車

上層に3連装砲架の回転砲架をそえた装甲車。駆動車として使われる。出動先では陣地の視界を閉ざることが多いようだ



ヒップヘビー

プラムが注目した特殊な兵器。エンジンとプロペラが後部にあるエンジン型



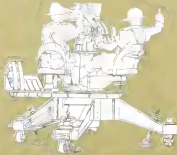
ブルワン

ソニアやロランの飛行訓練に使われた、一連手の小型戦闘機。両翼に銃砲、上部にバウミラーが取り付けられている



対空機銃

ミリシヤは市民軍として、主に都市部の防衛にあたる。そのため、防衛は市街戦を想定したものが中心で、対空機銃もそのひとつである



対空機銃は射撃手（右）と、マガジンを供給する助手（左）の二人一機で動く。半固定式だが、足下のペダルで銃身の向きを変えられる

ディアナ・カウンター

MRC-F20 スモーク

戦術的な機体で、ハリーの乗る機体は多い。一戦目は黄色にカラーリングされている。マガンダムに抵抗する高機動機で、特に回避戦で威力を発揮。第6話では、ブースター・スカートを装備して飛行した。

頭部

足パーツ

コクピット

モリヤ

AMX-109 カプル

第3話で、イングリッサ・モリヤが初めて登場したモビルスーツ。ソレイユとメジェーが戦ったコクピットバッチが特徴にある。珍しい機体だ。

駆込時

ムーンレイス

MR-Spi050 "JET STREAM" モビル・リブ

ムーンレイスの機体で、ごく一般的に使われている中核マシン。ウツダと同じく、機体はモビルスーツとは異なる。主に建設作業で、コクピットはゴンドラ状の機体にある。第8話では、ムーンレイス機体の改造機でフェンスづくりに使われていた。

第14話

「別離、再び」

宇宙船の発着を続けていたロランとシドは、それが起動することを確認する。ウィルは宇宙へ行くならディアナ・カウンターに合流すべきだというテラスにそのめがされて、ディアナの阻止を振り切り、ソレイユへと向かう。一方、ミリシャにはゲンが身を寄せたジャーナからスエサイド部隊が合流する。ルジャーでもMSボルジャー・ノンの発動に成功しているのである。偵察中のハリーと暴走したスエサイド部隊は交戦に入り、その混乱のなか、ウィルはハリーと共に去っていく。

第15話

「怒い出は湧えて」

那珂中のキースとベルレーヌは、リリの別荘へ向かうゲンに出会う。体調を崩しているゲンにキースは辛うじて言葉を投げかけるが、ゲンはムーンレイスの技術者を頼み、再起を誓うのだと告げる。一方、ソレイユに漂い続けたウィルは、キエルが誘うディアナに旅費を許され、月への同行を約束される。ボットを谷に案内し、宇宙船を見せたウィルだったが、スエサイド部隊との戦況が伝わり、MSキャン・イルファートをもとめ戦場に向っていく。ディアナは彼の死に呆然とする。

第17話

「建国のダストブロー」

ボルジャーノ公の別荘に到着するゲンに、ディアナの名で機体古典の招待状が届く。要合されたディアナは、サンペルトー等を月の境地にするという内容に、キエルの変換も懸念にきているのではないかと察する。一方、月の技術者を集めたキースのトラックは、嵐をついて彼らをキングスレーの谷まで送り届ける。ディアナはゲンと共に機体の真偽を確認するためにソレイユ駐屯地まで向かうが、同じ頃、テラスが旧型のブルーノとヤコブに接近。女王機に動いていた。

第18話

「キエルとディアナ」

葬地に立たされているらしいキエルを救うため、ディアナは入れ替わりの事実をロランに告げる。ロランは一緒にいながら見送らなかったことにショックを受ける。その頃、キエルは建国機で自分は何をすべきか悩んでいた。式典当日、ディアナはローラとして女装したロランを伴ってソレイユに参入。が、ハリーに阻止され、キエルに会うことはかなわない。式典はミリシャとスエサイド部隊の発着で終幕野郎になるが、キエルは地上で交渉の再開と、議院宣言の理由を述べる。

◎メインキャラクター◎



シド・ムンザ

国を率える山師で、歴史家の研究家。グエンの援助を受けてマウンテン・サイクルの調査に乗り出し、宇宙船などの新兵器の調査を実施。自らもロランたちと共に宇宙に上がった。



ベルレーヌ

ロの（イン）産さん「ドンキー」のひとり娘。父に代わり、モースと共に工務を切り盛りするうち、恋仲に。



ミハエル・ゲルン

イングレッサ方面のミリシャ指揮官（大佐）。グエンに接する立場から、密着して戦術を窺い取る。悪くも悪くも真面目な人。

クーエン一家

第7回に登場したムーンレイスの家族。黒のレーナがお乳が出なくなって困っていたところを、ロランたちに助けられる。お乳の出ロランを驚かす。



コレン・ナンドー

元軍医無用の囚人だったディアナ・カウターの奥付。好意的でバグ野み、イーグルに乗る。



ヤーニ

ミハエルと行動を共にするミリシャの軍医。第10回の結核試験では、ハーテンに家裏して相手を選んだ。



ヤコップ

コレンの部下で、ゴッソーに乗る二人組。のちにロランたちの一行に加わり、ブリッパ軍に、いねる凸凸コンビだが、裏外と戦りになる。



ブルーノ

ゼノア大尉

マウンテン・サイクルの調査員。調査を進行するムーンレイスのサポート。ロスト・マウンテンで戦具の残骸をサイルを襲って出た。



アナン少尉

ディアナ・カウターの副官。調査員。仕事、感情に迷って、いて、最終的に約縁は有罪な女性士官だ。



リリ・ボルジャーノ

ルジャーノの娘。ボムジャーノの家族。グエンとは知人しきで、ディアナと知り合いつつ、のちに外交手帳を渡してロランたちに協力する。かきりわがま。



ウィル・ゲイム

かつてディアナが抱いた、新代ウィルの子孫。テデスの仲間により、キャン・イルフートに乗ってディアナ・カウンターに迎われるが、従来のディアナよりも夢を求めて前進し、スエイト部隊の首長となって戦死した。



初代ウィルとディアナ

マリガン中佐

ルジャー族のミリシャ族長。シリには忠実だが、その側に対しては高圧的で自分勝手な人物。

テデス・ハレ

地球人とムーンレイスのハーフで、地味人から迫害を受けたため、名義市民になって見返そうとディアナ艦長の刺客を引き寄せる。

エイムズ

ジャンの部下で、ボルジャーノンのパイロット。母族の部を応援していた。



ジョン

ルジャー・ミリシャのM4部隊、スエイト部隊所属。キャンバンの部下で、エイムズと共にボルジャーノンで戦う。

ギャバン・グーニー

スエイト部隊の隊長。優れた軍人として、ソリエにプロポーズしたが、27話で暴君政のため死亡。

ホレス

艦隊に亡くなったムーンレイスのアノニエ軍師の弟。マガンダムなどの機體も担当し、ロランたちの戦いをサポートした。

第19話 「ソリエの戦争」

ウィルの発見した宇宙船はウィルゲムと名付けられ、ムーンレイスの亡命技術者ホレスによって整備を要する。一方、メシェーの父ラダラムが運んで来たホルパー一行隊は、ディアナからギャロップと命名され、ロランは艦長に任命される。が、ロランの艦長に不満を持つソリエは、ボウのMSウォードの急襲にカプルで半身、戦いを防ぐ。ソリエが戦争にめり込むのは、父ディランの外を待ちたいからだった。最後はロランに殺れるが、戦死者が出たことで戦争の恐ろしさを感じ取る。

第20話 「アニス・パワー」

移動中のロランは丘の家の一軒家を見つめ、避難を勧めるためにYで立ち寄る。そこに住んでいるのはアニスという老婆で、土地を耕えることを頑なに拒む。アニスはキースの許婚であるベルレーヌの祖母だった。ロランは泥棒に入ろうとして失敗したブルーノとヤコップと共に、彼女の農場を手伝う。一方、ディアナはアニスから畑や土のことを教わり、ソリエという名のハープがあることを知る。だが、突如現れたレット隊の登場で平和な丘も戦場に変わり、アニスは避難を決定する。

第21話 「ディアナ宮殿」

ロランたちは野戦病院に立ち寄り、ソリエは負傷したメシェーと再会する。そんな中、ディアナの存在を隠さず思うリリが、意地悪から病院の手伝いをしたらいいと意見する。初めて聞く経験にディアナは心から喜び、一方で戦争で傷つき死んでいく生命の人間の姿を思い知るようになる。女王の厳く密にショックを受けたロランは、Yを出して仕事を手伝える。Yが決意した顔に出たシャボン玉をうつつりするディアナを、自分を責めることではないとロランはなだめようとする。

第22話 「ハリーの災難」

ムーンレイスの技術者の亡命が続き、事態を重く見たミランはフィルにウィルゲム政変を許可する。行政官として臨んだ末、家都に近づかざるを得ないと判断したのだ。その報告を受けたキエルは、ハリーにディアナ救出を依頼する。家都を脱いだハリーは技術者に変装し、単身ミリシャのウィルゲム陣地へと潜入。ディアナにソリエへ帰るよう訓導するが、拒否されてしまう。そんな中、ボウ率いる小隊が発見現場を急襲。ハリーの正体を知ったロランは、共同でボウらの攻撃を防ぐ。

③ゲスト設定・メカニック③

ディアナ・カウナー

TAF-M9 イーゲル

ディアナ・カウナーの可変型MS。前進進行モードに变形可能で、ウツッドと似しく翼状のスパイク・ブレードが特徴。これは武器状の武器としても使える。機体側のシールドマシンを改造したミンタドリルは、コレン戦のみ。



ディアナ・カウナー

NRS-P701 ゴッゾー

ブルーノとヤコブが乗るMS。レールガンと数箇所のミサイルが特徴。二人がミサイルに搭乗する際に改造され、ゴウインとなった。

ミサイル

アルマイヤー

ディアナ・カウナーの宇宙艦艇。MSの搭載であり、ヒームカッターで星の星域に特攻をかける強攻突入型だ。

コクピット

パルスキャノン

パルスキャノン(2台)



ソレイユ

ディアナ・カウナーの旗艦。特攻戦地には大空母型だ。星域を以てちつ天翔る月の王宮であり、戦うたびに、ディアナはこれに乗って第三次宇宙戦争と共に地球に墜下した。マゴカメという小戦艦を擁護している。

●ゲスト設定・キャラクター①

アニスはあさん

彼女が近づくなか、たぐひとカリフォルニアの村に現れて自分の魂を奪っていたバプテルは悪魔人。ロランやディアナに自害と生きることの大切さを教えた。ベルレーヌの道程にあたる。

ドンキー

アニスが抱えているロバ。こき使われていたブルーノとヤコブの見張りをするなど、顔のいいところを見せた、善悪は確かな愛寵。

看護婦長

メシューが召喚されたミリスカの野郎病院の婦長。機能的な人手不足に負けず、貴族者の病室に全力を尽くしていた。

セシリィ

野郎病院で働く看護婦。病室から帰られ、看護婦長といとなったディナの夜間をみてくれた。

キャンサー・カフカ

レット陣のリーダーで、異星系超女性。ディアナ・カウンターのなかでもふいた存在だが、フラットを襲って女生のために戦いぬいた。

ムロン・ムロン

キャンサーの率いる独立部隊。レット陣のナンバー2で彼女のパートナー。かつて地球に降下したムーンレイスの子孫でもあり、独自の閉鎖的な文化を継承している。ディアナへの忠誠心に満ち溢れている。

子供たち

彼らに会うカモートの村の子供たち。左からジョージ、カキト、トニーニョという名前。カキトはエストロリータの姉。コレンと一緒に生きている。

ミドガルド

キースの（イン工場）の工場長。実はムーンレイスの工作員で、テラスを襲撃してディアナたちを監視し、妨害工作をしていた黒幕者。

ルル

フランに助けられ、キースのもとに預けられた被災児童。体弱は太っているのではなく臆病で、顔はあかざれている。

エストロリータ

ディナとコレンが立ち寄った、カモートの村の主婦。ディナたちを慈母般的に慰めようと思っただけでなくして。このとき、ディナは暗黒の輝かさを覚悟する。

女性親衛隊コスタニューム

ディナ・カウンターの女性兵士の施設。基本は男性用と同じで、動きやすいフーズとベレー帽が特徴。後述は重要。ディナの身辺監視にあたっているが、王女の挙動行動には手を煩いようである。



コレン

記憶を失い、ディアナの連れとなった最後のコレン。人が変わったように温やかで、一瞬、ガンダムへの憧憬が甦ったものの、その憧憬も消えて再び死に臨む。

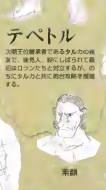
タルカ

マニユービチに仕えるアデスカの民の首領。クワウトルとの対立と和解を経てロランたちを助け、新王となる。



テペトル

次期王位継承者であるタルカの親友で、後見人。殺しにさらされて最初はロランたちと対立するが、のちにタルカと共に戦う決意を固める。



素顔



ヨロル

マヤリトと共にクワウトルに仕えていたが、ホワイトドールを育て悲愴に奮起。タルカの隣につく。外見に反し、気の強い男である。



シーア&ソン

第16話で戦場版として登場し、のちにウィルグムのクルーとなったムーンレイスの母系親たち。名前はシーア・ダマノスキー(左)・ソム・ドーム(右)。



マヤリト

クワウトルに仕えるアデスカの少女。強い信念をもつ弓の名手で、王と共に戦う覚悟を決意してディアナ・カウンターが結ぶ悪計を暴露した。



第27話

「夜中の夜明け」

ハリーの運でディアナはソレイユにたどりつき、キエルと再会を喜びあう。一方、ロストマウンテンを調査中のゼノア隊は、地下で核爆弾を発見する。だが運悪くスエイド隊に発見され、核の漏るしさを隠しきれない状況によってそれは持ち去られてしまう。スエイド隊とレット隊の戦いで戦線がはじまり、ゼノアとロランは必死に奮闘を呼びかける。ソシエは核と戦うギャパンを煽き去りのまま、なぜ撤退するのか理解できない。その頃、核爆発の閃光がひらめき、ギャパンは絶死する。

第28話

「託されたもの」

反乱の機会をうかがっていたフィル少佐は、ゼノア大尉が運搬機運送を手に入れるためボウ中尉を差し向ける。だがゼノアは核の封印を決断し、その地味をロランに託していた。そのころソレイユではフィルから銃口を突きつけられたディアナが危機に瀕していた。ムーンレイスが地味人脈を支配する二重陰謀を作るのだというフィルは、ディアナに政権の委譲を迫る。キエルをディアンナとして連れ出したハリーの懸念で事故は免れたが、ゼノアはディアナ・カウンターの攻撃で絶命する。

第29話

「ソレイユのふたり」

アメリア大陸大統領の野心を持つに至ったグエンは、月のアグリッパーと交渉するためウィルグムで字組を目指す。ロランは宇宙なら核爆弾を捨てられる、と思いつく。一方、ディアナを助けたキエルは、戦況をかき取りないグエンを押しとどめるため、ハリーを伴ってウィルグムに赴く。だが、フィル少佐が女王の暗殺を約束されたボウ中尉の攻撃で、キエルは危機に陥る。望一撃、ロランの働きでキエルは助かり、ウィルグムのメガ粒子炉が敵のMSムトゥーを粉砕する。

第30話

「胸に抱えて」

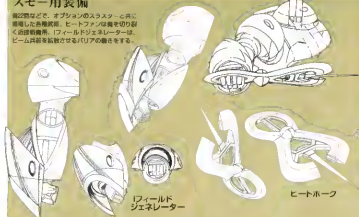
ロランの見守るなか、ソシエはギャパンから贈られた花嫁衣装を身にまとい、戦死した婚約者に別れを告げる。ウィルグムはルジャー海軍の協力を得て海軍を退けるが、その隙を狙ってレット隊が攻撃をかけた。キエルは彼らがディアンナに命懸けしていることを利用し、彼女の命を盾に威嚇を収める。ミリシタはザックトレーラーのあるマニユービチを目指す。一方、ミランの懸けついでにミッドガルに拉致されたディアナもまたザックトレーラーを目指していた。

仮面姿

●ゲスト設定・メカニック③

スモー用装備

機体前などで、オプションのスラスターと共に使用した各種武装。ヒートファンは機体切り刻く近接戦闘用。1フィールドジェネレーターは、ビーム兵器を拡張させるバリアの働きをする。



フィールドジェネレーター

ヒートファン

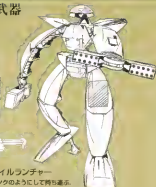
フラット用武器

レノト製のフラットが使うライフルは、ミサイルランチャーと同じ折り畳み式で、携帯しやすくしている。

ライフル

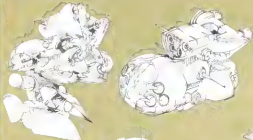
ミサイルランチャー

トングのようにして持ち運ぶ。便利な折り畳み式。装弾数が少ないため、さっさと使い切ってしまう。



強化型ウオドム

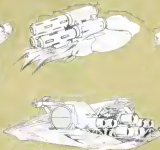
ビームキャノンのジェネレーターを2つに増ね、出力アップを図ったボウの改造機。スモーのバリアを破るほどの威力があるが、安定性に欠け、いかににも魚雷しのぞの機は否めない。



見張り台

カブルのハンドキャノン

オプションの装置で、第22話のように、状況によっては両手に装備して使うこともある。対ガルジヤノン戦で威力を発揮した。

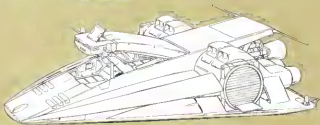


極強弾

第22話で、ロス・マウンテンから襲い出された最悪の戦争軍艦の米・ギャパンを巻き込んで発射する。

ウィルゲム

ウィル・ゲイムが発見しようとしていた宇宙船が、ミリシヤの手でようやく発掘にこぎつけたもので、以後はロランたちの移動ベースとなる。MSも収納でき、全船のメガ粒子炉や通信機（近距離シスラム）などの装置を具備。大規模でも行動可能なリフティング・ホダの機体が特徴である。



ギャロップ

ウィルゲムと同様、キングスレーの故から発掘されたホバー走行の機体。MSの運用と整備作業が可能で、マガンダムの機体必須のとなった。もともと、機体は壊れており、英語や通信装置などの装備は実装である。直後はロラン、ブリッジ乗員としてブルーノとヤコブも乗っている。かつてランバ・ラル機が使用したものよりも、ひとまわり小室。



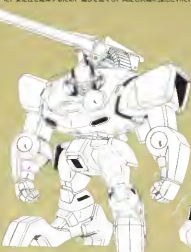
サイドブリッジ



ミリンア

P701R ゴドウィン

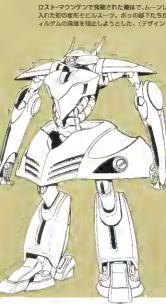
ヤコフたちが乗り回したゴッソーを、ミリンアが改造し改造を加えた機体。主脚のシールドガンが対空・対地両方に変わったほか、両手はボルジャーゾンの腕を交換するなど、あちこちから見たら驚かす改造が使われている。また、安定性を確保するため、重心を低くし、両足は大規模に強化された。



ムーンレリス

MRC-F31 (J-2126) ムットウ

ロスト・マウンテンで発展させた機体で、ムーンレリスが手に入れた初の完全モビルスーツ。ボウの部下たちが使用し、ウィルグムの発展を阻止しようとした。(デザイン: 小倉正典)



足のクロー



ヒートホーク



顔面



指



足



MA形態



第31話

「遠征! 泣き虫ボウ」

ディアナを追放したフィルは、サンベルト共和国の諸国を襲撃。女王を地球人に誘ったことでハリーを激怒させ、ボウにミリスシャを襲撃させた。女王の命を救ったボウは発砲のものとせず、アルマイヤーでウィルグムを追い始める。だが、ミリスシャに合流したロランのVの前に敗北してしまう。一方、ハリーはディアナを探すためにソレイユを襲撃。そのころディアナはかつて地球に連れて来たムーンレリスの子孫であるレット隊のキャンサー、ムロンと共に月へ帰るシャトル、ジャングルムの中にいた。

第32話

「神話の王」

ミリスシャはマニュービチに到着する。だが、すでにそこはディアナ・カウンターが遊駐し、ミリスシャの行く手を阻む。ロランたちはアデスカのクワウトル王と従者の少女マヤリトの案内で潜入するが、王に対して反乱を起した民に捕らえられてしまう。王の後継者たる青年タルカが隠匿を続けたのだ。その際、ロランはVがこの地では強いを呼ぶ白い龍と恐れられていることを知る。アデスカの民が守る「アデスカの城」たるザックトレーガーを奪いに来るとの伝承が残っていたのだ。

第33話

「マニュービチ攻略」

月を目指すロランたちがミリスシャ、クワウトル王と共にディアナ・カウンターが設置した砲台の破壊を試みる。途中、タルカの助言を受けるが、マヤリトの誤解でタルカは王への誤解をなく。作戦の期限である夜明けが近づくと近づく。グエンは最終手段としてメガ粒子砲の使用を命じる。同一線、ロランたちの機で砲台は破壊され、マニュービチはミリスシャに奪取される。だが、この戦いでクワウトル王とマヤリトは殉死。マヤリトと同じ部族であるジョゼは彼女を救えなかったと悔む。

第34話

「飛べ! 成層圏」

新しく王タルカの協力で、ロランたちはマニュービチの運送に際するマストライバーの使用を許される。シドラ技術者の操縦でマストライバーは暴れ、ミリスシャ一行は月への軌道に落ち立つ。だがそこへボウが追撃をかけてきた。MSシルバースモークとムットウの妨害を、ロランは核弾頭を胸にしまいこんだままのVで撃退。追加にあらわれたハリーをも乗せ、ウィルグムはマストライバーから宇宙空間へ飛び立つ。そのころディアナはジャングルムで一足早く宇宙に上がっていた。

●ゲスト設定・キャラクター②

ロランのパイロットスーツ

本誌より、宇宙に上がったロランが着用するパイロット用の宇宙服。元々マガンダムのコクピットに搭載されていたもので、ミリシャなどのスーツと比べて格段に動きやすい。



ヘルメット

一般用宇宙服

主にムーンベースが使う、やや旧式のタイプ。ヘルメットに特殊式の酸素カバー（カメラアイ内蔵）がついている。宇宙空間では、向中に設置したパーソナルムーバーで移動する。



パーソナルムーバー

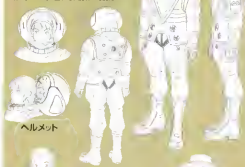
ディアナ カウンターのパイロットスーツ

飛行時の運用が多いミリシャと異なり、生命維持装置を備えた、宇宙探索用の新製型である。

マクロン専用パイロットスーツ
スモ・ソリダが穿けるM
S階層の専用スーツ
特殊な柔軟システムを
らつマクロンに合わせて
設計されている。

ミリシャ宇宙服

ウィルガムの内部に組み込まれているもので、グエンら上級者やハエルのような軍人が着用する。ヘルメットは社と別個、後ろに隠ね上げたり収納が可能だ。



ヘルメット

セント

ハメットたちと同じく、ロランの幼なじみ。ロランとディアナが月の面影ガンダムに入るのを助けたり、宇宙船ホーエルの補修を手伝ったりした。のちに3人でホーエルに乗るこむ。



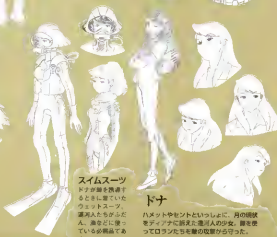
ハメット

月面市フィンにはら
事河人。ロランの
幼なじみ。星のドナ
やセントと共に、ロ
ランたちを助ける。



スィムスーツ

ドナが海を渡るときに着ていたウェットスーツ。潜水人ともなる人。海などに使っている必需品である。



ドナ

ハメットやセントといっしょに、月の環境をディアナに訴えた海河人の少女。海を使ってロランたちを助ける役割から守った。

ギム・ギンガナム

ディアナと対立するムーンレイスの武人。黒歴史を再現するかのよう、マカダム兄弟とターンXで闘う。



アグリッパー・メンテナー

女王不在の間で政務を担当していた、冬の真冬の管理者。権威はながらギンガナムと手を組み、ディアナと対峙する。



メリーベル・
ガジット

常にギンガナムの意志を体現して戦う、好戦的な少女。MSパイロットとしても天才級で、バンデットやマガンダムを撃破した。メイクも高難易も華麗性的である。



スエッソン・ステロ

ギンガナム配下のMS
マヒロー部隊隊長。大
食いの巨漢で、常にも
のを食べながら戦う。
かなり底力がある。



ギンガナム貝

ギンガナム軍に所属する一戦士たちの戦闘スタイル。敵をなげ飛ばす。その野蠻な振りがデザインに反映されているのがわかる。

白の高野の兵士

アクリノバの言葉を聞いていた衛士たち。彼等なりの判断を働かしている。

作委同庚子申嗣

ムーブレイスの作製員の
兼用するスーツで、比較的
簡潔に作られている。

少年兵

ボクは、カウンターに立って、
「お久しぶりです。元気ですか？」と
声をかけると、彼は少し驚いたように見えた。

第35話
「ザックトレイガー」

ウィルゲムは成金層近くにあるザクトレー
 ガーの邸宅に逗留するが、すぐ上の階には
 ディアナの乗るジャンダルムがいた。ミドガ
 ルドはミリシャをこそこそと奪ってしまおうと、
 ドッキングアームにウィルゲムを隠したまま
 MBウェドムを隠し掛ける。ハリーはキエル
 をディナと似たようなコントロールルームと交
 渉。攻撃もやむを得ず、と思われた瞬間、
 キエルとディナは呼応したように、ザクト
 レーの兵士たちと呼ばけ、ウィルゲム
 の安全を確保する。

第36話
「ミリシャ宇宙決戦」

初めて宇宙にソシエとキルは意気に帰ってはいや。しかし、ミハイル、ヤエーラ大人才は導力力体能になじむ。船内には次第に不満がくさる。彼らはキルを人質に地球へ船を乗せとブッジに立てこもるが、地球の空襲機にあてられも惨敗。次に奪ったMSボルジャーノとカブルで無敵にも地球への帰還を企てる。ロランは船を連れ戻しにやってくるが、遂に地球を仕掛けられ、うかつに手を出せば強いに苦痛する。やがて、帰来不足でミハイルたちは射出をあきらめる。

第37話
「月世界の門」

ディアナとジャンダルムに間髪していたキャンサーとムロンは、母がツルネ家の女に嫁いで不満を持つギンガムに引き継がれようとしていることを知り、密かに救出を敢行。ディアナの導きでツルネ家が月の食料生産のために進った衛星ミスルムに逃げ込む。ギンガムはディアナを奪回するためMSMビローマンを発進させるが、その帰路遭難を傍見したミスリヤもYとカプルも出る。ハリーはディアナの安全を確保するため、キエルを再び女王ツルネに託す。ギンガムとの交渉を再開。

第38話
「闘神ギンガナム」

ロランとソシエはディアナたちと合流。ウィルゲムもミスルトンに到着する。しかしマビロワンの攻撃でミスルトンの施設は壊滅させられる。一方、ギンガナムの会見に向かうMSゴールドスモークのコックピット内では、キエルがハリーに要を告げ、彼からの答えを求めていた。だがハリーは離れ、女王ディアナの従属たる姿勢をくすねない。ギンガナムの旗艦アスピーテに到着したキエルは、ディアナの真夜白りとして、ギンガナムの旗幟を非難。ディアナは黙然とまをせる。

●ゲスト設定・メカニク④

ジャンダラム

ガンダムがディアナ撤退のため、地球に送り込んだ巨大新兵器。羽を伸ばしとも呼ばれ、知能から伸びる分離可能なフィールド・ブースターは、大気圏内では宙海のバランス制御、発進時の推進などに使われる。ほかに艦火撃や脱出用シャトルなどを搭載

ガンガナム

G838

マヒロー

スエッソン・ステロの指揮が
要。ガンガナムの主力
MS。パイロットの意
識をトランスする、
水圧制御を利用
した駆動システ
ムをもつ第一
の隠れ兵器であ
る。

アスピーテ

月の軌道に接近すると、ガンガナム乗艦船が機体となるが、MS40のタ
ツキや強い推進力タビルトを備えた巨大な戦闘兵器で、ディアナのソレイユを
上回るスカルと戦闘を行っている。

脱出シャトル

コクピット

コクピットハッチ

アームパーツ

レックハーツ
マヒローの足元部分のデ
ィタル アームパーツ
はそのまま交換になる。

運河清掃用 潜水艦

月のフォン・シティアをめる運河を清掃するための作
艦船で、を壁の可変式ブラシや船体を回転させて壁面
と密着させる。コクピットは船体の上下にある。

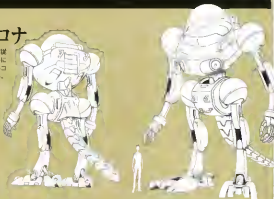
コクピット

MRC-C03 ベロナ

月面のマウンテン・サイクルで開発作業に従事していた、一人暮らしのマシン。ワッドに比べて小型ながら、強い機材を多く搭載するコンテナ・ラックを備え、置きも機体である。



住居コンテナ



ギンガナム軍

G-MIF (XM-0754) バンデット

メリーベルが作る高機動MS。ターンXと連携、月のマウンテン・サイクルから発進された機体で、対MS戦時の武器を多数装備している。ただし、メリーベル機以外は自動操縦の無人機。パイロットは立った姿で乗座する仕組み。(デザイン・シド・ミート)



ビーム・サーベル



ミサイルポット



ツメワイヤー



コクピット



第39話

「小惑星爆動」

マヒロー隊との戦いで破壊されたミスルトウの残骸が月のフォンシディを直撃することがわかった。フォンシディが故郷のキャンサーとムロンは驚愕する。キエルはギンガナムに事態の収拾を命じ、ギンガナムはキエルの素性を怪しみながらもターンXの調子「ターン・トップ」を持ち出して出陣する。一方、ロランは核弾頭を使うのはこの時しかないことを決断。ミスルトウに核弾頭を直ち込み、これを粉砕する。しかし、マヒロー隊との戦闘で爆弾に回っていたキャンサーとムロンが逃げ遅れる。

第40話

「月面の海戦」

ロランはディアナとソシエを連れて故郷である月の運河に渡る。幼なじみのドナやハメットと再会したロランは、冒険者である彼らの助けを借り、マ・ケツリに招き入れて昔者ギンガナムに潜入する作戦を立てる。しかし、運河を渡る途中、スズロ大尉率いるMSマヒロー隊に発見され、ロランは戦わざるを得なくなる。そのころグエンはリリとともにギンガナムの旗艦アスピーテにいた。月の支配者が誰なのかギンガナムの旗をさくするグエンは、アグリッバーとの交渉を申し入れる。

第41話

「戦いの決断」

ギンガナムに潜入したロランたちはウィルグムに合流。リリのお誘いでグエンとアグリッバーとの会見が白の空戦で舞えられ、ディアナはキエルを誘って同席する。そこで支配者のようにふるまうアグリッバーを見たディアナは、こみあげてくる怒りを必死に押さえる。そんな中、マヒロー隊の旗艦を逃けたウィルグムが白の巨艦に接近してきた。アグリッバーを無視したギンガナムの行動にグエンは月の支配体制が一掃できぬことを知る。ギンガナムはマの引き返しを要求する。

第42話

「ターンX起動」

マを倒さなければ富野の3人を処刑するというギンガナムの通告にミリシヤは抵抗。両者のにらみ合いは続き、アグリッバーは要塞として月のマウンテンサイクルから発進されたターンXとマを戦わせ、マで倒せば3人を解放しようと提案する。ディアナはホワイトドールがかつてマと呼ばれ、宇宙時代に終焉をもたらしたらしいこと、ターンXという兄弟機が存在することを知る。ギンガナムの乗るターンXと対峙したロランは、互いに呼び合う不思議さと、ターンXの凶暴さに圧倒される。

ゲスト設定・コスチューム集

ローラのドレス姿

第7話の戦艦バードニーに出現したときの姿。むちむち体型。さらに、その名の通りスタイルは第1話で、キエムに扮したティアナのお供をしたときのもの。



袴型ドレス



ロランの新飛行服



ゾシエの新飛行服
第14話より登場。たけなごデザイン。インサンのブラウスは変形者となる。



ウェティンツドレス



ジョゼフの普段着



アンダーシャツ

デテス

左から、12話の登場時、キースのバベン工場でのエプロン姿（20話）、ディアナ・カウソウの士官に変わった姿（18話）。



ハリー変装

第2話で、キエムの救出に成功したときのスタイル。七分袖に毛糸のベストという、かなうスクエアなコーディネート。

スウェットソン&シッキネン

マヒロー艇を盗める前と、そのかわいそうな部下のギンガナム軍幹部。第4話のスエツン、このシャツ姿（上着を脱いだところ）のままだ。シッキネンの上に着かかっていた。

キース&ベルレーヌ

第3話の設定。キースは商才を発揮してパン工場の経営を軌道に乗せ、さらに中立地帯を獲得するなど、実業家として成功。ヘルレーヌもすっかり奥さん顔として定着している。



ベルレーヌ豫教さ姿

第47話に登場。マセロ一騎の襲撃に遭遇してケガをするが、工場を失ったキースをよに救った。上にガウンを羽織っている。



ドレス姿1

第10話で表舞台を交舞し、はじめてキエルになったときのディアナ



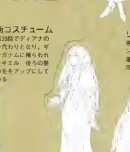
一般民衆

第2話で、ヘルレーヌに表舞台の交舞。専用服はバグイが入っている。



ドレス姿2

第18話で、黒歴史篇に出席するキエルに扮したディアナの衣装



洗濯中

第21話で、野戦病院の給食を引寄せたディアナの成金者。まくり上げたスカートを覗いてしびり、彼をタオルで拭いた。なかなか美しいスタイルである。



フランのジャケット姿

第46話から登場。それまでのシャツ・スタイルの上に纏っている。また左足は、新たに股間がブザーになった。よは、マンローをまいたところ



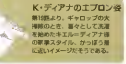
リリの源流篇

第15話で、キースのパン屋を手伝ったリリの源流篇。その左下は、46話のキエルのドレス姿



キエルとリリのコート姿

(注)47話より。キエルのコート姿。手袋とブーティを組み合わせる。日本を待っている



K・ディアナのエロップ姿

第18話より。キヤロップの大増殖のとき、重々として光澤を絶めたキエル・ディアナ様の豪華スタイル。かつほう屋に送りイメージだそうである。

第43話

「街草の黒歴史」

ディアナはグエンたちを連れて人口を黒システムのある冬の宮門へと向かう。一方、アグリッパもディアナの先を越えその冬の宮門へと急ぐが、追ってきたミリシヤの部隊に制圧されてしまう。ディアナは冬の宮門で黒歴史を結ぶ。地球人であるグエン、キエルたちにその映像を見せる。それは人類の戦争の歴史であり、一面はその凄惨さに心を打つ。Yで取ったイロランは、流れてきた映像によってYが月光燈というシステムを使い、地球を滅ぼした事実ショックを受ける。

第44話

「敵、新たなり」

街に流れた黒歴史の映像を見て民衆に騒動が起る。ディアナは彼らを誘導した方向に導こうとしたがアグリッパを誤用しようとするが、その時、ミドガルドの機体がアグリッパを撃ち抜く。ミドガルドはディアナをも撃つとするが、リリの機転で弾は外れた。追い詰められたミドガルドはビーム砲で冬の宮門ごとディアナを襲おうとするが、撃つけたイロランがYのバリアを起動させて防衛。ミドガルドはハリーによって処刑される。混乱の間、グエンは宮門から黒歴史のデータを持ち去る。

第45話

「裏切りのグエン」

ディアナはギンガナムにターンXの引き渡しを要求する。一旦は女王に従うと答えたギンガナムだったが、グエンが秘密裡に接近。グエンは地球統一と月勢力への対抗にギンガナムの底力を利用しようとし、彼を地球へと誘う。そんなグエンの裏切りが許せないイロランは初めて反抗心を示し、地球に向かうウィルゲムをYで押し返そうとする。だが、ギンガナムの知るターンXのユニットを分解してくる攻撃に、イロランはコア・ファイターで脱出。Yをギンガナムに奪われてしまう。

第46話

「再び、地球へ」

グエンがギンガナムと手を結び、地球吸収作戦を開始した。ディアナはそれを阻止しようとする市民に再び地球へ行くことの押しを求める。市民はディアナに無知しない声援を送るが、連はギンガナム軍によって封鎖されていた。黒歴史が所持していた予備の艦艇を市民の協力で修理したディアナ一行は発進準備を進めるが、そこへギンガナムの精鋭部隊が攻撃をかけた。イロランのコア・ファイターと黒歴史を率いたハリーの働きでそれを交戦したディアナたちは地球へ出発する。

◎ゲスト設定・メカニック⑤

ギンガナム特撮

Concept・X 6・1・2(Project-6 division-1 Block-2) ターンX

月のマウンテン・サイクルから発展された、▼ガンダムの兄弟機。両機が本機で、手廻りと電機は12分してオールレンジ攻撃が可能。両機には武器を積みキャリブスを取付。



▼ガンダム コア・ファイター

第44話より登場した、▼ガンダムのコックピットブロック。元々、隠し設定としてシド・ミードがデザインしていたもので、機の下部にミサイルを積み付けられる。また機体には、翼が折れ曲がってランディング・ギアの役目を果たす

ホエールズ

月に製造されていたアルマイヤー製の戦艦。シリーズのクライマックスでは、ギンガナム員と戦うキエルやバリエの戦艦となって活躍した。ムーンレイスのダイスケ戦艦が指揮を執っている。



ミリシャ 新型戦闘機

軍用機より発展する。ロケットと呼ばれる中核機。ルジャーナ・ミリシャ、イングリッシャ・ミリシャがともに使っており、機体や機体部にそれぞれの識別マークが描かれている。また47話では、コレンがソレイ3に登場するディアナを買取させた改造ヒップヘビーも登場



輸送 グライダー

リリとマリガン中位の準いるルジャーナ・ミリシャが、空路の運搬に利用した大規模な輸送機。ロケットTP 003、機体のほとんどが木と布でできた。急ごしらえのグライダーで、使い捨てにされる。

ギンガナム特撮

G-M2F (AMX-1002) ズサン

戦艦、戦艦に準拠した戦艦機形。ギンガナム員の空母地となる戦艦の戦艦にあてており、戦艦機とそれによってコントロールされる無人機の戦艦で戦う。もっとも、大きなマジンガムの戦艦に負けない。

戦艦機マジン

月光蝶フォルム

第46話で、ギンガナムの戦いへの戦意とターンXの未知の機体が組み出した強力なエネルギー波動、虹色に輝く雲の雲母のように美しいフォルムだが、恐ろしい威力をもち、以後ではVのそれと中和して巨大な蝶となった。



ロランのワゴン車

第50話で、キエルとソシエ、ディアナたちをハイム軍に送り届けるのに使用。その後、ディアナを連れて去るときにも使っていた。



TV車

向しく第50話に登場。フロンが動いているテレビ画面（ノックス・テレビジョン・フロドキャスト）の中継車。

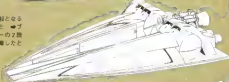


ローラローラ号

第44話でディアナ（キエル）を月に送るに使用。水上を走りながらブースターを発動させ、大気圏最上層は中央ブロックが独立してシャトルとなる。



●車輪がとる3段階と●ブースターの2段階が分離したところ。



●3段階の推進からランディングギアがある●着陸時、水上滑走用のスキートが外れた1階部分



第47話

「ギンガナム襲来」

地球に進攻したギンガナムは各地の貴族を武力で次々と制圧する。ディアナたちが乗る戦艦ホーエルズは、南アメリカ大陸からビシティーを目指し北上していた。そんな中、グエンはキースとホレスを訪れる。技術協力を求めるグエンに無情な面を見たキースとホレスは後からやってきたディアナたち一行に追われる。ロランとキエルはグエンの窮状を試みるが、グエンは聞く耳を持たず、命令を無視したメリーベルがVで攻撃してくる。ホーエルズはVを取り戻す必要を痛感させられる。

第48話

「ディアナ帰還」

メリーベルがVでマノマシンをばらまくなか、グエンとギンガナムは地球に残留していたディアナ・カウンターとミリシャを奪取せようと画策する。しかし、ディアナはディナ・カウンターを再び自分に従わせようと、コレンの助けを借りて再びソレイホへと乗り込む。乗員の軟弱に引えられたディアナはフィルとミランの協力を不器に付き、ギンガナム軍の追討を命じる。一方、グエンの窮状を聞いたしに向かったジョゼフは、ブルーノとヤコブの脱走船との間にVを奪い返す。

第49話

「月光蝶」

ディナ・カウンターとギンガナム軍の戦線が縮がれるが、能に押され窮乏のフィルはVの出力を要請する。だがVを持ち帰ったジョゼフは機体をロランに運送しようとしない。一方、グエンはディナ・カウンターとギンガナム軍の戦線が縮がれる。そんな中、ジョゼフはロランとフランの制止を振り切ってVで出撃。ギンガナムのターンXと対峙し、ユニット分解したオールレンジ攻撃に挑む。ハリートとボウが救出に出るが、ギンガナムは月光蝶のシステムを発動させる。

第50話

「黄金の秋」

ターンXのビームを受けたウィルゲムは大破し、グエンの窮状は激化した。ロランはターンXをロスト・マウンテンに誘い込み最後の決戦に挑む。地球を破壊するなというロランに、すべてを破壊しなければ新しい時代は始まらないというギンガナム。激突したVとXの2機は共闘を止めて、ディナはソレイホで決死の援護を試みる。2機はそのまま機に包まれ、ロランは最後、ギンガナムを刺で断る。戦争は終り、ディナとキエルは身分を入れ替えて月と地球で新しい人生を歩みはじめる。

MOBILE SUIT SPEC LIST

機動戦士ガンダムF91

名称	コードナンバー	開発局	本体重量	全機重量	機甲構成	ジェネレーター出力
ガンダムF91	F91	15.2t	7.8t	19.8t	ガンダリウム合金セラミック複合材	4250kw
G キーポン	F71	14.3t	8.7t	28.1t	ガンダリウム合金セラミック複合材	3260kw
ペーガン	R91M-105	15.8t	9.9t	23.5t	ガンダリウム合金	2870kw
ガンダムR44	R44-44	10.3t	6.1t (固定機)	11.8t	不明	1450kw
デナンゾン	XM-01	14.9t	7.9t	17.4t	チタン合金/ハイセラミック複合材	2880kw
デナンゾン	XM-02	13.9t	7.1t	19.2t	チタン合金/ハイセラミック複合材	1620kw
エビル S	XM-03	13.2t	6.8t	16.7t	チタン合金/ハイセラミック複合材	3090kw
ベルガダラス	XM-04	15.8t	9.3t	22.1t	チタン合金/ハイセラミック複合材	4530kw
ベルガダラス	XM-05	15.7t	9.1t	22.7t	チタン合金/ハイセラミック複合材	4700kw
ザイフェス	XM-06	15.0t	9.7t	22.5t	チタン合金/ハイセラミック複合材	2620kw
ヒナナキナ	XM-07	17.9t	8.9t	22.8t	チタン合金/ハイセラミック複合材	4790kw
ラフレシア	XMA-01	37.5t	184.6t	—	チタン合金セラミック複合材	31650kw

機動戦士Vガンダム

名称	コードナンバー	開発局	本体重量	全機重量	機甲構成	ジェネレーター出力
Vガンダム	LM12V04	15.2t	7.8t	17.7t	ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材	4750kw
V2ガンダム	LM34V21	15.5t	11.8t	15.3t	ガンダム合金スーパーセラミック複合材	7510kw
V2ガンダムガンダム	LM34V22	15.5t	12.8t	19.9t	ガンダム合金スーパーセラミック複合材	7510kw
V2ガンダムガンダム	LM34V23	15.5t	12.3t	19.1t	ガンダム合金スーパーセラミック複合材	7510kw
V3ガンダム	LM32V04+10 VMS3A	15.2t	9.2t	20.9t	ガンダム合金スーパーセラミック複合材	4570kw
V3ガンダムヘキサ	LM32V06	15.2t	7.6t	17.7t	ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材	4760kw
ガイセイ	LM11V02	14.9t	7.6t	15.6t	ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材	4820kw
ガンバスター	LM11V03	14.9t	7.9t	21.3t	ガンダリウム合金スーパーセラミック複合材	4820kw
ジムスガン	RGM-119	14.7t	7.1t	19.2t	ガンダリウム合金セラミック複合材	3400kw
ジバハン	RGM-122	14.8t	8.1t	18.5t	ガンダリウム合金セラミック複合材	2960kw
シロ	ZMS-006	14.8t	8.3t	21.2t	チタン合金セラミック複合材	5120kw
トリムリット	ZMS-009	15.0t	8.6t	20.7t	チタン合金セラミック複合材	5440kw
リトル	ZMS-005	15.0t	28.2t	41.5t	チタン合金セラミック複合材	4980kw×2
リボアット	ZMS-006	14.8t	8.2t	19.8t	チタン合金セラミック複合材	5180kw
ゴソラ	ZMT-5130	14.6t	8.1t	20.9t	ハイチタン合金セラミック複合材	4990kw
シャージュ	ZMT-5136	14.7t	7.9t	19.2t	チタン合金セラミック複合材	5190kw
メタモルダ	ZMT-5160	14.7t	8.5t	21.8t	ハイチタン合金セラミック複合材	5570kw
リダ シャージュ	ZMS-0225	15.9t	8.2t	19.5t	ハイチタン合金セラミック複合材	3960kw
ガルグロ	ZMT-015M	14.2t	9.8t	26.7t	チタン合金セラミック複合材	5430kw
アビエロ	ZMS-0115	22.6t	12.4t	45.3t	ハイチタン合金セラミック複合材	7340kw
シャイター	ZMS-0185	15.9t	11.4t	19.8t	チタン合金セラミック複合材	4990kw
コンディ	ZMS-0145	16.1t	10.9t	21.3t	ハイチタン合金セラミック複合材	5390kw
ザンテッシュ	MMS-048	22.7t	25.2t	36.9t	チタン合金セラミック複合材	3890kw×2
グアラフ	ZMS-0246	13.8t	6.9t	17.4t	チタン合金セラミック複合材	5440kw
リゴラ	ZMT-0315	36.3t	51.9t	148.3t	ハイチタン合金セラミック複合材	5930kw×2
ドムノリア	ZMS-0270	14.8t	8.2t	16.9t	ハイチタン合金セラミック複合材	5590kw
ムルティ	ZMS-0260	14.7t	9.8t	20.9t	チタン合金セラミック複合材	5440kw
ブルック	ZMS-0210	14.7t	13.8t	25.1t	ハイチタン合金セラミック複合材	5370kw
シバロ	ZMS-0205	15.7t	9.9t	18.2t	ハイチタン合金セラミック複合材	4990kw
ザンテッシュ	ZMT-029	19.4t	16.7t	38.2t	ハイチタン合金セラミック複合材	5570kw×2
ザンテッシュ	ZMT-0285	17.3t	14.3t	35.9t	ハイチタン合金セラミック複合材	6310kw
リゴラ	ZMS-0260C	14.3t	8.9t	21.2t	チタン合金セラミック複合材	5120kw
ヒルグナフ	ZMT-0325	22.3t	26.9t	45.3t	ハイチタン合金セラミック複合材	5950kw×2
近衛勇蔵(リダ) シャージュ	ZMS-0225C	15.9t	8.2t	19.5t	ハイチタン合金セラミック複合材	5960kw
コラシム	ZMT-023A	13.9t	11.1t	24.9t	ハイチタン合金セラミック複合材	6170kw
ガンダリウム	ZMT-0345	16.3t	10.2t	21.4t	ハイチタン合金セラミック複合材	6500kw

マカダム

名称	機体番号	全重	機重	ジェネレータータイプ	機甲構成	ジェネレーター出力
マカダム	MO MS-15(15M 15)	29.0t	28.8t (移動重量17.5t)	DH6C2	FR	27,000kw (±5000)
フラット	FLAT LOGO	30.5t (移動重量14.5t)	22.3t	WG	EC2機	18000kw (±16000)
カナル	AMX-109	14.0t	38.7t	WG	ガンダリウム合金	3600kw
スモーク(シルバースト)	MPC-F29	30.3t	34.3t (移動重量27.4t)	HPMG2P	M-8型ガンダリウムFG複合材	34000kw (±16000)
スモーク(ゴールドタイプ)	MPC-F39	29.3t	34.7t (移動重量27.4t)	HPMG2P	M-8型ガンダリウムFG複合材	34000kw (±16000)
タンクX	Design No. 9 (Prototype) / Back 02	20.5t	30.8t (移動重量20.2t)	不明	不明	68000kw (150000~600000H)

スラスタースペック	デブリジョー	武器	パイロット
15450kg・4 4350g・8	51	バルカン砲、ヒームサーベル、メガロニキヤン、ウェスター、ヒームライフル、ヒームショット	サブリック アノ
17840kg・2 16790g・2	50	バルカン砲、4連マシニングガン、ダブルヒームガン、ヒームサーベル、ヒームライフル	地球連邦軍パイロット
21250kg・2 39940g・4	56	バルカン砲、4連マシニングガン、ヒームサーベル、ヒームライフル	ビズリット・ビジー 巻
14000kg・1	1	メガロニキヤン、4連マシニングガン、フィンガーグラブ	IL シンダ、ローザリー、リーファ、アノ
17310kg・2 8520kg・2 4560kg・4	84	ショットランサー、ヒームサーベル、ヘビーマシニングガン、デュアルヒームガン、ヒームショット	クロスネン・パンゴロ、サバ・バレット
17100kg・1 610kg・2 11020kg・2 11390kg・4	76	ヒームライフル、ヒームガン、ヒームシールド、ヒームサーベル、3連フルオート	ボリス
22540kg・2 11430kg・2	85	ショットランサー、ヘビーマシニングガン、ヒームスライダ、4連マシニングガン、ヒームサーベル、3連フルオート	クロスネン パナバ、サバ・バレット
25420kg・2 8990kg・3 3490kg・6	82	ショットランサー、ヒームサーベル、ヘビーマシニングガン、ヒームシールド	ドムロ・ロジ
21850kg・2 16520kg・3 3400kg・8	73	ショットランサー、ヘビーマシニングガン、ヒームサーベル、ヒームシールド	ヴェーネ シュル
25450kg・2 11830kg・2 8950kg・3	87	ヒームライフル、ヒームサーベル、3連フルオート	アリア マリア フルメジヤ
22850kg・2 8950kg・2 4490kg・8	87	ヒームライフル、ヒームサーベル、ヒームシールド	サブリック(セリウス フォアチャール)の
125455kg・1	不明	超重力ヒーム砲、超重力ヒームキャノン、超重力メカナード、破壊ヒームキャノン、デシタラ・クロ、超ヒームバスター	彼ら連邦軍パイロット

クロスポーン・バンガード

[illegible]

リガ・トリティア ■■■ 地球連邦軍 ■■■ ザンスカール帝國(ベス) 〇

製品	パイロット
新機多目的バーバースタリオン・ミサイル・ヒートドライフュエル・対空戦闘機・ヒームライフル・ヒームサーベル・ジャール 機	ゴッホ・ミラック
新機ヒートエッジ 神威ヒートエッジ 新機スライム・新機スライフル・新機スバザー・新機スミラリタンチャー 機	ロラン・ミラック、ジョセフ・ヨット、キース・レイジ、レット卿
レーザースピーム・ソニックブラスト・ミサイル・8機	ジョシエ・トリアム、メシエ・ユークン
ドジェスレーター（ドフォースター・ドフィッカー）、ハンドビームガン、ヒートファン 機	タイアノ・スウェーデン
ドジェスレーター（ドフォースター・ドフィッカー）、ハンドビームガン、ヒートファン 機	ハリー・オード
新機多目的バーバースタリオン・ヒームライフル（スカーベール）、新機多目的バーバースタリオン・3連発ビーム対空システム・新機メカドラン（機巧） 機	ギム・ゴンガナム

三ツリシヤ ■■■ ティアナ・カウンスター ■■■ ギンガナム ■■■

3作品をつなぐ線

91年から99年にかけて富野由悠季監督が発表した3作のガンダム。どの作品も、設定年代上は無関係ということになっている。ひとくちにガンダムサーガと呼ばれることも多いけれど、時系列的に連続している「ガンダム」から「逆襲のシャア」までと、この3作はそこが大きく違う。



だが、それなのに3作品にはいくつか似た部分がある。もちろん、監督が同じだから、当然といえば当然だし、場所によっては、富野監督の東京とは別に、似て見えてしまっている部分もあるだろう。でも、設定を新たにしたにも関わらず、似て見える、というのはいさよっばかり興味深いことではある。

そこで本稿では、ストーリー、キャラクター、設定と、さまざまな要素において3作品の共通点を挙げてその間をつなぐ補助線を引いてみる。その作業は少々強引に見えるかもしれないし、補助線そのものが目の錯覚、妄想かもしれない可能性だってある。でも、アニメを楽しむことの何割かは、自分の中だけにわき上る妄想を楽しむことでもあるのだから、多少の強引さは、まあ、許容範囲ということでお目こぼししてもらおう。

二卵性双生児のような……F91とV



この項目は先に結論を書く。

F91とVの物語の構図は双子といってもいいようにそっくりだ。キャラクターたちが満ちるドラマこそないようないやうな違うが、物語の類型、というか基本的なシフトがとても似ているのだ。

まず、「F91」。シーブックとセシリーは同じ高校の同級生。義父とともに暮らしていたセシリーは、実は敵のコスモ・バビロニアの女王ペラ・ロナだった。ラストは、戦線中に生死不明になったセシリーをシーブックが発見することでハッピー・エンドとなる。

一方、「V」の、ウツンとシャクティはカサレリアのお隣同士。シャクティは養父母に育てられていたが、実の母はザンスカール帝国のマリア女王で、シャクティは女王だった。最後の戦役で、シャクティは秘密兵器エンジェール・パイロッドとともに宇宙に上昇して行き、ウツンの助けは及ばずになく見えてくるが、結局、ウツンの乗るV2ガンダムの手元へと彼女とは静かに降下してくる。



身近な女性が、敵方の女王で、彼女の救出でラストを迎える。どちらも同じパターンでできているのだ。これは果たして偶然の一致だっ

たのだろうか？ 実はこの疑問を解くヒントは、別の部分にある。

「V」には「F91」にはない基本設定として、マリア主義という一種の宗教が登場する。ところが実は「F91」にもコスモ・クルスというコスモバビロニア主義を喧伝する宗教団体の設定があったのだ。おそらくテレビシリーズとして制作予定の段階での設定だったのだろう。映画本編では結局、コスモ・クルスの設定は一言も登場しなかった。

また、V2ガンダム、F91はともに主人公の母親が開発に関わったモデルスーツであるという共通点もある。二つの物語で母親が非常に重要なことを考えれば、この共通点は、単に物語の類型が似ているだけではなく、トラマの核の一部分を共有していることを意味するはずだ。

さて状況証拠は揃った。推測してみよう。

「F91」は、「ガンダム」の基本要素（戦争に巻き込まれる青少年の群像劇）の上に、新たに家族の問題やコスモ・バビロニア主義など新しい要素を付け加えた、一種のリメイクだ。だが、劇場版1作で終わっただけで、全ての要素を消化することはできなかった。そこで、いくつか消化不良だった要素をピックアップして再整理した上で、「V」の設定がつくられたのではないのか。つまり、「V」もまたある意味で「F91」のリメイクという側面があったのではないのか。だからこれほどまでに似ているのだ。



それが結論だ。

ただし、「F91」はある種の理想を描こうとしていたのに対し、「V」はそうした理想が現実ではありえないということ意識しているという差がある。「F91」の主人公がシーブック＝見本という名前の通り、立派な子どもで理想像として描かれたのに対し、「V」の主人公ウツンの名前は、こんな子どもはいない＝ウツンという意味が込められているという説がある。

物語の類型がそっくりでも、主人公に込められた思いの差が、二つの物語を似ても似つかないものに仕上げているのだ。

意外なところから見つかる共通点……VとV

では、「V」と「V」はどこが似ているのか？ こちらはまず総部から攻めていこう。

この2作は「はね」というモチーフが共通している。V2ガンダムは、背中に付いたミノフスキードライブから光の翼を吹き出す。これは、デザイナーのかたけハジメが、「こういうのが監督は好きだろう」と提案したアイデアだとか。鳥の羽のイメージだ。一方、ホワイトドールは月光

蝶システムを発動させると、やはり背面から光が伸びる。こちらは蝶の羽根のイメージだ。

モビルスーツの背中から羽根が生えている姿は、そのまま天使をイメージさせる。天使とはどんな存在かを一言でいうのは難しいが、キリスト教においての主の使い、と説明するのがわかりやすい。一方、人の霊が死後に蝶となったという話があったり、「莊子」に魂が蝶となって夢の中で遊んだ話もある通り、蝶の姿態は人が異界へ向うイメージと結びついている。

つまり、天使と蝶は、どちらも現実の人間がスピリチュアルな体験を媒介する存在なのだ。

スピリチュアルというと、ちょっとロボットアニメにはるさわしくない言葉のように思えるかもしれない。要は、世界の大きな流れやリズムみたいなものを感じることで思いをいたそう。そもそもニュータイプの感覚もかなりスピリチュアルなものに根ざしている。

そこで連想は少し飛躍するのだが、「母なる大地」という言葉思い出ししてみよう。



実は、ガンダムシリーズで、コロニーではなく、地球から物語が始まったのはこの2作しかない。ウツホは自分で農作業をやって暮らし、土を舐めてその土地の善し悪しを判断できる。ロランはそこまで専門的ではないけれど、亦ちゃんのために牛を探し、アニス婆さんの畑を手伝い、麦刈りをする。彼らは、大自然の大きさを身をもって感じているのだ。

人は太古から自然の神秘をそうして日々の生活の中から感じ、そこそこスピリチュアルな存在を感じていた。翼や羽根のあるモビルスーツは、そのまま大地に親しみを感じている二人の主人公の存在と密接に結びついているアイテムで、実は、そこがこの2作の最大の共通点なのだ。

(このあたり探っていくと、富野監督の小説「ガイア・ギア」ともつながりそうだけど、そこは今回は保留)

すると、その方法こそ違え、ザンスカール帝国の地球侵襲作戦もディアナ・カウンターの地球掃蕩作戦も、母なる大地=地球への執着という見方ができる。しかも、どちらも女王を置き、その母性で国家を成立させている。

一見似ていない「V」と「V」だが、「母なる大地」という言葉がキーワードを通じて見ると、敵組織の目的、主人公の行動、そして羽根や翼を持つモビルスーツという共通点が浮かびあがってくるのだ。そういえばVは素足で大地に裸に、V2は木々の中に身を沈めていた。探せばまだまだ「証候」はあるかもしれない。



それから、蛇足になるが、2作には「鈴」を身につけた人物がいるという共通点もある。「V」のファラ・グリフォンと、「V」のメリー・ベル・ガジット。どちらも頭に3つの鈴をつけている。これは偶然なのか、それともやはり何かの意味があるのか……



そして、お姫様……

こうして、それぞれの作品の関係を探ってきたけれど、この3作品全体をつなぐ最大の特徴を一言でいうなら「となりのお姫様」だ。



同級生のセシリー、お隣さんのシャクティ、そしていつの間にかうちののお嬢さんキエルと入れ替わっていたディアナ様。いずれも意外な形で主人公たちの側に、物語の中心に位置する

「お姫様」がいるのだ。

これを、お話作りのテクニクとまとめてしまうのは簡単だ。でも、それだけじゃ味気ない。そこでここでもちょっと知恵をひねって読んでみる。

富野作品に登場する「お姫様」は常にアイドル=偶像、と説明される。みんながその人のイメージを共有することで一体感を体感する存在(国民統合の象徴ってやつ?)というわけだ。敵対する国家は絶対民主主義で機能不全に陥った地球連邦政府へのアンチテーゼ、あるいは月のつらい生活に耐えるための1つのシステムとして、こういう方法で国家を運営している。

ところが、そのシステムは常に「お姫様」の意志で揺らぐことになる。セシリーは一度はベラ・ロナを名乗るが、クロスボーン・バンガードから離反する。シャクティは、ザンスカール帝国のためでなく、戦争を終結させるためにエンジェル・ハイロウを動かしてしまふ。身代わりの女王が復讐し、現状維持に見えた「V」ですら、強制的な冷凍睡眠という月の支配のシステムの一端をディアナは自ら崩すのだ。



偶像ではなく、一人の人間として、皆の幸福を考える。隣のお姫様の決断はいつもそういう結論へと至る。偶像を生んだ理念ではなく、自分が敵味方を行き来して感じた経験の中から答えを導き出す。

もちろん3作とも主人公は男のコード。だが見方を変えれば、この3作品とも「隣のお姫様」こそが、ドラマの機軸に触れている真の主人公であつたといえるのかも知れない。

GUNDAM F91

親が子供に銃を 向けるのかっ!

機動戦士 ギャルバ 声優: 宇津木 重子



あれ花なんだ。セシリーの花なんだよ
セシリーに決まってるじゃないか!

機動戦士 ギャルバ 声優: 宇津木 重子

大衆とはたえずアイドルを要求するものだ
市井に出て苦勞を知ったお前はアイドルになれる魅力がある

機動戦士 ギャルバ 声優: 宇津木 重子

時には運に身を任せる、か。
そうだな己の行く末を
このようにして占う
時もある...



人類を永遠に
生き延びさせるための、
我が口ナ家、千年の夢...

あの光は、僕には
宇宙を乱す物の
怪に感じられる

機動戦士 ギャルバ 声優: 宇津木 重子

共に死ねばおまえの
口惜しさは消えるのか?

機動戦士 ギャルバ 声優: 宇津木 重子



さわるらないで、あなた
がガンダムなんか作つ
たからお兄ちゃんまで
死にそうにな...
たしやない



僕やセシリーがな
大でモビルスーツ
最えるように
なつたか: そんな
なことは戦争が
終わつてから考え
ましようよ



情けない男だ。その上、
ゾナーおじいさまの理想を
実現させてあげることも誓
った身だ。その時以来、私は脆
弱な自分との闘いをはじめた
(機動戦士ガンダムF91 機動隊、第1中隊) 声優: 宇津木 重子

つくづく女とは御しがたいな

(機動戦士ガンダムF91 機動隊、第1中隊) 声優: 宇津木 重子

V GUNDAM

和歌山 土佐地な
（機動戦士 ゴ 43話）

が住

（機動戦士 ゴ 43話）



見てください

（機動戦士 ゴ 43話）



爆発はしなかったけど、
爆発はしなかったけど、なんだ、何が聞こえたんだ

（機動戦士 ゴ 43話）

たしはね クロノクルという楽を見
すたんだ なのにおまえとシャクティ
それを笑った チビくせし

（機動戦士 ゴ 43話）

ウーイグのカテジ
ナさんでしょ!あなた
は家の二階で物
思いにふけったり、
盗み掘りする僕をバ
カにしてくれていば
よかったんですよ

（機動戦士 ゴ 43話）

ひところニュータイプって
呼ばれるパイロットたち
いたっていうけど、まさか

（機動戦士 ゴ 43話）



白いヤツ だと!

（機動戦士 ゴ 43話）



カテジナさん、あの顔ほめてくれてない。怖がつてもいらないけど、なんなんですか……

ウーイグはどちらでしょう

（機動戦士 ゴ 43話）

男の子のロマンスになんて
私がつき合わなければならぬの

（機動戦士 ゴ 43話）

ふたりの男が私をかけて戦っているんだ
・ 邪魔はさせないよ

（機動戦士 ゴ 43話）

この差し 意志をしめすものに、悲しみに
嫌悪を思い起こさせよ、サイキッカーたち

（機動戦士 ゴ 43話）



泣いてなんかいません。
泣いて大人になる
なんて悲し
すぎるじゃな
いですか

（機動戦士 ゴ 43話）



僕はあなたの夢にはなれませんよ。僕は誰の道具でもありません。……お母さんをやりたいのなら、自分で子供を産んでそれでやってくださいよ

（機動戦士 ゴ 43話）

ウーイグの町はこういう風に
爆撃されてよかったんです……

GUNDAM

Vの風がふく

ガンダム系名言 — ラン

ぼくはローラでもなければ、道具でもありませんよ

ガンダム22巻



月の魂よお〜

ガンダム23巻 レー 第1回 見 177

メーさんのひつじ、ひつじ……

ガンダム23巻 レー ココロのこころ 2



ギャバン、
ウエディングドレスを
着た私は
きれいでしょー



地球はとても
いいところだ。
みんな早く
戻ってこおい



ガンダムにはおヒゲが
ありますか？ありません

ガンダム23巻 レー 第1回 見 177

もう、もうダメだ。
これじゃ地球に
戻れない

好きだとおっしゃってくださ
れば、アグリッパを暗殺す
ることだってやっ
てのけましょうに



そんな不純な動機で
ギャバンさんと結婚
するなら、こんどはお父
のお怒りと思いなさい

ガンダム22巻 ラー 女魔の理合—巻26—



地球の雨とは
暖かいものだな

趣味がっつ！

ガンダム22巻 ラー 女魔の理合—巻26—

ユニバース!

三つの子と

ローランも行って、
ローラとしてグ
エンをたらし込
みなさい。

11歳

ローラはなんで私のそ
ばにしようとしな
いだ、わたしは、
わたしは……



10才 デム50歳 アスノ、ルザン(小宮山)とム、ノ

リリ嬢は私がどん底になると
現れますね

17才 デム50歳 アスノ、ア、アとあつて(小宮山)とム、ノ

17才だって、時代を開けるはずだ!

17才 デム50歳 ノ、ム、ノ

ローラは男のコです。
そんなにも愛している
なら、ご自分がスカート
をおはき
になれば

17才 17才の少女(小宮山)とム、ノ



自分にはたく
むような頭も
気もありませ

17才 17才 デム50歳



ディアナ様、またあした

17才 17才 デム50歳 ノ、ム、ノ

戦士たるものの
生き様を後世に
伝えい、女たちよ

17才 17才 デム50歳 ノ、ム、ノ



自分を捨てて
戦えるものには!

17才 17才 デム50歳 ノ、ム、ノ、カサム(小宮山)

何も変わらない
いくだけのくら
耐えられなくな
地球人がを呼び
覚ましたのだ

17才 デム50歳 ノ、ム、ノ、カサム(小宮山)



VISUAL/SOUND/NOVELS Guide

Text by ATSUKO IWASAWA

協力・資料提供：株式会社バンダイビジュアル (VIDEO・LD・DVD)

キングレコード/アポロン(CD)

© 前進エージェンシー・サンライズ・フジテレビ

© 前進エージェンシー・サンライズ

VIDEO TAPE/LASER DISC/DVD



「機動戦士ガンダムF91」

VIDEO (完全版) BES-679

9,709円(税別)

VIDEO (劇場公開版) BES-670

15,800円(税別)

LD (完全版) BELL-449

9,515円(税別)

DVD BCBA-0776

6,000円(税別)

※劇場公開版と完全版の2本を同時収録



2巻 第5話～第8話



3巻 第9話～第12話



4巻 第13話～第16話



5巻 第17話～第20話



6巻 第21話～第24話



7巻 第25話～第28話



1巻 第1話～第4話



8巻 第29話～第32話



9巻 第33話～第36話



10巻 第37話～第40話



11巻 第41話～第44話



12巻 第45話～第48話



13巻 第49話～第51話

「機動戦士Vガンダム」

VIDEO 全13巻 BES-807～BES-919

9,515円(税別)

LD BELL-597～BELL-609

9,573円(税別)



1巻 第1話～第4話

『マガンダム』

VIDEO 全13巻 BES-2437～BES-2449

1巻～12巻 各7,800円(税別)

13巻 5,000円(税別)

LD 1483～BELL 1495

1巻～12巻 各7,800円(税別)

13巻 5,000円(税別)

DVD BCBA-0321～BCBA-0333

1巻～12巻 各7,800円(税別)

13巻 5,000円(税別)



2巻 第5話～第8話



3巻 第9話～第12話



4巻 第13話～第16話



5巻 第17話～第20話



6巻 第21話～第24話



7巻 第25話～第28話



8巻 第29話～第32話



9巻 第33話～第36話



10巻 第37話～第40話



11巻 第41話～第44話



12巻 第45話～第48話



13巻 第49話～第50話

富野監督のオリジナル劇場作品として公開され、話題を呼んだ「ガンダムF91」。これはビデオ、LD、DVDが発売されており、ビデオは劇場公開版、新作映像が加えられた完全版の両方が存在する。LDは完全版のみ。DVDは劇場公開版と完全版の2本が収録されている。ビデオ、LDのジャケットイラストはキャラクターデザイナーの安彦良和が担当。

ノヴェライズ版は全上下巻2巻の構成。サブタイトルが「クロスボーン・バンガード」というのも興味深い。クロスボーン・バンガードの生まれていった経緯などは、主人公であるシーブツクたちよりも描写が多く、映像よりも政治的な背景、側面といったものを細かく描いているのが特徴。ラストシーンも映画とは多少違っている。著者は監督の富野由悠季。カバーイラスト、口絵、本文挿し絵は美術本晴彦が担当している。

平成ガンダム初作として制作され、富野監督久々のテレビシリーズということで注目度が高かった「機動戦士Vガンダム」。宇宙世紀が100年をとうに越えてもまだ戦いの続く世界を、独特の切り口で描いた作品である。ビデオ、LDは全全13巻が発売。各4話が収録され、最終巻の第13巻のみが3話収録となっている。ジャケットは、キャラクターをキャラクターデザイナーの連板浩司、メカを石垣純哉が担当している。

ノヴェライズ版は全5巻構成。テレビシリーズよりも凄惨で悲惨な描写が多く、全体の構成やキャラクターの生死などもテレビ版とはかなり違ったものとなっている(カデジナはノヴェライズ版では死亡しているのだ)。著者は監督でもある富野由悠季。カバーイラスト、口絵は美術本晴彦が担当している。

1999年に放映された『Vガンダム』もまた、富野監督による作品である。今までのガンダムシリーズをすべて肯定するというコンセプトの元、牧歌的な世界での地球と月の民との不幸な出会いと戦いが描かれ、20世紀最後の名作としてその名を

残した。また、これは「ガンダム」20周年の作品でもある。

映像ソフトはビデオ、LD、DVDが全13巻で発売され、1〜12巻は各4話収録、13巻のみ2話収録。ジャケットイラストは、キャラクター原案の安田朗が描く描き下ろしイラストを使用。ソフトには「Vガンダム」の世界を詳しく解説したライナーノート、「Turn A Journal」が特典として毎回封入されている。

ノヴェライズ版は全5巻。テレビ版とは多少構成を変えてあるが、基本的なラインはなぞっており、非常に読みやすい。ただし、最終巻では最後の戦いが月光蝶とブラックドール（おそらくはサイコガンダムだと思う）と、VとターンXという、驚くべき展開となっており、ファンは必見だ。著者は小説家、佐藤茂。カバーイラストは漫画家の萩原望都が担当している。

この他に、細かいエピソードを集めた短編集、「Episodes」も発売。著者は同じく小説家の佐藤茂。カバーイラスト、ピンナップは萩原望都が担当している。また、ハルキ・ノベルスからも「Vガンダム」のノヴェライズ版が発売されている。著者は福井晴敏。

シングルCDは「F91」が主題歌とイメージソングのカップリングで1枚、「Vガンダム」は前期と後期の主題歌CDが各1枚ずつ。EDも前期と後期で各1枚ずつ発売されている。「Vガンダム」も同じく、前期と後期の主題歌CDが各1枚。EDのCDも前期と後期で各1枚発売されている。サウンドトラックは「F91」が1枚。「Vガンダム」が3枚。「Vガンダム」が3枚に、コンサートの模様をライブで収めたCDが1枚発売されている。

NOVELS



『機動戦士ガンダムF91』
クロスボーン・ガンダム(上)
宮野由悠季 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体540円 (税別)

『機動戦士ガンダムF91』
クロスボーン・ガンダム(下)
宮野由悠季 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体540円 (税別)

『機動戦士Vガンダム 1 ユッソ・エヴィン』
宮野由悠季 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体540円 (税別)

『機動戦士Vガンダム 2 マルチプル・モビルスーツ』
宮野由悠季 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体540円 (税別)

『機動戦士Vガンダム 3 マリア・リーディング』
宮野由悠季 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体580円 (税別)

『機動戦士Vガンダム 4 コンビネーション』
宮野由悠季 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体580円 (税別)

『機動戦士Vガンダム 5 エンジェル・ハイロウ』
宮野由悠季 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体580円 (税別)



『Vガンダム 1 初動』
矢立肇・宮野由悠季 原作 / 佐藤茂 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体381円 (税別)

『Vガンダム 2 騒乱』
矢立肇・宮野由悠季 原作 / 佐藤茂 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体381円 (税別)

『Vガンダム 3 百年の恋』
矢立肇・宮野由悠季 原作 / 佐藤茂 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体381円 (税別)

『Vガンダム 4 火と月』
矢立肇・宮野由悠季 原作 / 佐藤茂 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体381円 (税別)

『Vガンダム 5 月光蝶』
矢立肇・宮野由悠季 原作 / 佐藤茂 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体381円 (税別)



『Vガンダム 上』
宮野由悠季・矢立肇 原案 / 福井晴敏 著
ハルキ・ノベルス / 定価: 本体1,143円 (税別)

『Vガンダム 下』
宮野由悠季・矢立肇 原案 / 福井晴敏 著
ハルキ・ノベルス / 定価: 本体1,286円 (税別)

『Vガンダム Episodes』
矢立肇・宮野由悠季 原作 / 佐藤茂 著 / 角川スニーカー文庫 / 定価: 本体514円 (税別)

SINGLE

「ETERNAL WIND 〜ほほえみは空を渡る〜」(おもひつめて The time I'm seeing you)
 「STAND UP TO THE VICTORY 〜トッパゼットロー〜」(ROCK TRAINにのりまって)
 「Don't Stop! Carry On!」(COOL'S CLOWN)
 「WINNERS FOREVER 勝利者よ」(朝日にむかって)
 「もう一度TENDERNESS」(MOTHER EARTH)
 「ターンAターン」(月下美人)
 「AURA」
 「CENTURY COLOR」
 「月の軌」(涙と雨)

発売 キングレコード	KIDA-14	874円(税別)
発売 キングレコード	KIDS-134	971円(税別)
発売 キングレコード	KIOS-157	971円(税別)
発売 アポロン	APDA-157	903円(税別)
発売 アポロン	APDA-98	971円(税別)
発売 キングレコード	KIDA-179	971円(税別)
発売 ボニーキャニオン	PCDA-00184	900円(税別)
発売 キングレコード	KIDA-191	971円(税別)
発売 キングレコード	KIDA-192	971円(税別)

ALBUM

「機動戦士ガンダムF91オリジナル・サウンドトラック」
 「機動戦士Vガンダム SCORE 1」
 「機動戦士Vガンダム SCORE 2」
 「機動戦士Vガンダム SCORE 3」
 「Vガンダム オリジナルサウンドトラック」
 「Vガンダム オリジナルサウンドトラック 2 ディアナムキエル」
 「Vガンダム オリジナルサウンドトラック 3 ココア」
 「V the concert」(CD+OVOのセット)
 「V the concert」(CDのみ)

発売 キングレコード	KICA-55	2,913円(税別)
発売 キングレコード	KICA-153	2,718円(税別)
発売 キングレコード	KICA-165	2,718円(税別)
発売 キングレコード	KICA-199	2,718円(税別)
発売 キングレコード	KICA-473	2,913円(税別)
発売 キングレコード	KICA-481	2,913円(税別)
発売 キングレコード	KICA-508	2,913円(税別)
発売 キングレコード	KICA-495	5,000円(税別)
発売 キングレコード	KICA-496	2,800円(税別)



「ETERNAL WIND」



「STAND UP TO THE VICTORY」



「もう一度 TENDERNESS」

「機動戦士ガンダムF91
オリジナルサウンドトラック」

「Vガンダム オリジナルサウンドトラック」

「Don't Stop!
Carry On!」「WINNERS
FOREVER 勝利者よ」

「月の軌」



「V the concert」

「Vガンダム オリジナル
サウンドトラック2」「機動戦士Vガンダム
サウンドトラック3」

「CENTURY COLOR」



「ターンAターン」



「AURA」



「機動戦士VガンダムSCORE1」



「機動戦士VガンダムSCORE2」



「機動戦士VガンダムSCORE3」

Mobile Suit Gundam Filmography

機動戦士Vガンダム (TVシリーズ・全51話)

NO	サブタイトル	原案	絵コンテ	演出	作画監督	放映日
01	白いモビルスーツ	横谷誠	佐藤育郎	佐藤育郎	高尾藤博	93/4/2
02	マシンと会った日	園田英樹	岸谷健	江上潔	西村誠芳	4/8
03	クッソの戦い	園田英樹	西森章	高瀬純夫	前田明寿	4/16
04	戦いは誰のために	神戸一彦	岸谷健	西森章	西村誠芳	4/23
05	ゴッソーラの叛乱	園田英樹	西森章	玉田博	谷口守孝、吉田徹	4/30
06	戦士のかげやき	園田英樹	江上潔	江上潔	西村誠芳	5/7
07	キロチンの音	横谷誠	高瀬純夫	高瀬純夫	前田明寿	5/14
08	激闘! 波状攻撃	園田英樹	西森章	西森章	高尾藤博、村瀬敏功	5/21
09	確立ち	園田英樹	佐藤育郎	佐藤育郎	谷口守孝、吉田徹	5/28
10	断罪! シュラク様	園田英樹	西森章	玉田博	西村誠芳	6/4
11	シュラク様の叛乱	横谷誠	高瀬純夫	江上潔	遠坂浩司	6/11
12	キロチンを助けてよ	横谷誠	高瀬純夫	高瀬純夫	前田明寿	6/18
13	ジブラルタル突撃	園田英樹	西森章	西森章	西村誠芳	6/25
14	ジブラルタル攻防	横谷誠	佐藤育郎	佐藤育郎	西村誠芳	7/2
15	スペースダスト	神戸一彦	西森章	高瀬純夫	前田明寿	7/9
16	リオンホース浮上	横谷誠	加瀬元子	江上潔	新保卓郎	7/16
17	帝国の女王	岸谷健 (補正)	岸谷健	加瀬元子	西村誠芳	7/23
18	宇宙高修転	園田英樹	西森章	戸沢剛史	西村誠芳	7/30
19	シャクティを捜せ	神戸一彦	加瀬元子	玉田博	高尾藤博	8/6
20	決戦前夜	横谷誠	佐藤育郎	佐藤育郎	谷口守孝、吉田徹	8/13
21	戦略衛星を叩け	園田英樹	西森章	西森章	新保卓郎	8/20
22	宇宙の虎	園田英樹	加瀬元子	江上潔	新保卓郎	8/27
23	ザンスカール潜入	横谷誠	戸沢剛史	戸沢剛史	西村誠芳	9/3
24	帝都夜訪	横谷誠	西森章	玉田博	村瀬敏功	9/10
25	戦艦と動地へ	横谷誠	西森章	西森章	新保卓郎、飯倉和弘	9/17
26	マリアとウソ	園田英樹	加瀬元子	園田博	西村誠芳	9/24
27	宇宙を走る閃光	園田英樹	戸沢剛史	戸沢剛史	高尾藤博	10/1
28	大脱出	横谷誠	杉真将久	山本裕介	谷口守孝、吉田徹	10/8
29	新しいスーツV2	横谷誠	福田己津央	佐藤育郎	新保卓郎、飯倉和弘	10/15
30	母のガンダム	横谷誠	加瀬元子	玉田博	西村誠芳	10/22
31	モトラッド発進	横谷誠	西森章	藤本直す	前田明寿	10/29
32	ドッゴラ漂流	神戸一彦	戸沢剛史	戸沢剛史	遠坂浩司	11/5
33	海に住む人々	園田英樹	西森章	武井良幸	新保卓郎、飯倉和弘	11/12
34	巨大ローラー作戦	横谷誠	山本裕介	山本裕介	西村誠芳	11/19

■ Vガンダム (TVシリーズ・全50話)

NO	サブタイトル	脚本	絵コンテ	演出	作画監督	放映日
01	月に吠える	星山博之	岸谷健	高橋恒雄	土橋千四郎 菅沼義仁	199 4/9
02	成人式	千葉克彦	岸谷健	森邦宏	佐久間信一	4/19
03	壁の向こう	浅川美也	岸谷健	市原宏	鈴木勝雄	4/23
04	ふるさとの人	高橋哲子	西森章	西森章	佐久間信一	4/30
05	ディアナ降臨	星山博之	豊田正和 岸谷健	岩崎孝夫	戸部孝夫	5/7
06	忘れられた過去	千葉克彦	横山彰利	池澤隆史	しんぼたくろう 中田栄治	5/14
07	襲撃人横行	浅川美也	森邦宏	森邦宏	佐久間信一	5/21
08	ローラの予	高橋哲子	横田和	高橋恒雄	鈴木勝雄	5/28
09	コレン、ガンダムと呼ぶ	星山博之	西森章	西森章	佐久間信一	5/4
10	星祭り	高山由郎	豊田正和 岸谷健	山口英浩	しんぼたくろう 中田栄治	6/11
11	ノックス降臨	千葉克彦	川瀬敏文	池澤隆史	佐久間信一	6/18
12	地下国	星山博之	横田和	杉光一	うのまこと	6/25
13	天上のひと	浅川美也	横山彰利 岸谷健	岩崎孝夫	豊田正和 戸部孝夫	7/2
14	別離、再び	高山由郎	西森章	西森章	しんぼたくろう 中田栄治	7/2
15	思い出は消えて	高橋哲子	岸谷健	高橋恒雄	佐久間信一	7/16
16	Vのすべて	☆ 516 Vのすべて は特撮として放送				7/23
17	結団のダストブロー	浅川美也	森邦宏	森邦宏	鈴木勝雄	7/30
18	キエルとディアナ	高山由郎	豊田正和 岸谷健	山口英浩	佐久間信一	8/6
19	ソシエの戦争	星山博之	川瀬敏文 岸谷健	北川正人	杉光一	8/13
20	アニス・パワー	高橋哲子	西森章	西森章	谷口守孝 吉田崇	8/20
21	ディアナ重戦	星山博之	横山彰利	西森章	しんぼたくろう 中田栄治	8/27
22	ハリーへの決闘	星山博之	森邦宏	森邦宏	戸部孝夫	8/27
23	テラスの遺跡	大河内一樹	工藤敏弘 岸谷健	山口英浩	佐久間信一	9/10
24	ローラの遺状	高橋哲子	金剛寺徳 岸谷健	森邦宏	しんぼたくろう 中田栄治	9/17
25	ワイルダム降臨	太田愛	岸谷健 岸谷健	北川正人	杉光一	9/24
26	追撃! 泣き止む	高橋哲子	小原正和 岸谷健	市原宏	佐久間信一	10/8
27	夜中の夜明け	高山由郎	岸谷健	森邦宏 森邦宏	豊田正和 後藤雅巳	10/15
28	託されたもの	星山博之	西森章	西森章	しんぼたくろう 中田栄治	10/22
29	ソレイユのふたり	星山博之	横田和 岸谷健	山口英浩	佐久間信一	10/28
30	胸にかかえて	浅川美也	工藤敏弘 岸谷健	北川正人	杉光一	10/28
31	追撃! 泣き止む	高橋哲子	小原正和 岸谷健	市原宏	佐久間信一	11/5
32	神話の王	太田愛	横山彰利	池澤隆史	しんぼたくろう 中田栄治	11/19
33	マニーとチュウ	太田愛	高木由紀夫 森邦宏 岸谷健	戸部孝夫		11/26
34	戦へ! 威嚇	高山由郎	川瀬敏文	山口英浩	しんぼたくろう 中田栄治	12/3
35	ザックトレーガー	星山博之	西森章 岸谷健	西森章	しんぼたくろう 中田栄治	12/10
36	ミリンダ宇宙決戦	大河内一樹	市原宏	市原宏	佐久間信一	12/17
37	月世界の門	高橋哲子	横山彰利	池澤隆史	佐久間信一	12/24

155

INDEX

CHARACTERS

<悪>			
アーサー・ユング	26	シレ・クリューガー	28, 91
アグリッパ・メンテナー	73, 133	ジン・ジャハナム	108
アジ太鼓	121	スーパ・リレーン	40, 98, 115
アデスカエウタクトル	129	スエソソ・ステロ	73, 133, 136
アナン少尉	124	ストライカー・イーグル	101
アムス・アムス	128	セシリー・フェアチャイルド (ベラ・ロナ)	25, 98, 99
アルベオ・ビビニエーデン	46, 102	セシリー	128
アンダー・フックの住人	114	セリア・アト	124
アンナマリー・ブルー・ジュ	29, 91	セリ	132
ウィル・グレイム	71, 125	ソフィア・ハイム	81, 118, 132, 136
ウォレン・トレイス	40, 98, 115	ソフィア・エイリネス	108
ウツ・エヴィン	38, 92, 108	ゾン	129
エムズ	125		
エス・デル・チャリ	43, 100	<食>	
エス・ロリータ	128	タシロ・ヴァゴ	50, 109
エリク・クランスキー	41, 108	タルカ	129
オーティス・アーキンズ	43, 100	ディアナ・ソレル	62, 120, 137
オニ・ユング	43, 100	鉄面 (カロッソ・ロナ)	30, 90
オデロ・ベリール	40, 98	テラス・ハル	71, 125, 136
オリファマー・ノイ	43, 99, 108	テベトル	129
		ドナ	132
		トマー・シュ・マザリク	41, 108
		ドレル・ロナ	31, 90, 91
		ドロシー・ムア	27, 88
		ドワイト・カムリ	27, 88
		ドゥカー・イク	48, 102
		ドンキー	128
<獣>			
カテジナ・ルース	45, 93, 99, 115	<魔>	
カレル・マン・ド・カトス	41, 98, 115	ナディア・ロナ	80, 90
ガリー・タン	103	ニョク・ラ	43, 100
カリン・ガ・ウォール	51, 114	ネス・ハッシャー	40, 101
カレル・マザリク	41, 108	ネネカ	114
養育院長	128		
キース・レジェ	68, 120, 137	<探>	
キエル・ハイム	81, 118, 137	ハイム・ス	117
キス・ハール・バグワット	51, 114	ハイランドの子供たち	108
ギム・ギン・ガナム	72, 133	ハメット	132
ギン・バン・グーニー	69, 125	ハリ・オー	63, 120, 136
キャンサー・カフカ	67, 128	ハロ	41, 98
クー・エー	124	ハンケル・グ・エヴィン	108, 115
グエン・サード・ライン・フォード	64, 117	ビル・ギット・ビリョ	89
クッパ・サロモン	101	ファラ・グリフォン	51, 102, 114
クロノ・クル・アシー	44, 93	フェル・アッカマン	68, 120
ケイト・ブッシュ	43, 100	フォン・セ・カガチ	50, 109
ゲトル・デフレ	48, 102	プラス・タイ・エリネス	87, 108
コスモ・エーグス	89	フランチェスカ・オハバ	43, 109
コチン・ハイン	89	フランダー	41, 98
子供たち	128	フラン・ドール	68, 121, 137
コニー・フランシス	43, 100	ブルーノ	70, 124
コレン・ナンドー	70, 124, 129	ベギー・リン	100
		ヘレン・ジャクソン	43, 100
<官>		ヘルター・ロドリゲス	26, 88
サウザン・ジュビター・艦長	89	ベルレーヌ	124, 137
ザビーネ・シャル	28, 91	ボウ・エイジ	66, 120
サム・エルグ	26, 88	ホレス	125
シアア	129		
シー・ブグ・アノー	24, 88	<書>	
ショ・フェアチャイルド	25, 89	マーベット・フィンガー・ハット	42, 99, 108, 115
ソッキネン	136	マイク・アロー・ロア	31, 90
シド・ムンザ	85, 124	マクス・ワーナー	114
シャクティ・カリン	39, 92, 98, 115	マダスの子	114
シュラウ	43, 100, 108	マヘリア・ズリル	100
ジョン・コ・ジェンコ	42, 100		
ジョージ・アズマ	25, 88		
少年兵	133		
ジョセフ・ヨット	65, 117, 136		
ジョン	125		

マリア・ビヤ・アーモニア	50, 109
マヤリト	129
マリガン	68, 125
マルチナ・クランスキー	41, 108
マンテラ・スーン	101
ミーム・ミトカルド	71, 128
ミダグ・マウジン	89
ミハエル・ゲルン	65, 124
ミューラ・ミゲル	38, 108
ミラン・レックス	66, 121
ミリエラ・カタン	43, 108
ムッターマ・スガン	109
ムバラク・スターン	114
ムロン・ムロン	67, 128
メシェー・ウン	64, 117
メッシー・ルーパーベンス	103
メリベール・ガジット	73, 133
モニカ・アノー	25, 89

<ヤ>	
ヤーニ	124
ヤコブ	70, 124
ユカ・マイラス	108
幼子たち	89
ヨロル	129

<ヨ>	
ラダラム・ケン	117
リア・マリバ	89
リイズ・アノー	24, 88
リカ・ミリアティア構成員	101
リリ・ズルジャーノ	68, 124, 137
ルベシノ	46, 102
ルル	128
レアリー・エドベリ	27, 89
レオニード・アルモドバル	43, 100
レズリー・アノー	25, 89
レンジ・デ・バロア	48, 102
ロイ・ユング	89
ロベルト・ゴメス	42, 101
ロメル・マラバロ	43, 100
ロラン・セアラック	60, 116, 132, 136

<ワ>	
ワタリー・ギラ	103

MECHANICS、HAPPENINGS, etc.

<あ>	
アイソラッド	48
アスピーテ	72, 134
アドラスデア	107
アビギル	50, 108
アマルデア	107
アルマイヤー	126
イーゲル	70, 126
移動式高射砲	122
ウアッド	71, 119
Vガンダム	38, 82
Vガンダム・ヘキサ	42, 104
Vダッシュガンダム	38, 104
V2ガンダム	39, 104
V2アサルトガンダム	39, 113
V2アサルトバスターガンダム	113
V2バスターガンダム	39, 113
ウィルゲム	64, 130
ウォドム	66, 119
通河溝橋用潜水艦	134
エビル・B	31, 85
エンジェル・ハイロゥ	51, 113
オーパーヘッドホーク	97
大型航行船	122

<か>	
カイラスギリー	107
カウランド	105
核爆弾	130
カフル	65, 123, 130
カフル(コレン戦)	71
カミオン	96
ガリクソフ	96
カリスト	107
ガルクイユ	49, 95
ガンイージ	43, 96
ガンダムF91	24, 82
ガンタンクR-44	26, 83
ガンブラスター	40, 104
ギガリイ	111
キャノン・イルフート	71, 127
ギャロップ	84, 130
強化型ウォドム	130
グドラフ	48, 108
ゲンバオン	51, 112
コア・ブースター	41
コア・ファイター(V)	92
コア・ファイター(V2)	104
コア・ファイター(V)	136
高射砲	122
ゴッソー	70, 126
ゴッソー	46, 84
ゴドウィン	131
ゴトラタン	45, 112
近衛組用リグ・シャッコ	112
コンティネ	44, 106

<さ>	
サウザン・ジュピター	67
ザムス・ギル	25, 87
ザムス・ガル	31, 86
ザムス・ジェス	31, 87
ザムス・ナーダ	28, 87

サントージュ	47, 106	ホワイトアーク	105
ザンスカル宇宙艦隊	107		
ザンネック	50, 110	<変>	
Gキャンノ	27, 82	マヒロー	72, 134
ジェムズガン	43, 96	ミリシャ新型戦艦	138
ジェガン	27, 83	メッドローザ	61, 95
シャイターン	50, 106	メリリン	107
シャッコウ	45, 84	モトラッド艦隊	49, 107
シャバコ	48, 110	モビルリブ	87, 123
シャベリノ	42, 105		
ジャンダリム	134	<変>	
シノーベ	107	輸送グライダー	138
ズザン	73, 138		
スペース・アーク	27, 86	<変>	
スペース・ボート	87	ラフレリア	30, 86
スモー	53, 123, 130	リーンホース	105
スモー(ハリー機)	62, 127	リーンホースJr	105
セッターH92E	97	リカルル	98
経路(イク)	96	シンデア	107
豪華車	122	リダ・コンティオ	44, 112
潜水艇	122	リダ・シャッコウ	45, 106
ソリティア	47, 110	ローラローラ号	139
ソレイユ	52, 126		
ソロ	44, 94	<変>	
ソロ放	111	ワゴン車	138
ソロアット	47, 106	ワッパ	97
<変>			
ターンK	72, 138		
マガンダム	60, 118, 139		
対空機銃	122		
タギ・イルス	29, 85		
砲台機	122		
TV車	139		
デギ・イルス	29		
デナン・ゲル	28, 85		
デナン・ゾン	28, 85		
発光器	122		
ドッゴラ	49, 110		
トップ・ファイター(V)	92		
トップ・ファイター(V2)	104		
ドムットリア	49, 111		
ドムリアット	46, 94		
<変>			
バグ	87		
発電車	122		
バンデット	73, 135		
ビギナ・ギナ	25, 84		
ヒップヘビー	122		
ビルゲナウ	47, 112		
フラット	68, 118, 130		
ブルッケング	46, 110		
ブルワン	122		
ヘビー・ガン	26, 83, 105		
ベルガ・ダラス	30, 84		
ベルガ・ギロス	28, 84		
ベロナ	67, 135		
ホエールズ	138		
ボトム・ファイター(V)	82		
ボトム・ファイター(V2)	104		
ボルジャーノ	69, 127		
ボルジャーノ(ギャン機)	69, 127		

•publisher
 SHIN-ICHIRO INOUE
 •editorial operation
 IKUKO ENOMOTO
 •editor
 KOICHI NUMATA
 •contributed writers
 KOICHI INOUE
 HARUTOSHI FUKUI
 HIROMI MURASE
 ISAKU OKABE
 •writers
 SHINSUKE NAKAJIMA
 HIROSHI ODAGIRI
 OSAMU NAGASHIMA
 RYOTA FUJITSU
 TAKUYA SAITO
 ATSUKO IWASAWA
 •art associates
 ICHIRO KAMEI
 •art direction
 YOSHINORI FUTAGAMI (King of Design)
 •design
 ATSUSI IMAIZUMI (King of Design)
 •DTP works
 LOYAL DIGITAL PLANNING CO.,LTD
 •thanks
 SUNRISE
 BANDAI VISUAL
 KING RECORD
 •cover illustration
 YUJI KAIDA

GUNDAM

EPISODE GUIDE ⑤

The New Century UNIVERSAL CENTURY 123-153/CONQUEST CENTURY 2345

機動戦士ガンダム エピソードガイド vol.5 新世紀編

ニュータイプ 編

2001年3月30日初版発行

発行人 井上伸一郎

発行所 株式会社角川書店
 〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
 営業03-3238-8530 編集03-3238-8533
 編集03-3238-8530 印刷03-3238-8533

装丁デザイン/ケンウ・オブ・デザイン
 印刷/大日本印刷株式会社
 製本/株式会社宮田製本所



〒〒-版下本は二面張でも小仕算見部受をセマ 読者様宛に お送り します
 印刷は小仕算部でも取り扱っています

新通エディター/ケンウ・オブ・デザイン
 新通エディター/ケンウ・オブ・デザイン
 新通エディター/ケンウ・オブ・デザイン
 Printed in Japan
 ISBN 4-04-0072-0-0 C0076

EPISODE GUIDE



The New Century

UC 123-153

CG 2345

GUNDAM



GUNDAM

EPISODE GUIDE



The New Century

OCT 23-153

CD 2015



GUNDAM

The New Century  

ISBN4-04-853072-0 C0076 ¥1800E

定価:本体1800円(税別) 角川書店



9784048530729



1920076018008

THE NEW CENTURY GUIDE
TO THE
NEW YORK PUBLIC LIBRARY
ASTOR LENOX TILDEN FOUNDATION
500 FIFTH AVENUE
NEW YORK 10017

卷八